




スズキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

車は取扱いを誤ると事故や故障の原因となります。正しい取扱いをご理解いただくため運転する前に、必ず取扱説明書をお読みください。そして安全で快適なバイクライフをお楽しみください。

またメンテナンスノートもぜひお読みください。

- この取扱説明書には、お車の正しい取扱いがた、安全な運転のしかた、簡単な点検、整備の方法などについて説明してあります。
- 「必読!安全運転のために」および次のシンボルマークで示したところは重要ですので、しっかりお読みください。

 警告	取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性がある危害の程度を示しています。
 注意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある危害の程度を示しています。
注記	取扱いを誤った場合、物的損害の発生する危害の程度を示しています。
 アドバイス	お車のために守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを示しています。

お車受け取りの際は、お買いあげいただいたスズキ販売店より取扱説明書、メンテナンスノートを受け取り、下記の説明を受けてください。

- ◇ お車の正しい取扱い方法
 - ◇ 日常点検、定期点検
 - ◇ 保証内容と保証期間
 - ◇ 保証書の発行《保証書登録票の記入・捺印》
 - お車を譲られるときは、次に所有される方のためにこの取扱説明書とメンテナンスノートをお渡しください。
 - 仕様の変更などにより、この取扱説明書の内容とお車不一致な場合があります。ご了承ください。
- ☆ この車は、平成32年排出ガス規制適合車です。

もくじ

必読！ 安全運転のために	安全のために心がけること ... 4	使用燃料 26	改造について 32
	運転の前に 16	アクセサリの取り付けや 積載について 27	
	ブレーキについて 22		
取扱いの方法	装備一覧 34	ガソリンの給油 238	書類入れ 261
	メータの見かた 52	シフトペダル 242	スタンド 262
	運転アシストシステムの 設定 198	ブレーキレバー 252	サスペンション 264
	メインスイッチ 218	リヤブレーキペダル 254	USB ソケット 273
	ハンドルスイッチ 225	シート 254	ETC2.0 車載器 275
	エンジンのかけかた 231	ヘルメットホルダ 258	
		ラゲッジストラップ 260	
お車の点検および 簡単な整備	点検と整備 304	スパークプラグ 333	タイヤ 380
	日常点検と定期点検 307	エアクリーナ 334	サイドスタンド / インタロックシステム 387
	サービス工具、 ヘルメットワイヤ 312	エンジンオイル 341	ヒューズ 388
	フェアリング 313	冷却水 350	灯火装置、 方向指示器 396
	フューエルタンク 319	ドライブチェーン 356	故障診断カブラ 396
	注油 324	クラッチ 364	
	バッテリー 326	ブレーキ 365	
		シフトペダル 378	

<p>トラブル シューティング</p>	<p>トラブルシューティング とは 398 エンジンが かからないときは 398</p>	<p>オーバーヒート しているときは 400 油圧が 下がっているときは 402</p>	<p>メータに次の表示が 出たときは 404 お車が次の状態の ときは 405</p>
<p>お車の手入れ</p>	<p>保管のしかた 406 長期保管後は 408</p>	<p>サビを防ぐために 409 洗車 411</p>	<p>洗車後は 419</p>
<p>インフォメーション</p>	<p>触媒装置 420 車両の情報記録装置 421</p>	<p>識別ナンバー 打刻位置 424</p>	<p>環境を 保護するために 427</p>
<p>サービスデータ</p>	<p>主要諸元 430</p>	<p>サービスデータ 432</p>	

必読！安全運転のために

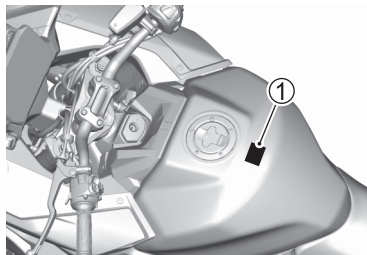
安全のために心がけること

■ 事故や故障を避けるために

この章にあげた、日常走行する上での基本的な注意事項を守り、安全運転を心がけてください。

車の購入当初は、誰でも細心の注意をはらって運転しますが、なれるに従い注意を怠ってしまいます。事故防止のため、いつも細心の注意をはらって運転しましょう。

- ◇ 重要な事項を書いたラベル ① が車に貼られています。運転するときは、これらの注意をいつもお守りください。また、決してはがさないでください。



- 転倒などの際のけがを最小とするため、ヘルメットや手袋などの保護具を正しく着用してください。
- 取扱説明書をよくお読みください。

- ◇二輪車の事故は他の運転者から気づかれな
いことが要因で起きることがあります。次の
ことに注意して運転してください。
 - 明るい昼間でもヘッドランプやテールラ
ンプを点灯する
 - 他の運転者の死角に入らない
- ◇運転中は両手でハンドルを握り、足をフット
レストに置いてください。同乗者には両手で
身体をしっかり固定させ、足を後席用フット
レストに乗せさせてください。
- ◇急激なハンドル操作や片手運転は、横すべり
や転倒の原因になりますので絶対にしない
てください。
- ◇荷物の積載は、操縦安定性に影響を与えま
す。積み過ぎに注意して安全な速度で運転し
てください。荷物をのせるときは「積載につ
いて」(P.29)を参照してください。

<点検整備をしましょう>

事故や故障を未然に防ぐため、日常点検と定期点検を必ず実施してください。

もし、いつもと違う音やにおいがしたり、液漏れした場合などは、スズキ販売店で点検を受けてください。日常点検と定期点検については「日常点検と定期点検」(P.307)を参照してください。

▲警告

スピードの出しすぎによって、操縦のコントロールを失う可能性が高くなります。その結果、事故につながるおそれがあります。

走行時の路面、視界、操作状況やあなたの技量、経験に適した速度で走行してください。

▲警告

運転中にハンドルから手を離したり、フットレストから足を離したりすると操縦性に影響がでます。その結果、バランスを失ったり転倒を引き起こしたりするおそれがあります。フットレストから足を離すとリヤホイールに接触するおそれがあります。その結果、傷害や事故を引き起こすおそれがあります。

運転中は必ず、両手でハンドルを握り、両足をフットレストに置いてください。

■ 安全な運転は正しい服装から

<概要>

運転者と同乗車は必ずヘルメットを着用し、保護性が高く運転のしやすい服装や保護具を着用してください。次の内容を参考にご用意ください。

<ヘルメット>

- ヘルメットを必ず着用してください。PSC、SGまたはJISマークのある二輪車用ヘルメットを必ずかぶり、あごひもをしっかり締めましょう。ヘルメットは頭にしっかり合って圧迫感のないものをお選びください。

- ヘルメットシールドまたはゴーグルを着用してください。風から視界を確保できるだけでなく、空気中の虫、ホコリ、前を走っている車が巻き上げる小石などからも目を守ります。

▲ 警告

ヘルメットは、正しくかぶらないと事故の際に死亡または重大な傷害を負う可能性が高くなります。

ヘルメットを正しくかぶってください。運転者だけでなく、同乗者も必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

<適切な服装>

- 保護具や保護性の高い服装を着用してください。服装は明るく目立ち、体の露出の少ない長袖、長ズボンを着用しましょう。万一のとき身体への衝撃を軽減します。また、運転を阻害するような服装はやめましょう。そで口の広い服や、すそ広のズボンなどのゆったりした服装は運転操作の邪魔になります。
- グローブを着用してください。グローブは摩擦に強い皮製が適しています。
- 運転操作のしやすいくるぶしまで覆う靴をはいてください。
- 必要に応じてプロテクタを備えたジャケットやパンツを着用してください。

▲警告

後席の人が背丈の長いジャケットやコートを着用するとテールランプやターンシグナルランプが覆い隠されて、後続車に認識されず危険です。

後席に乗る人は、背丈の長いジャケットやコートをできるだけ着用しないでください。着用する場合は、すそをお尻の下に敷くなどして、テールランプやターンシグナルランプが隠れないようにしてください。

<同乗者の装備>

二人乗りするときは、同乗者も運転手と同じようにヘルメットと保護具を着用してください。同乗者の服がホイールやチェーンなどに巻き込まれるおそれがありますので、スカートやゆったりしたズボンなどは避け、靴紐にも注意してください。

■ 環境に合わせた運転をしましょう

<風が強い日は>

横風が強いとき、トンネルの出口や橋の上、あるいは大型トラックに追い越されたり追い越したりするときは、横風を受けて車が流されることがあります。

スピードを抑え、ハンドルをしっかり握って運転しましょう。

▲ 警告

大型の車両に追い越されたりトンネルの出口や丘陵の多い土地では、突然横風を受けたり、運転のコントロールを失なうことがあります。

速度を落とし、横風に警戒してください。

<雨の日や雪の日は>

- 濡れた道、荒れた道、やわらかい道はすべりやすいので、急加速、急減速、急ブレーキは避けてください。また、これらの道は制動距離がのびるため、ふだんよりスピードをおとして、早めにブレーキをかけてください。雨が降ると道路にしみこんでいた油分が道路に浮き上がりますのですべりやすくなっています。路面標示、マンホール、グレーチング(溝のふた)、橋のつなぎ目などの金属部、線路などもすべりやすくなっていますので、特に注意してください。

- コーナリング時のブレーキングは挙動が不安定になります。コーナーに差し掛かる前に十分にスピードを落としましょう。タイヤと路面の間の摩擦力には限界がありますので、限界を超えた場合にはタイヤがすべり、コントロールを失って転倒するおそれがあります。

▲ 警告

すべりやすい路面で強いブレーキをかけるとホイールが横すべりし転倒するおそれがあります。

すべりやすい路面では、ブレーキは慎重にかけてください。

アドバイス

- 濡れた路面ではスリップしやすいので急激なブレーキは避け、スピードを落として余裕をもったブレーキ操作をしましょう。
- 洗車後や水たまり走行後は、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。

<冠水した道は>

冠水した場所は走行しないでください。

万一、冠水した場所を走行した時は、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店にご連絡ください。

また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- コネクタ、配線の浸水
- ベアリングなどの潤滑不良
- エンジンオイルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますので、オイル交換が必要です。）

注記

冠水した場所や深い水たまりを走行しないでください。

エンスト、電装品の故障、エンジンの破損などの原因となります。

■ お車になれるまでは

運転技術と機械的な知識を身につけることが、安全に運転するための基本です。安全に運転するためにも、お車をお買いあげいただいた直後は、交通量の少ない場所でお車の運転と操作になれることをおすすめします。

■ 乗車定員

乗車定員は、2名です。

定員をこえての走行は危険ですので、絶対にお止めください。

<二人乗りの手引き>

二人乗り(タンDEM)は、二輪車ならではの感覚を楽しみ、共有できる乗り方ですが、同乗者の体重はハンドリングとブレーキングに影響するため、一人乗りのときとは乗り方を変えなければなりません。

二人乗りする場合、必要に応じて次の項目をご確認ください。

- 空気圧の点検：(P.383) 参照
- リヤショックアブソーバ：(P.270) 参照
- 積載について：(P.29) 参照

走行前に同乗者の足がフットレストに届くかを確認してください。また、安全に運転するためには、同乗者も二輪車の動きや同乗者としての乗り方を知っておく必要があります。同乗者に次の内容を事前に理解してもらってください。

- 同乗者は運転手の腰回りをつかむか、タンデムベルトやグラブバーがある場合にはそれらをつかんで体を安定させます。
- 同乗者は、運転手がバランスを崩す原因になるため、突然動かないようにしてください。また、カーブを曲がる時には、運転手に合わせて体を傾けるようにしましょう。
- 同乗者は、足がマフラなどに触れてやけどをしないために、信号などで停車するときにも足はフットレストにのせたままにしてください。乗り降りのときにも触れないように注意しましょう。

■ 一酸化炭素について

一酸化炭素中毒を防ぐために、風通しのよい場所でエンジンをかけてください。

排気ガスに含まれる一酸化炭素は、無色・無臭のために発生に気づきにくい気体です。一酸化炭素中毒になると、軽度の場合は頭痛や吐き気からはじまり、重度になると致命傷に致る危険性があります。

▲ 警告

閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所ではエンジンをかけないでください。

排気ガス中の一酸化炭素などの有害な成分により、中毒になるおそれがあります。

■ 交通ルールを守りましょう

運転するときは、交通ルールを順守してください。礼儀やマナーのある運転を行い、他の運転手の模範になれるようにしましょう。

■ まとめ

事故を回避するには環境に応じた判断力と注意力が必要です。交通状況はもちろん、路面や天候に加え、お車の状態も変化します。また、他の車の動きは予測しにくいいため、常に注意を払いましょう。

なれていない運転方法や無茶な運転は、事故の原因になります。

ヘルメットや保護具はしっかりと着用しましょう。

運転の前に

■ ならし運転

<概要>

新車時からの最初の1,000 kmは、車の寿命にとって最も大切な期間です。この期間に正しくならしをすることによって、寿命をのばし、本来の性能を得ることができます。

ならし運転中は、不必要な空ぶかしや急加速、急減速、急ハンドル、急ブレーキは避けてください。

ならし運転については、次の手順を参照してください。

<エンジン回転数の限度>

最初の1,000 kmを走行するまでは、エンジン回転5,500 r/min以下で走行してください。

<ならし運転のコツ>

ならし運転中のエンジン回転数には、変化をつけるようにしてください。回転数に変化をつけることで部品にかかる負荷が変わり、部品に当たりをつけることができます。エンジン部品に当たりをつけるために、ある程度の負荷は必要ですので回転数の限度をこえない範囲で運転してください。

<タイヤを交換したとき>

新しいタイヤは、エンジンと同じように本来の性能を引き出すためには、ならしが必要です。新しいタイヤはスリップしやすいので、最初の160 kmは、できるだけ倒す角度を小さくしてください。最初の160 kmを超えてからは、倒す角度を徐々に大きくして、ならしてください。また、最初の160 kmまでは、急加速、ハードなコーナリング、急ブレーキを避けてください。

▲警告

新品のタイヤはすべりやすいため、タイヤのならし運転を適切に行わないと転倒するおそれがあります。

新品タイヤ装着時は「ならし運転」(P.16)を参照して、約160 km走行するまでタイヤのならし運転を行ってください。

■ 坂道では

<坂道での走りかた>

- 高いギヤで急な坂を登っていると、出力が不足してスピードが落ちるときがあります。スピードが落ちる前に低いギヤにシフトダウンしましょう。スピードが落ちすぎる前に素早くシフトしてください。
- 長い下り坂では、エンジンブレーキを併用しましょう。スロットルグリップを戻すことによってエンジンブレーキがはたらきます。より強いエンジンブレーキを必要とするときは、6速→5速…とシフトダウンします。長い間ブレーキをかけ続けるとブレーキが加熱して効きが悪くなりますので、注意してください。

- 下り坂でのエンジン回転のあがりすぎには注意してください。

▲ 警告

長い下り坂などでは、エンジンブレーキを併用し、連続的なブレーキ操作は避けてください。ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

— 注 記 —

上り坂などで、アクセル操作やクラッチレバー操作でバランスを取るなどして車を停止させようとししないでください。

クラッチが過熱し、故障の原因となります。

■ 停車時や駐車時は

<停めかた>

車から離れるときは、盗難抑止のため必ずハンドルをロックし、キーは抜いてお持ちください。「メインスイッチ」(P.218) 参照

- 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- 違法駐車はしないでください。
- 車は平坦でしっかりした地面の場所に、ハンドルを左にきって駐車してください。ハンドルを右にきった状態での駐車は避けてください。

- やむをえず傾斜地、砂利の上、でこぼこなところ、やわらかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、車が転倒したり、動いたりしないように十分注意してください。
- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどに触れないでください。
- 他の人がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

▲警告

マフラに内蔵されている触媒装置は高温になりますので、駐停車したときに燃えやすいものが近くにあると、火災の原因となるおそれがあります。

駐停車するときは、車の周りに枯れ草、木材、紙、油脂類などの燃えやすいものがないことを確認してください。

▲注意

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このときに触れるとやけどを負うおそれがあります。

歩行者や子供などが触れにくい場所に停めてください。

🔑アドバイス

盗難抑止のため、必要に応じてU字ロック等の盗難抑止ロックをしてください。盗難抑止ロックは車両を動かす前に、必ず外してください。

アドバイス

斜面でサイドスタンドを使用して止めると倒れるおそれがあるので、平坦な場所に止めることをおすすめします。斜面に止めざるを得ない場合は、お車の正面を坂の上に向けて止め、タイヤを固定するためにギヤを1速に入れてください。エンジンをかけるときは、ニュートラルにシフトしてください。

■ 車を押して移動するとき

車を押して移動するときは、メインスイッチをOFFにしてください。

ブレーキについて

■ ABSとは

ABSは、走行中ブレーキをかけたときにホイールがロックしないように制御する装置です。

ブレーキの操作方法は、ABSを装備していない車と同様にブレーキレバーおよびブレーキペダルで行います。

ABSは、電子制御でブレーキ圧をコントロールしています。このシステムはホイールの回転速度を監視しており、ホイールロックを検知したときにブレーキ圧力を下げることによってホイールロックを防ぐ働きをします。また、8 km/h未満の低速時やバッテリーが上がっている場合を除き、常に作動しているため、特別な操作は必要ありません。

ブレーキをかけた時にABSがホイールのロックを防いでいるときには、ブレーキレバーやブレーキペダルが軽く振動しますが異常ではありませんのでそのままブレーキをかけ続けてください。

なお、ABSは、判断ミスや操作ミス、また路面や気象条件によってはABSを非装備の車より制動距離が長くなる場合があります。ABSに頼りすぎないようにしてください。

タイヤサイズを変えるとホイール回転数に影響を与え、正常に機能しないおそれがありますので、必ず指定タイヤ（P.381）をご使用ください。

▲警告

ABSはすべての路面状況に対応できるものではありませんので、誤った判断や操作をすると事故の原因になるおそれがあります。

路面や気象条件に合わせた運転を行ってください。

アドバイス

ABSは制動距離を短くするものではありません。濡れた路面や雪道、でこぼこ路や下り坂などでは、ABSが付いていない車より制動距離が長くなる場合があります。またABSが付いていない車と同様に路面がすべりやすくなるほど制動距離が長くなります。

■ ブレーキのかけかた

1. スロットルグリップを戻します。
2. フロントとリアのブレーキを同時に使い、エンジンブレーキを併用します。
3. 速度に合わせてシフトダウンします。
4. 停止する前にクラッチを切り、ギヤをニュートラルに入れます。

▲ 警告

急ブレーキや急なシフトダウンは走行安定性を損ない、横すべりや転倒の原因になるおそれがあります。

不必要な急ブレーキや急なシフトダウンは避けてください。特に、車体が傾いているとき、すべりやすい路面や整備されていない路面では、より注意が必要です。

▲ 警告

フロントブレーキまたはリアブレーキのどちらか一方だけを使用すると制動力を効果的に得られず、衝突やスリップ、バランスを崩すおそれがあります。

制動力を効果的に得るためにはフロントブレーキとリアブレーキを同時にかけてください。

▲警告

ABSを装備、非装備に関係なくコーナリング中に強いブレーキをかけるとスリップやバランスを崩すおそれがあります。ABS装備車でもコーナリング中の強いブレーキによる横すべりは制御できません。

コーナーの手前では十分に減速してください。

▲警告

濡れた道、荒れた道、やわらかい道はすべりやすいため、制動距離が長くなるだけでなくスリップやバランスを失うおそれがあります。

すべりやすい路面や整備されていない路面では、ブレーキは早めに、また慎重にかけてください。

▲警告

前方車両との車間距離が短いと衝突するおそれがあります。

安全に止まれるように十分な車間距離をとって走行してください。

使用燃料

無鉛プレミアムガソリン(無鉛ハイオク) を使用してください。

不適切な燃料はエンジン内部、スパークプラグや排気系部品の耐久性に影響を与えます。

使用燃料 : 無鉛プレミアムガソリン
(無鉛ハイオク)

タンク容量 : 19 L

注記

指定以外の燃料や不適切な添加剤は、エンジン、燃料装置、触媒装置に損傷をあたえるおそれがあります。

無鉛レギュラーガソリン、粗悪ガソリン、有鉛ガソリン、その他アルコール系の燃料や不必要な添加剤などは入れないでください。

アクセサリの取り付けや積載について

アドバイス

加速不良やエンジン出力が出ないなどのエンジンの不調が起きるときは、使用しているガソリンが原因の場合があります。

そのときは、給油するガソリンスタンドを変えてみてください。ガソリンスタンドを変えても症状が改善しないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

■ アクセサリについて

<選び方>

不適切なアクセサリが取り付けられた場合、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。安全に運転するためにもスズキ純正アクセサリを推奨します。スズキ販売店ではお車に適合したアクセサリの取り付けができますので、装着の際にはスズキ販売店にご相談ください。

アクセサリを選ぶときは、アクセサリの重量も考慮に入れてください。アクセサリによる重量増加は、ライディングの安全だけでなく走行安定性にも影響をおよぼします。

▲警告

不適切なアクセサリの取り付けや改造は、操作性に影響を与え、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。次のことをお守りください。

- 運転前に、アクセサリが適切に取り付けられているかを確認してください。
- 部品やアクセサリは、純正部品もしくはこの車に合わせて作られたものを使用してください。
- 取り付けや使用方法については、アクセサリ付属の説明書に従ってください。
- 疑問な点がありましたらスズキ販売店にご相談ください。

<取り付け方と注意点>

- カウリング、ウインドシールド、バックレスト、サドルバッグ、トラベルトランクなどの風の影響を受けるアクセサリは、できるだけ低くかつ車体の重心位置が変わらないように取り付けてください。マウントブラケットおよび他の取付金具は強度があり、ゆるみにくいものを使用してください。
- 最低地上高およびバンク角を点検してください。アクセサリが、サスペンションやステアリングなどの作動に影響していないことを確認してください。
- トレーラーやサイドカーを牽引するには設計されていないため、トレーラーやサイドカーを牽引しないでください。

- ハンドルやフロントフォークにアクセサリを取り付けると、操作性を損なうおそれがあります。重量の増加は操作性を損なうだけでなく、前輪の振れや走行安定性の悪化の原因となります。ハンドルバーやフロントフォークにアクセサリを取り付ける場合は、できるだけ軽く最小限のものにとどめてください。
- アクセサリによっては、正常なライディングポジションが取れなくなり、操縦性を悪化させる原因になります。正常なライディングポジションが取れることを確認してください。
- 電装アクセサリによっては、大きな負荷によってワイヤハーネスが損傷し、運転中にエンジンが停止するなどの危険な状態を引き起こす可能性があります。スズキ純正アクセサリをご使用ください。

■ 積載について

荷物を積むと、積まないときにくらべ操縦性・安定性が変わります。

▲ 警告

過積載や、不適切な積み方は車体のバランスを失う原因になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

この取扱説明書の積載限度および積載のガイドラインに従ってください。

<積載のガイドライン>

この車は同乗者を乗せていないときは、リヤシートに小さい荷物をのせることができるように設計されています。荷物をのせる場合には、次のガイドラインに従ってください。

- 荷物をリヤシートに積むときは、荷物をゴムバンドなどでしっかり固定し、積み過ぎないようにしてください。
- サドルバッグなどを取り付けて荷物をのせるときは、車体の左右に均等に振り分けて積み、しっかりと固定してください。
- 荷物はできる限り少なくし、車体の中心に近い場所に積んでください。
- 必要に応じてサスペンションのセッティングを調整してください。

- 大きな物や重い積載物は、ハンドルバー、フロントフォーク、リヤフェンダーに取り付けられないでください。
- 荷物入れや荷台ボックスを、テールエンドから車体の外に突き出して取り付けられないでください。
- テールエンドから車体の外に突き出るものはのせないでください。
- 積載方法が悪いと、バランスを失わせ、車の操作性に影響を与えます。荷物をのせているときやアクセサリを取り付けた状態で運転するときは、通常より速度を落として運転してください。

- 前後のタイヤとも、適正な空気圧に調整してください。

タイヤ空気圧(冷間時)：

前輪：250 kPa (2.50 kgf/cm², 36 psi)

後輪：290 kPa (2.90 kgf/cm², 42 psi)

▲警告

高温のマフラやエンジンなどに荷物が触れると、荷物や車両の火災の原因となるおそれがあります。

荷物を積むときは、高温になるところに荷物が触れないようにしてください。

▲警告

フェアリングとハンドルの間に物を置くと、ハンドル操作に悪影響を与えます。

ハンドル操作を妨げるところに、物を置かないでください。

改造について

不正改造はやめましょう。

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪くしたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることとなります。このような改造は法律に触れるばかりでなく、他の人の迷惑となります。

車の改造は保証の適用を除外されますのでご了承ください。

- この車は、排出ガス規制適合車です。車両には排気ガスを浄化する触媒装置が搭載されています。マフラーを変更すると、排出ガス規制に適合しなくなるおそれがありますので、マフラーを交換する場合はスズキ販売店にご相談ください。
- マフラーには、スズキ純正部品を表す“SUZUKI”マークが刻印されています。
- 自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わないでください。エンジン調整はスズキ販売店にご相談ください。
- あなたのお車に適したスズキ純正部品および指定・推奨油脂類をお使いいただくことをおすすめします。純正部品は厳しく検査し、スズキ車に適するように作られています。

- お車に荷物やアクセサリを取り付けるときは、積載限度を守ってください。

▲ 警告

アルミ合金フレームの改造は安全性を低下させ、事故につながるおそれがあります。

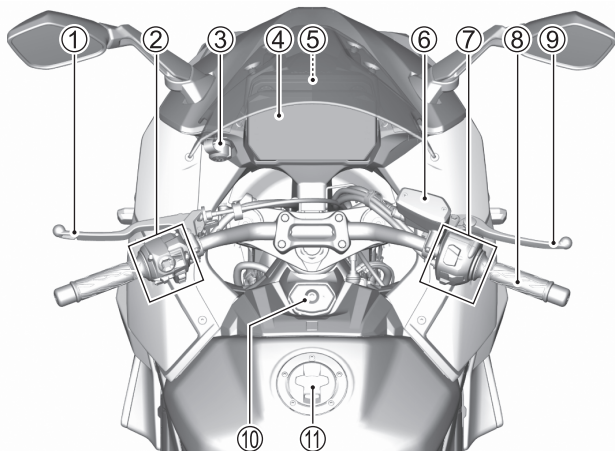
穴あけや溶接など、強度を低下させてしまうような改造は行わないでください。

取扱いの方法

装備一覧

■ 各部の名称

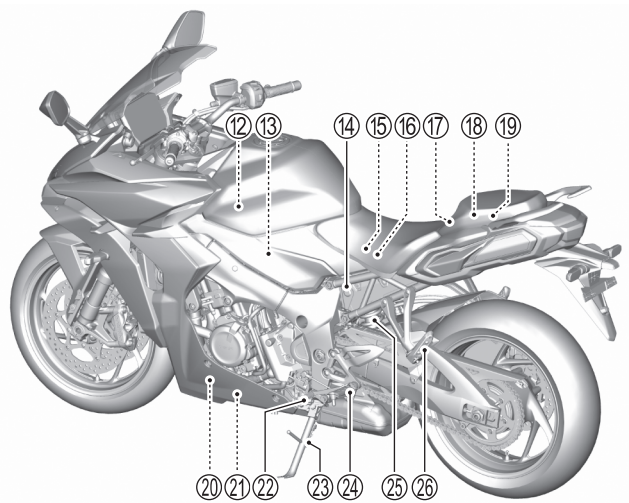
ハンドル周り(GSX-S1000GT)



ハンドル周り(GSX-S1000GT)

- ① クラッチレバー (👉P.364)
- ② 左ハンドルスイッチ (👉P.40)
- ③ USB ソケット (👉P.273)
- ④ メータ (👉P.42)
- ⑤ ETC アンテナ
- ⑥ フロントブレーキリザーバタンク (👉P.366)
- ⑦ 右ハンドルスイッチ (👉P.40)
- ⑧ スロットルグリップ
- ⑨ ブレーキレバー (👉P.252)
- ⑩ メインスイッチ (👉P.218)
- ⑪ フューエルタンクキャップ (👉P.238)

車両左側(GSX-S1000GT)

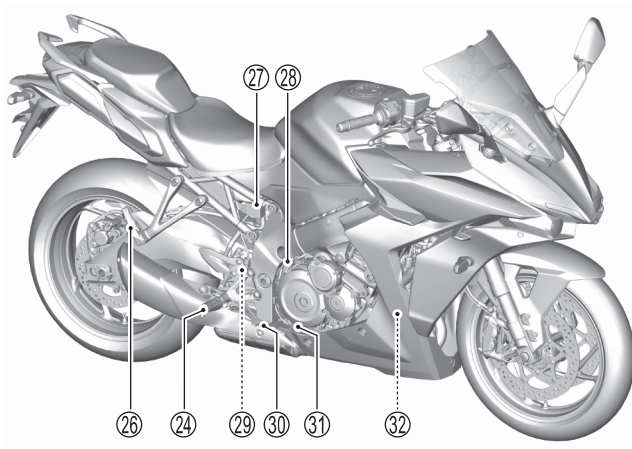


車両左側(GSX-S1000GT)

- ⑫ エアクリーナ (P.334)
- ⑬ エアクリーナドレンチューブ (P.340)
- ⑭ シートロック (P.256)
- ⑮ バッテリ (P.326)
- ⑯ ヒューズ (P.388)
- ⑰ ヘルメットホルダ (P.258)
- ⑱ サービス工具、ヘルメットワイヤ (P.312)
- ⑲ ETC2.0 車載器 (P.275)、ETC ヒューズ (P.393)
- ⑳ エンジンオイルフィルタ (P.341)
- ㉑ エンジンオイルドレンプラグ
- ㉒ シフトペダル (P.242) (P.378)
- ㉓ サイドスタンド (P.262)
- ㉔ フットレスト
- ㉕ リヤサスペンション (P.270)
- ㉖ 後席用フットレスト

取扱いの方法

車両右側(GSX-S1000GT)

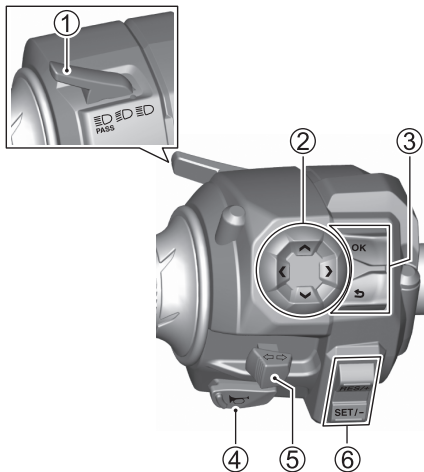


車両右側(GSX-S1000GT)

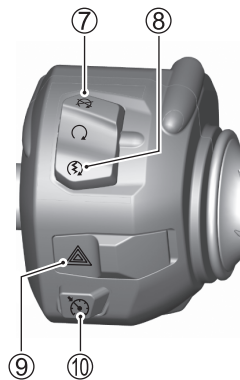
- ⑳ リヤブレーキリザーパタンク (P.366)
- ㉑ エンジンオイル注入口 (P.348)
- ㉒ リヤブレーキランプスイッチ (P.376)
- ㉓ リヤブレーキペダル (P.374)
- ㉔ エンジンオイル点検窓 (P.346)
- ㉕ 冷却水リザーパタンク (P.350)

取扱いの方法

ハンドルスイッチ




左ハンドルスイッチ



右ハンドルスイッチ

左ハンドルスイッチ

- ① ディマスイッチ / パッシングスイッチ (☞P.225)
- ② セレクトスイッチ  /  /  /  (☞P.227)
- ③ モードスイッチ **OK** /  (☞P.227)
- ④ ホーンスイッチ (☞P.227)
- ⑤ ターンシグナルスイッチ (☞P.228)
- ⑥ クルーズスピードスイッチ **RES/+** / **SET/-** (☞P.227)

右ハンドルスイッチ

- ⑦ エンジンストップスイッチ (☞P.229)
- ⑧ スタータスイッチ (☞P.230)
- ⑨ ハザードスイッチ (☞P.230)
- ⑩ クルーズコントロールスイッチ (☞P.210)

取扱いの方法

メータ、警告灯、インジケータライト

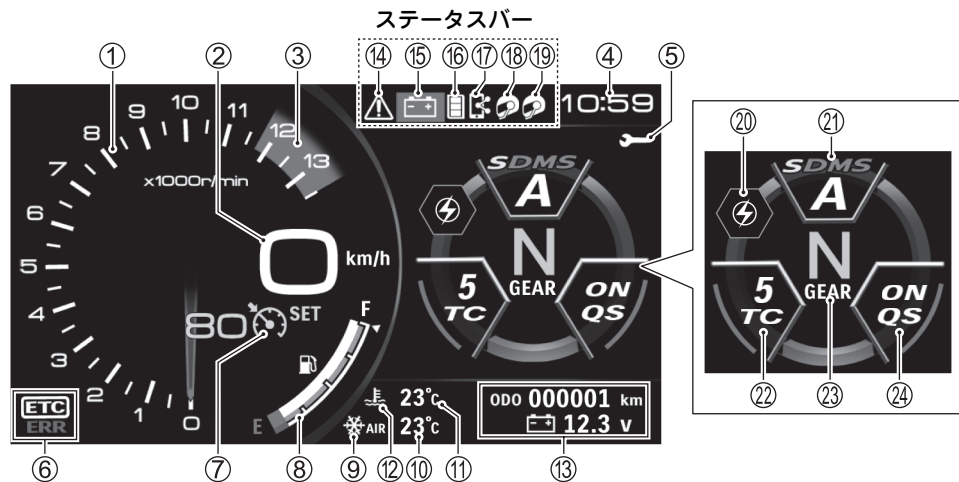


- ① エンジン警告灯 (MIL) (P.59)
- ② ターンシグナルインジケータライト (P.55)
- ③ エンジン回転インジケータライト (メイン) (P.56)
- ④ エンジン回転インジケータライト (サブ) (P.56)
- ⑤ 光センサ (P.66)
- ⑥ TC インジケータライト (P.57)
- ⑦ ニュートラルインジケータライト (P.58)
- ⑧ マスターウォーニングインジケータライト (P.60)
- ⑨ ハイビームインジケータライト (P.62)
- ⑩ LCD(液晶ディスプレイ) (P.44)
- ⑪ 油圧警告灯 (P.62)
- ⑫ ABS 警告灯 (P.64)
- ⑬ 水温警告灯 (P.64)

取扱いの方法

LCD(液晶ディスプレイ)

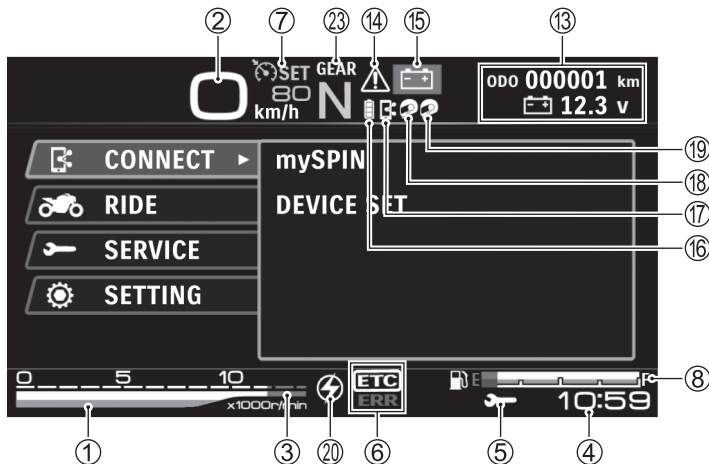
<ライドビュー>



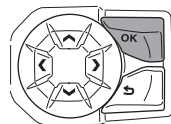
- ① タコメータ (P.67)
- ② スピードメータ (P.67)
- ③ レッドゾーン (P.67)
- ④ 時計 (P.89)
- ⑤ サービスリマインダ表示 (P.74)
- ⑥ ETC インジケータ /ERR インジケータ (P.92)
- ⑦ クルーズコントロール表示 (P.210)
- ⑧ フューエルメータ (P.72)
- ⑨ フリースインジケータ (P.70)
- ⑩ 外気温計 (P.70)
- ⑪ 水温計 (P.68)
- ⑫ 水温計シンボル (P.68)
- ⑬ インフォメーションウインドウ (P.80)
- ⑭ マスタワーニングインジケータ (P.60)
- ⑮ バッテリ充電異常警告灯表示 (P.74)
- ⑯ 携帯電話バッテリーステータス表示 (P.76)
- ⑰ 携帯電話接続ステータス表示 (P.75)
- ⑱ ライダーヘッドセット表示 (P.78)
- ⑲ パッセンジャーヘッドセット表示 (P.78)
- ⑳ エンジン回転インジケータ表示 (P.159)
- ㉑ ドライブモード表示 (SDMS 表示) (P.198)
- ㉒ トラクションコントロールシステム表示 (P.203)
- ㉓ ギャポジション表示 (P.71)
- ㉔ クイックシフト表示 (P.208)

取扱いの方法

<メニュービュー>



モードスイッチ
OKを約2秒間長押し
するとメニュー
ビューに切り替わり
ます。



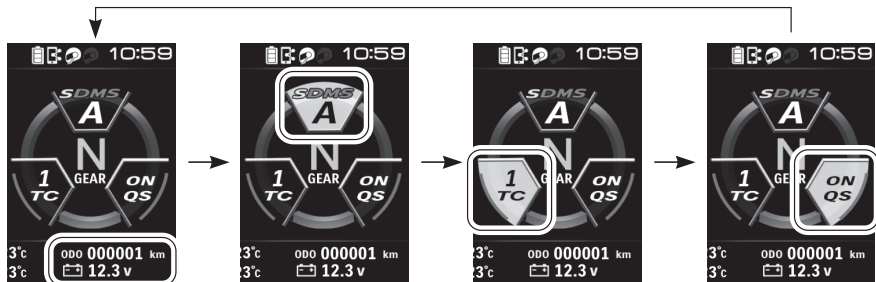
約2秒間長押し

- ① タコメータ (P.67)
- ② スピードメータ (P.67)
- ③ レッドゾーン (P.67)
- ④ 時計 (P.89)
- ⑤ サービスリマインダ表示 (P.74)
- ⑥ ETC インジケータ /ERR インジケータ (P.92)
- ⑦ クルーズコントロール表示 (P.210)
- ⑧ フューエルメータ (P.72)
- ⑬ インフォメーションウインドウ (P.80)
- ⑭ マスタウォーニングインジケータ (P.60)
- ⑮ バッテリ充電異常警告灯表示 (P.74)
- ⑯ 携帯電話バッテリステータス表示 (P.76)
- ⑰ 携帯電話接続ステータス表示 (P.75)
- ⑱ ライダーヘッドセット表示 (P.78)
- ⑲ パッセンジャーヘッドセット表示 (P.78)
- ⑳ エンジン回転インジケータ表示 (P.159)
- ㉓ ギャポジション表示 (P.71)

取扱いの方法

各項目の設定

<ライドビュー>



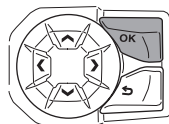
① インフォメーションウインドウ

② SDMS

③ TC

④ QS

モードスイッチ **OK** を押すと設定項目が切り替わります。



短押し

ライドビューは、次の①～④の項目を設定します。

① インフォメーションウィンドウ (👉 P.80)

- オドメータ / 電圧計
- トリップメータ 1 / 平均燃費計
- トリップメータ 1 (平均速度)
/ トリップメータ 1 (累積時間)
- トリップメータ 2 / 平均燃費計
- トリップメータ 2 (平均速度)
/ トリップメータ 2 (累積時間)
- 航続可能距離計 / 瞬間燃費計

② ドライブモード表示 (SDMS 表示)
(👉 P.198)

- ドライブモード表示 (SDMS 表示) の設定をA、B、Cのモードから選択します。

③ トラクションコントロールシステム表示
(👉 P.203)

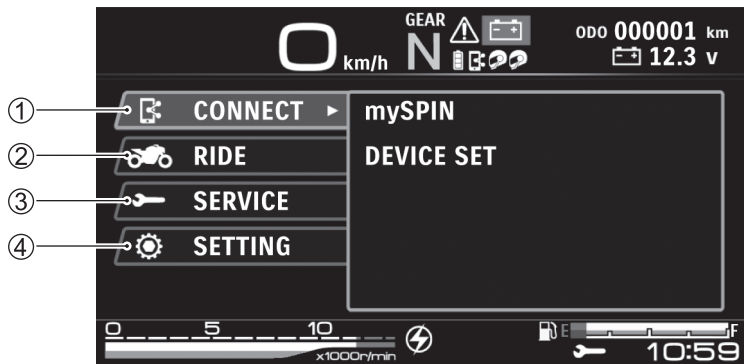
- トラクションコントロールシステム表示の設定をOFF、1～5から選択します。

④ クイックシフト表示 (👉 P.208)

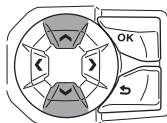
- クイックシフトの設定、ONもしくはOFFを選択します。

取扱いの方法

<メニュービュー>



セレクトスイッチ  /  を押し、メニュービューの各項目を選択します。



アップまたはダウン

メニュービューは、次の①～④の項目を設定します。

① **CONNECT** (👉 P.100)

- mySPIN (👉 P.112)
 - SUZUKI mySPINアプリの設定をします。
- DEVICE SET (👉 P.144)
 - スマートフォンデバイス、ヘッドセットデバイスの接続設定をします。

② **RIDE** (👉 P.159)

- RPM SET (👉 P.159)
 - エンジン回転インジケータライトの設定をします。

③ **SERVICE** (👉 P.168)

- WARNING MANAGER (👉 P.168)
 - ウォーニングマネージャーの設定を確認します。
- NEXT SERVICE (👉 P.170)
 - サービスリマインダの設定を確認します。

④ **SETTING** (👉 P.176)

- BRIGHTNESS (👉 P.176)
 - LCD (液晶ディスプレイ) の輝度を設定します。
- DAY/NIGHT (👉 P.178)
 - LCD (液晶ディスプレイ) の背景色を設定します。
- UNIT (👉 P.181)
 - 単位を設定します。
- DATE/TIME (👉 P.185)
 - 日付と時間を設定します。
- DEFAULT SET (👉 P.193)
 - メニューの各種設定を初期値に戻します。
- SYSTEM INFO (👉 P.196)
 - システム等の情報を確認します。

メータの見かた

▲警告

走行中、ディスプレイの操作は、交通状況が許す場合のみご使用ください。運転者はこの車両を安全に運転する責任があります。

ディスプレイの操作時は、交通状況に十分留意し、ご使用ください。

▲警告

ディスプレイ操作の際、ハンドルスイッチの誤操作は、事故の原因となるおそれがあります。

ディスプレイの操作時は、モードの移行および値が意図した設定になっているか確認してから走行してください。

ⓘ アドバイス

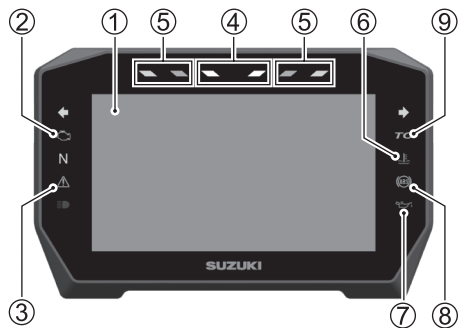
LCD（液晶ディスプレイ）が熱くなると、スマートフォンおよびヘッドセットとのペアリングが切断される場合があります。

■ メインスイッチをONにしたとき

- LCD(液晶ディスプレイ)①のオープニング動作を行います。
- 次の警告灯、インジケータライトが約3秒間点灯します。
 - エンジン警告灯(MIL) ②
 - マスターウォーニングインジケータライト ③
 - エンジン回転インジケータライト(メイン)④
 - エンジン回転インジケータライト(サブ)⑤
 - 水温警告灯 ⑥
- 次の警告灯、インジケータライトが点灯します。
 - 油圧警告灯 ⑦
 - ABS警告灯 ⑧
 - TCインジケータライト ⑨

アドバイス

警告灯、インジケータライトの消灯する条件は、警告灯、インジケータライトの各項目を参照してください。

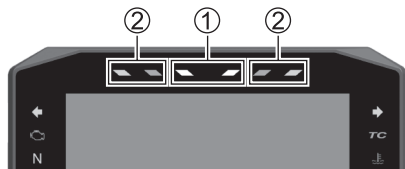


■ ターンシグナルインジケータ ライト ⇐⇒

右または左のターンシグナルランプが作動すると、ターンシグナルインジケータライトが点滅します。

■ エンジン回転インジケータライト (メイン)、(サブ)

エンジン回転数が設定値に達すると、エンジン回転インジケータライト (メイン) ①、(サブ) ②が点灯または点滅し、シフトアップのタイミングをお知らせします。点灯方式、回転数の設定は、エンジン回転インジケータライトの設定モードで変更できます。設定は「RPM SET」(P.159) を参照してください。



■ TCインジケータライト TC

TCインジケータライトの作動は、お車の設定によって異なります。設定は「トラクションコントロール システム」(P.203)を参照してください。

- メインスイッチを**ON**にすると点灯し、速度が約10 km/hになるとトラクションコントロールシステムが作動可能な状態になり消灯します。
- トラクションコントロールシステム作動時は点滅します。
- トラクションコントロールシステムを OFFに設定すると常時点灯します。

TC インジケータライトとエンジン警告灯(MIL)が同時に点灯したときは、安全な場所に停車してメインスイッチを**OFF**にしてください。少し時間をおいてからエンジンを始動し、10 km/h以上で走行したときのTCインジケータライトとエンジン警告灯(MIL)の点灯状態を確認してください。

- 10 km/h 以上で走行したときに TC インジケータライトが消灯すれば、正しく機能しています。
- 10 km/h 以上で走行しても TC インジケータライトが消灯しない場合は正しく機能していません。消灯しないときは、スズキ販売店にご相談ください。

▲ 警告

トラクションコントロールシステムに異常があるときは、TCインジケータライトとエンジン警告灯(MIL)が同時に点灯します。このときには、トラクションコントロールシステムが作動しません。

同時に点灯したときは、トラクションコントロールシステムをOFFに設定して、スズキ販売店で点検を受けてください。

■ ニュートラルインジケータライト N


トランスミッションがニュートラル(ギヤが入っていない)のときに点灯します。

■ エンジン警告灯(MIL)

メインスイッチをONにすると、ランプチェックのため3秒間点灯し、その後消灯します。

エンジンの排ガス低減制御装置・電子制御装置に異常がある時、または失火を検知すると点灯または点滅します。

エンジン警告灯(MIL)が点灯または点滅した場合、同時にディスプレイの故障診断表示に“FI”を表示します。

故障診断表示については「故障診断表示」(P.90)を参照してください。

注記

点灯または点滅したまま走行を継続すると、排ガス低減装置や操作性へ影響を与えます。

エンジン運転中に点灯または点滅した場合は、触媒装置が損傷するおそれがありますので速やかに停車し、エンジンを止めてください。やむをえず走行する場合は、スロットルを大きく開けず低速で走行してください。その後、速やかにスズキ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

エンジン警告灯(MIL)が点灯または点滅した場合は、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

■ マスターウォーニング インジケータライト ⚠

メインスイッチをONにすると、ランプチェックのため3秒間点灯し、その後消灯します。

マスターウォーニングインジケータライトは、次の故障が発生すると点灯または点滅します。

- エンジン関連
- ハンドルスイッチ
- 転倒したとき

故障診断表示については「故障診断表示」(P.90)を参照してください。


アドバイス

マスターウォーニングインジケータライトが点灯または点滅した場合は、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

■ マスターウォーニング インジケータ (白)

次の故障が発生するとステータスバーにマスターウォーニングインジケータ (白) が点灯します。

- データ通信不能
- キーの未認証
- エンジン関連
- ハンドルスイッチ
- 転倒したとき

故障診断表示については「故障診断表示」
(P.90) を参照してください。

アドバイス

マスターウォーニングインジケータ (白) が点灯した場合は、すぐにスズキ販売店にご相談ください。


■ ハイビームインジケータライト



ヘッドランプが上向きのおきに青色のインジケータライトが点灯します。

■ 油圧警告灯

メインスイッチを**ON**にすると油圧警告灯が点灯します。正常時はエンジンの始動とともに油圧警告灯は消灯します。

エンジン始動後にエンジン油圧が低下すると、油圧警告灯が点灯します。点灯したらエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。（「エンジンオイル量の点検」P.346 を参照）

注記

油圧警告灯が点灯したまま走行するとエンジンやトランスミッションに損傷を与えるおそれがあります。

油圧警告灯が点灯したときは、すぐにエンジンを止めてください。エンジンオイル量を点検し、オイルが不足しているときは、オイルを補充してください。オイル量が適切なのに油圧警告灯が消灯しない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。


注記

エンジンを始動した後に油圧警告灯が点灯した状態でスロットルを開いたり走行したりすると、エンジンに悪影響を与えるおそれがあります。

スロットルを操作する前や走行する前に油圧警告灯が消えていることを確認してください。

■ 水温警告灯

メインスイッチを**ON**にすると、ランプチェックのため約3秒間点灯します。冷却水の温度が規定値を超えると点灯します。走行中またはアイドリング中に水温警告灯が点灯した場合は、安全な場所に移動してエンジンを停止してください。エンジンが冷めてから冷却水の量を点検してください。

詳細は「水温計」( P.68) を参照してください。

■ ABS警告灯 ()

- メインスイッチを**ON**にすると点灯し、車速が約10 km/hを超えると消灯します。
- ABS に異常があると、点灯し続けます。点灯している間は、ABSは作動しません。

▲ 警告

ABS警告灯が点灯しているときはABSが作動しません。この状態で急ブレーキをかけるとホイールがロックすることがあります。

速やかにスズキ販売店で点検を受けてください。

▲ 警告

ABS警告灯が点灯したまま走行するのは、いざというときにABSが働かずに事故の原因になるおそれがあります。

もし、運転中にABS警告灯が点滅または点灯したときは、安全な場所に停車して、メインスイッチをOFFにしてください。少し時間をおいてからエンジンを始動してABS警告灯を確認します。

- 走行を開始し、ABS 警告灯が消灯すれば正常に機能しています。
- 走行を開始しても、ABS 警告灯が消灯しない場合はABSが機能していませんので、スズキ販売店で点検を受けてください。

♪アドバイス

走行前にエンジンの空ぶかしをすると、ABS警告灯が消灯する場合があります。エンジンを始動後、走行前にABS警告灯が消灯したときは、メインスイッチを一旦、OFFにし、再度ONにしてABS警告灯が点灯することを確認してください。メインスイッチをONにしたときにABS警告灯が点灯しない場合は、速やかにスズキ販売店で点検を受けてください。

■ 光センサ

光センサは、周囲の明るさを検知しLCD（液晶ディスプレイ）を最適な輝度に調整します。背景色の設定をAUTOに選択した場合、設定時の照度に合わせて、WHITE または BLACKのいずれかが選択されます。

- LCD（液晶ディスプレイ）の輝度の設定は「BRIGHTNESS」(☞P.176)を参照してください。
- LCD（液晶ディスプレイ）の背景色の設定は「DAY/NIGHT」(☞P.178)を参照してください。

ⓘアドバイス

- このメータは、周囲の明るさに応じて液晶やメータの照明を自動的に調整するために光センサが設けられています。光センサが覆われていると自動調光が正常に機能しない場合があります。
- 液晶画面が熱くなると、画面が暗くなる場合があります。画面温度が下がれば通常の状態に戻ります。暗い画面から回復しない場合は、スズキ販売店にご相談の上、点検を受けてください。

■ スピードメータ

走行速度をkm/hの単位で示します。



ライドビューが表示される間に走行を開始した場合、メータにスピードのみを表示します。



■ タコメータ

エンジンの回転速度を示します。

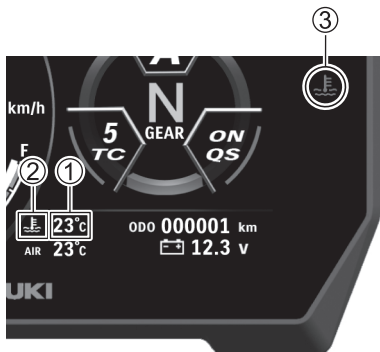
レッドゾーン

レッドゾーン①とは、エンジンの許容回転速度を超えた回転域を示します。レッドゾーン内で使用すると、エンジンが円滑に回転しなくなり、エンジン寿命に悪影響を与えます。



■ 水温計

LCD（液晶ディスプレイ）の水温計①、水温計シンボル②、水温警告灯③を装備し、冷却水の温度を表示します。



水温計の温度が20℃以上120℃未満ではないときは、次のように表示します。

冷却水の温度が20℃未満のとき

- 水温計①が _ _ _ 表示。

冷却水の温度が120℃以上、125℃未満のとき

- 水温計①が点滅（数字部のみ点滅）。
- 水温警告灯③が点灯。

冷却水の温度が125℃以上のとき

- 水温計①がHIを表示して点滅。
- 水温警告灯③が点灯。

水温計がHIを表示した場合、エンジンをとめ、エンジンが冷えてからリザーバタンク内の冷却水量を点検してください。

詳細は「オーバーヒートしているときは」(P.400)を参照してください。

注記

水温警告灯が点灯した状態で運転すると、オーバーヒートによりエンジンが損傷するおそれがあります。

水温警告灯が点灯したら、エンジンをとめてエンジンを冷やしてください。また、水温警告灯が消灯するまでエンジンをかけないでください。

アドバイス

高温下での長時間にわたるアイドリングにより、水温警告灯が点灯する場合があります。水温警告灯が点灯したら、エンジンをとめてエンジンを冷やしてください。

■ 外気温計

外気温計は、常に周辺の外気温を表示します。

- 表示温度の範囲 : -10°C ~ 50°C
- -11°C より低温の場合 : “LO”
- 51°C より高温の場合 : “HI”

AIR **23°C**

ⓘアドバイス

- 温度表示は目安としてください。停止中や低速走行中は正しく表示しないことがあります。
- 停車中は、エンジンの熱が車両の温度表示に影響を与える場合があります。

低温時

外気温が 3°C を下回るとディスプレイ上に“ICY ROAD”のポップアップ表示①を表示します。

また、外気温計②が30秒間点滅します。その後は、外気温が 5°C を上回るまでフリーズインジケータ③が点灯します。



ⓘアドバイス

- 温度表示は目安としてください。停止中や低速走行中は正しく表示しないことがあります。
- ディスプレイ上に“ICY ROAD”のポップアップ表示が出たときは、路面が凍結している可能性があるため、路面の状況に注意して運転してください。

■ ギヤポジション表示

ギヤポジションを表示します。ニュートラル(ギヤが入っていない) のときはNを表示します。

ⓘアドバイス

ディスプレイに“CHECK”が表示されているときは、ギヤポジション表示には数字ではなく“—”が表示されます。



■ フューエルメータ

フューエルタンク内のガソリン残量を表示します。

- 満タン時はF点までバー表示します。
- 約4.8L未満になるとマーク①が点滅します。
- 約1.9L未満になるとマーク①とEゾーン②が点滅します。



ライドビュー










メニュービュー

注 記

フューエルタンク内のガソリンを使い切る(ガス欠)と触媒装置を損傷することがあります。ガソリンを使い切る(ガス欠)前に給油してください。

アドバイス

- サイドスタンド状態では、フューエルメータはガソリンの量を正しく表示できません。車体を垂直にした状態で確認してください。
- 車体を傾けた走行をしたときに、フューエルメータのガソリン残量の表示が変わることがあります。残量の確認は、車体を垂直にした状態で確認してください。
- ①マークとEゾーン②が点滅したときはガソリンの残量がほとんど無い状態です。点滅したら、すみやかにガソリンを給油してください。

ガソリン残量	満タン	約4.8L未満	約1.9L未満
表示			<p>点滅</p> 
 マーク		<p>点滅</p> 	<p>点滅</p> 

■ サービスリマインダ表示

日付と距離の設定をもとに、次回の点検時期をお知らせします。設定された日付または距離に達すると点灯します。

詳細は「③ SERVICE」(P.168)を参照してください。

アドバイス

サービスリマインダの設定はスズキ販売店にご相談ください。

■ バッテリ充電異常警告灯表示

車両のバッテリー充電系統に異常が発生しているときに点灯します。

アドバイス

走行中に点灯したときは、スズキ販売店にご相談ください。

■ 携帯電話接続ステータス表示

車両とスマートフォンが接続されると、ディスプレイのステータスバーに携帯電話接続ステータス表示が表示されます。

次の各表示により、電話の発信、受信、SUZUKI mySPINアプリの使用状況を確認できます。

電話の発信	電話の受信	SUZUKI mySPIN アプリの使用	表示
不可	可能	不可	
不可	可能	不可	
可能	可能	可能	





アドバイス

- 走行中は、スマートフォンを操作しないでください。
- 使用するデバイスが Bluetooth[®] 対応機種であっても接続できない場合があります。
- 車両とスマートフォンの接続設定についての詳細は、「DEVICE SET」(P.144)を参照してください。
- SUZUKI mySPINアプリを使用することで、スマートフォンと車両のメータが連携し、アプリのコンテンツを車両のメータに表示させ使用することが可能になります。

■ 携帯電話バッテリーステータス表示

車両とスマートフォンが接続されると、ディスプレイのステータスバーに携帯電話バッテリーステータス表示が表示されます。

接続されたスマートフォンのバッテリー残量を表示します。

バッテリー残量	表示
100% ~ 80%	
80% ~ 40%	
40% ~ 1%	
0%	

アドバイス

スマートフォンの種類によって、バッテリー残量の値が異なる場合があります。

ライダーヘッドセット表示 / パッセンジャーヘッドセット表示

車両と各ヘッドセットデバイスが接続されると、ディスプレイのステータスバーにライダーヘッドセット表示①またはパッセンジャーヘッドセット表示②を表示します。



アドバイス

- 使用するデバイスが Bluetooth[®] 対応機種であっても接続できない場合があります。
- 車両とヘッドセットデバイスの接続設定についての詳細は、「DEVICE SET」(P.144)を参照してください。

次の各表示により、ライダーヘッドセットとパッセンジャーヘッドセットの接続、音楽の可聴または通話・応答の状況を確認できます。

ライダー ヘッドセット	パッセンジャー ヘッドセット	音楽の可聴	通話・応答	表示
接続	非接続	可能 (ライダーヘッドセット)	可能 (ライダーヘッドセット)	
非接続	接続	可能 (パッセンジャー ヘッドセット)	不可	
接続	接続	可能 (ライダーヘッドセット、 パッセンジャー ヘッドセット)	可能 (ライダーヘッドセット)	

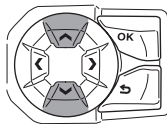
■ インフォメーションウインドウ

メインスイッチをONにしてライドビューを表示します。モードスイッチ **OK** を押し、インフォメーションウインドウを選択します。インフォメーションウインドウを選択すると表示が2回点滅します。

ODO 001234 km
12.0 V

設定方法

セレクトスイッチ  /  を使用して表示を切り替えます。



アップまたはダウン

ⓘアドバイス

km/LとL/100km、MPG USとMPG IMPの単位を変更できます。

詳細は「UNIT」(👉P.181)を参照してください。


⚠警告


走行中、メータとスイッチの操作に集中すると事故の原因になります。走行中はディスプレイを切り替えしないでください。

車両を停車してからディスプレイの切り替え、設定を確認してください。

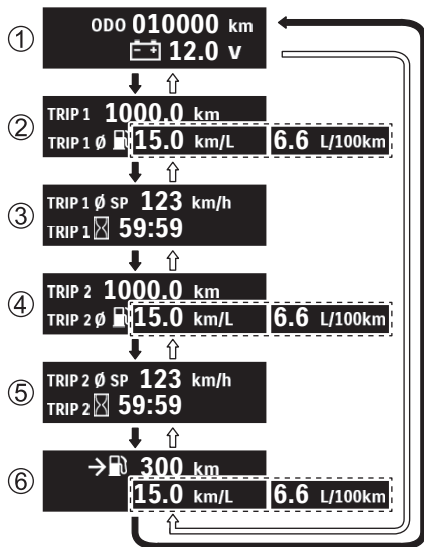
取扱いの方法

以下の項目を設定することができます。

➡: セレクトスイッチ 

⇨: セレクトスイッチ 

- ① オドメータ / 電圧計
- ② トリップメータ 1 / 平均燃費計 1
- ③ トリップメータ 1 (平均速度)
/ トリップメータ 1 (累積時間)
- ④ トリップメータ 2 / 平均燃費計 2
- ⑤ トリップメータ 2 (平均速度)
/ トリップメータ 2 (累積時間)
- ⑥ 航続可能距離計 / 瞬間燃費計



オドメータ

ODO **001234** km

総走行距離を示します。999,999 kmまで表示
します。


ⓘアドバイス

オドメータの表示が999,999 kmを超えた場
合は、999,999 kmで固定されます。

トリップメータ

TRIP 1 **2345.6** km

リセット後の走行距離を9999.9 まで表示します。

- TRIP1、2の2つのモードがあります。
- セレクトスイッチ  を約2秒間押すとリセットし、0.0を表示します。リセットされるのは表示しているTRIP1または2だけで、表示していない方はそのままです。
- リセットすると対応する平均燃費計、平均速度と累積時間もリセットします。

ⓘアドバイス

9999.9を超えると0.0に戻り、計測を続けます。

平均燃費計

TRIP 1  24.0 km/L

TRIP 1  4.1 L/100km

TRIP 1  56.6 MPG US

TRIP 1  68.0 MPG IMP

- TRIP1、2各々の走行距離に対する燃費を表示します。
次の範囲で表示します。
- km/L : 0.1 ~ 99.9
- L/100 km : 2.0 ~ 99.9
- MPG US、MPG IMP : 0.1 ~ 99.9
- トリップメータをリセットすると対応する平均燃費計もリセットします。
- トリップメータが0.0表示のときは、平均燃費計は--.-を表示します。

 アドバイス

燃費計は、おおよその値を示したものです。実際の値とは異なる場合があります。

トリップメータ平均速度

TRIP 1 \emptyset SP **24.0** km/h

- TRIP1、2各々の平均速度を表示します。
- トリップメータをリセットすると対応する平均速度もリセットします。

トリップメータ累積時間

TRIP 1  **99:59**

- 対応するトリップメータをリセットしてから現在までのメインスイッチを**ON**にしている累積時間を99:59まで表示します。
- トリップメータをリセットすると対応する累積時間もリセットします。

電圧計

 **12.0** V

バッテリーの電圧を表示します。

アドバイス

- 表示される値は、他の計測器の値と異なる場合があります。
- 12.0 V以下の電圧を頻繁に表示する場合は、スズキ販売店にご相談ください。

瞬間燃費計

24.0 km/L

4.1 L/100km

56.6 MPG US

68.0 MPG IMP

走行中の瞬間燃費を次の範囲で表示します。

- km/L : 0.1 ~ 99.9
- L/100 km : 2.0 ~ 99.9
- MPG US、MPG IMP : 0.1 ~ 99.9

ⓘアドバイス

- 車速が 3 km/h 以下のときは燃費測定されません。
- 燃費計は、おおよその値を示したものです。実際の値とは異なる場合があります。

航続可能距離計

→  300 km

現在の燃料残量で走行できるおよその航続可能距離を表示します。給油すると表示が更新されます。ただし、給油量が少ないと、表示が更新されない場合があります。サイドスタンドで駐車している場合は航続可能距離を更新しません。サイドスタンドを外して、航続可能距離を更新してください。バッテリーを外すと航続可能距離計がリセットします。その場合は、一定距離を走行するまで---を表示します。

アドバイス

- 航続可能距離は、目安です。表示は実際の走行距離と異なる場合がありますので、早めの給油をおすすめします。
- 航続可能距離を算出するための平均燃費は表示されません。また、表示されているトリップメータの平均燃費とは異なります。

■ 時計

時分を12時間表示で表示します。

10:59

時計（調整）の詳細は「DATE/TIME」(☞P.185)
を参照してください。

ⓘアドバイス

メインスイッチOFFでも、メータには微少電流が流れ、電力を消費しています。長期間（2か月以上）乗らない場合は、バッテリーを外してください。詳細はP.407のアドバイスをご覧ください。

■ 故障診断表示

ディスプレイ右側に故障情報をポップアップ表示します。次の表示が出ている場合は、速やかにスズキ販売店にご相談ください。

① バッテリ電圧低下



② コントローラ間の通信不能



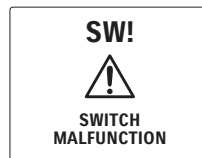
③ イモビライザの未承認



④ エンジン関連の故障検出



⑥ ハンドルスイッチの故障



⑤ 車両の転倒



ⓘアドバイス

“CHECK” と表示されたときは、エンジンの始動ができません。次の項目を点検してください。CHECK表示が消えないときは、スズキ販売店にご相談ください。

- 各ヒューズが切れていないか
- メータなどのコネクタが接続されているか

ⓘアドバイス

走行する環境（高度、気温など）によっては、故障診断表示が機能しない場合があります。

ⓘアドバイス

ポップアップ表示した故障情報は、メニュービューの「WARNING MANAGER」にて再確認が可能です。
詳細は、「WARNING MANAGER」(☞P.168)を参照してください。

■ ETCインジケータ

ETC2.0車載器の作動状況に応じて、次のページの表のように点灯、点滅、消灯します。

■ ERRインジケータ ERR

ITSスポットから注意喚起情報を受信したときやETC2.0車載器が使用できないときには、次のページの表のように点灯、点滅します。

▲警告

注意喚起情報受信時を除いて、ERRインジケータが点灯または点滅しているときは、ETCが利用できません。

走行前や料金所通過時にはERRインジケータが消灯していることを必ず確認してください。

アドバイス

ETCおよび車載器についての詳細は「ETC2.0車載器」(P.275)をご覧ください。

取扱いの方法

ETC利用	インジケータ表示		状態
○	ETC点灯		<ul style="list-style-type: none"> ETC が利用できるとき 料金所で正常情報を受け取ったとき
	ERR消灯		
○	ETC点灯		<ul style="list-style-type: none"> ETC が利用できるとき ITS スポットから注意喚起情報を受信したとき
	ERR点滅 (約0.1秒間隔で約5秒間)		
×	ETC点灯		<ul style="list-style-type: none"> ETC が利用できないとき ETC カードが挿入されていないとき (車載器がセットアップ済み) 料金所で停止情報を受け取ったとき
	ERR点灯		

ETC利用	インジケータ表示		状態
×	ETC点灯		<ul style="list-style-type: none"> ETC が利用できないとき ETC カードが認証中のとき ETC カードが挿入されていないとき (車載器が未セットアップ) 車載器が故障しているとき
	ERR点滅 (約0.3秒周期)		
×	ETC点灯		<ul style="list-style-type: none"> ETC が利用できないとき 期限切れの ETC カードを挿入したとき * <p>* GPS 信号を受信できないときは機能しません。 詳しくは、P.278 の警告文をご覧ください。</p>
	ERR点滅 (約2秒間隔で3回点滅の繰り返し)		
×	ETC点灯		<ul style="list-style-type: none"> ETC が利用できないとき アンテナが接続されていないとき
	ERR点滅 (2回点滅の繰り返し)		

取扱いの方法

ETC利用	インジケータ表示		状態
×	ETC点滅		<ul style="list-style-type: none"> ETC が利用できないとき 配線が繋がっていないとき
	ERR点滅		
-	ETC消灯	-	<ul style="list-style-type: none"> メインスイッチをオフにしたとき
	ERR消灯		

■ メニュービュー



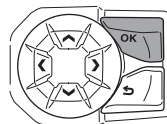
ライドビュー



メニュービュー



ライドビューからメニュービューに表示を切り替えます。

モードスイッチ **OK** を約2秒間長押しするとメニュービューに切り替わります。

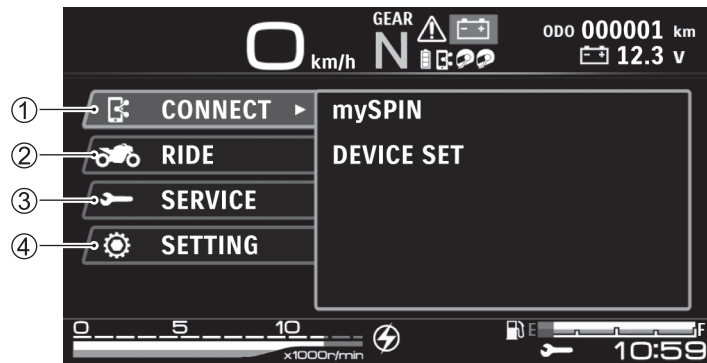


約2秒間長押し

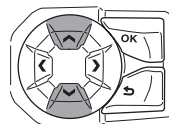
アドバイス

- 車両の走行スピードが10 km/h未満の場合のみ、メニュービューを表示できます。
- 次の場合、メニュービューからライドビューに表示が切り替わります。
 - セレクトスイッチ  またはモードスイッチ  を押す。
 - 車両の走行スピードが10 km/h 以上になったとき。

各項目の設定



セレクトスイッチ
 ▲ / ▼ を押し、メ
 ニュービューの各項
 目を選択します。



アップまたはダウン

① CONNECT

スマートフォンにインストールしたSUZUKI mySPINアプリを車両と連携し操作することができます。

車両と連携し操作するには、次の点を確認してください。

- スマートフォンにSUZUKI mySPINアプリがインストールされ初期設定がされていること。
- スマートフォンのBluetooth[®] およびワイヤレスLAN が有効に設定されていること。
- スマートフォンおよびヘッドセットの各デバイスがBluetooth[®] で車両に登録されていること。

詳細は、「DEVICE SET」(P.144) を参照してください。

- アプリの位置情報が有効に設定されていること。
- スマートフォンのアプリの設定が “ 車両モード ” になっていること。
- 携帯電話接続ステータス表示、ライダーヘッドセット表示、パッセンジャーヘッドセット表示、携帯電話バッテリーステータス表示が点灯していること。

アドバイス

車両モードとは、車両側のメータにアプリを表示し、車両の左ハンドルスイッチによって操作するモードです。詳細は、<アプリを車両のメータへ表示>(P.107)を参照してください。

SUZUKI mySPINとは

SUZUKI mySPINアプリにより、スマートフォン内のアプリをメータに表示させ操作することができます。また、お客様のスマートフォンと車両間は、Bluetooth[®]およびワイヤレスLANで接続します。

SUZUKI mySPINアプリは、事前にお客様のスマートフォンにインストールしておくことにより、車両と連携するアプリが立ち上がりランチャーアプリとして機能します。一度接続したスマートフォンは次回より自動的に接続し、お客様の車両のメータにアプリを表示・操作できます。

表示・操作できるアプリは、電話機（電話）、連絡先、マップ（地図）、音楽、カレンダーのサービスなどが対象となっています。なお、サードパーティーのアプリをダウンロードすることによりアプリの機能を拡張することができます。サードパーティーアプリの詳細は、別途、SUZUKI mySPINアプリマニュアルをご覧ください。

▲ 警告

走行中のスマートフォンの操作は、事故の原因になるおそれがあります。

スマートフォンの操作は、必ず車両を停止させた状態で行ってください。

📱 アドバイス

SUZUKI mySPINを使用する際は、SUZUKI mySPINアプリに掲載している、ユーザ使用許諾 (End User License Agreement of SUZUKI mySPIN) 「App -> オプション -> 情報 -> 法的説明」をご確認ください。

動作環境

iOSバージョンとAndroidバージョンのアプリ動作環境は、別途、SUZUKI mySPIN アプリマニュアルをご覧ください。

📱アドバイス

- SUZUKI mySPIN は、iOS13 および 14、Android 9および10で機能検証しております。全てのデバイスでの動作保証はできません。
- SUZUKI mySPIN は、スマートフォンのモバイルデータ通信を使用します。使用する通信料はお客様のご負担となりますので、あらかじめご了承ください。ご使用前にスマートフォンのご契約内容をご確認ください。
- SUZUKI mySPIN の音声機能を使用するためには、メータとヘッドセットを接続することが必要です。ヘッドセットを接続しないと一部機能が動作しない場合があります。

- 画面に表示される SUZUKI mySPIN の内容および操作方法は、接続しているデバイスや SUZUKI mySPIN アプリのバージョンによって異なる場合があります。
- SUZUKI mySPIN またはデバイス接続において不具合発生した場合は、安全な場所に停車し、車両のメインスイッチをOFFにしてペアリングをやり直してください。

例)

- ヘッドセットデバイスから音声が聞こえない
- メータと各デバイスの接続/解除ができない
- SUZUKI mySPIN アプリが “車両モード” にならない

はじめに・・・

<メータとスマートフォンのペアリング>

「DEVICE SET」(P.144)を参照して、スマートフォンとメータをペアリングしてください。

<アプリのダウンロード方法>

SUZUKI mySPINアプリをダウンロードするには、次のQRコードをスマートフォンで読みとり、各ストアからダウンロードしてください。

“QRコード”は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

<https://play.google.com/store/apps/details?id=com.SUZUKI.SUZUKImySPIN>



<Google Play>

<https://apps.apple.com/us/app/suzuki-myspin/id1528917673>



<App Store>

URLやQRコードからダウンロードページに移動できないときは、各ストア内から“SUZUKI mySPIN”で検索してください。

<アプリマニュアル、FAQsのダウンロード方法>

SUZUKI mySPINアプリのマニュアル類をダウンロードするには、次のQRコードをスマートフォンで読みとり、ダウンロードしてください。

https://www.globalsuzuki.com/motorcycle/app/suzukimyspin/suzukimyspin_faq_man_slctn_lang.pdf




<アプリマニュアル、FAQs>

<アプリ起動>

スマートフォン上のSUZUKI mySPINアプリのアイコンをタップし起動します。



<アプリの初期設定>

アプリの初回接続時は、次の画面が表示されます。手順に従って初期設定をしてください。画面下の  ① をタップしてください。



アドバイス

アプリの初期設定についての詳細は、別途、SUZUKI mySPIN アプリマニュアルをご覧ください。(P.105)

<アプリを車両のメータへ表示>

ペアリング後、スマートフォン側のアプリの設定を“電話モード”から“車両モード”に切り替えてください。

“電話モード”

電話モードとは、スマートフォン側で車両に接続する前に各種設定等を行うためのモードです。車両のメータに表示されるアプリのアイコンの並びや、SUZUKI mySPINアプリ対応のサードパーティーアプリの一覧を確認することができます。

取扱いの方法

1. スマートフォン側の初期設定完了画面から“電話モード” ① をタップします。
2. 電話モードのホーム画面が表示されます。



“車両モード”

車両モードとは、車両側のメータにアプリを表示し、車両の左ハンドルスイッチによって操作するモードです。

アドバイス

車両モードに移行する際、スマートフォンのワイヤレスLANが有効であることが必要です。位置情報についても有効(オン)にしている必要があります。

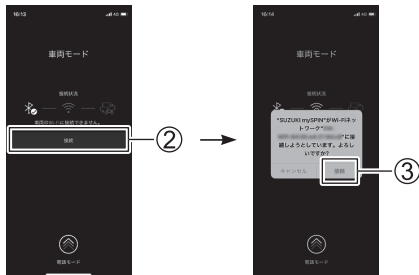
“電話モード” から “車両モード” への 設定方法

1. 電話モードのホーム画面またはオプションメニュー内の “車両モードボタン” ① をタップするとスマートフォンと車両のメータ間のワイヤレス LAN 接続を開始し、接続完了後スマートフォンは “車両モード” に切り替わります。



取扱いの方法


また、iOS版に限り、ワイヤレスLAN接続の際に下記画面が表示される場合がありますので、“接続”②を選択した後、“接続”③を選択して下さい。




2. “車両モード”の画面が表示されます。スマートフォンの画面が車両モードの表示になると、車両のメータ上でのSUZUKI mySPINアプリの表示、左ハンドルのスイッチによる操作が可能になります。



📱アドバイス

- “車両モード”にするには、スマートフォンの画面ロック(スリープモード)を解除し、SUZUKI mySPINアプリを表示したままにしておく必要があります。スマートフォンの画面がロックされるとメータとの接続が解除されます。
- “車両モード”が表示されるとスマートフォン側からアプリの操作はできません。スマートフォン側からアプリの操作をしたいときは、車両モードの画面下の  を上にスワイプして車両モードを解除してください。
- 接続しているスマートフォンの異常等でアプリが終了したときは、メータとの接続が切断されます。車両を安全な場所で一旦停車して、アプリの再起動、車両との接続の再設定をしてください。

- 携帯電話接続ステータス表示、ライダーヘッドセット表示、パッセンジャーヘッドセット表示、携帯電話バッテリーステータス表示が点灯しているか確認してください。
- メータと接続中にメインスイッチをOFFにすると、メータとの接続が切断されますが、アプリは“車両モード”を維持したままで、スマートフォンの画面ロック後も接続プロセスを実行し続けます。メインスイッチをOFFにした後、再接続する必要が無い場合は、 を上にスワイプして車両モードを解除して下さい。

mySPIN

車両と接続されたSUZUKI mySPINアプリのホーム画面をメータに表示します。


▲ 警告

走行中、ディスプレイの操作は、交通状況が許す場合のみご使用ください。運転者はこの車両を安全に運転する責任があります。

ディスプレイの操作時は、交通状況に十分留意し、ご使用ください。

📱アドバイス

- 表示するアプリによって、走行中と停車中で表示および一部の機能が変わるものがあります。
- スマートフォンとの接続には、約50秒かかる場合があります。
- SUZUKI mySPIN 接続中のディスプレイ表示は、スマートフォン自体に設定されている言語で表示します。

1. メニュービューの “CONNECT” から
 “mySPIN” の項目を選択します。
 (セレクトスイッチ  / モードスイッチ **OK**)

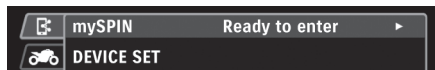
SUZUKI mySPIN Initializing:
 Bluetooth およびワイヤレス LAN が起動中



Connect smartphone:
 Bluetooth およびワイヤレス LAN が接続済み

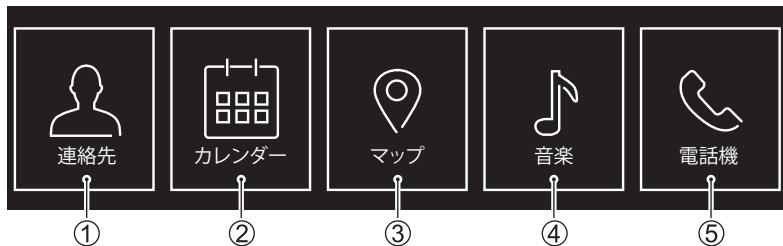


Ready to enter:
 SUZUKI mySPIN アプリが車両モード時




取扱いの方法

2. “mySPIN” の項目を決定し、アプリのホーム画面を表示します。
(セレクトスイッチ ▶▶)

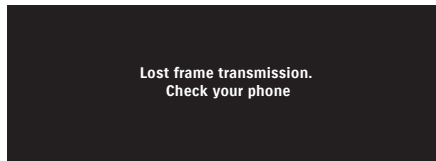


- ① 連絡先
- ② カレンダー
- ③ マップ (地図)
- ④ 音楽
- ⑤ 電話機 (電話)

アドバイス

- アプリのホーム画面のアイコンの並びは、アプリインストール時の初期設定です。アイコンの並びは、アプリの設定にて変更が可能です。アイコンの並びの変更方法は、アプリ内のクイックスタートガイドを参照してください。
- SUZUKI mySPIN 画面を表示しているときにモードスイッチ  を長押しすると、ライドビューへの切り替えが可能です。また、同じ操作でライドビューからmySPIN画面へ戻せます。

3. メータとスマートフォンのアプリの接続が切断されると、メータ（SUZUKI mySPIN画面）が次の表示に切り替ります。



注記

スマートフォン上のエラーまたはスマートフォンの画面ロック（スリープモード）により、SUZUKI mySPINアプリが、“車両モード”の表示で無くなった場合の表示になります。

車両を安全な場所に停車させ、スマートフォンの状態を確認してください。

SUZUKI mySPINアプリの各コンテンツ

アプリの利用可能な各コンテンツは、連絡先、カレンダー、マップ（地図）、音楽、電話機（電話）です。

左ハンドルスイッチのモードスイッチとセレクトスイッチを操作・使用します。

電話機（電話）


<電話番号を入力して電話をかける手順>


1. アプリのホーム画面から“電話機”を選択します。
（モードスイッチ **OK**）

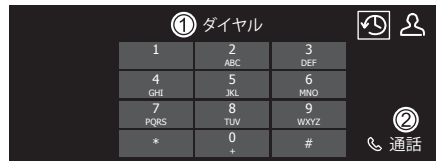


アドバイス

停車中のみ電話番号を入力して電話をかけることができます。

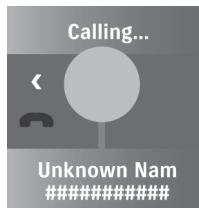
2. ダイヤル画面から電話番号を入力します。
 (セレクトスイッチ  /  /  / )

 (通話)を決定すると電話を発信します。



- ① ダイヤル
 ② 通話

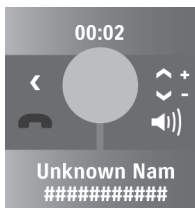
3. 電話をかけると、画面に“Calling” ポップアップ（発信中）が表示されます。




アドバイス

- ヘッドセットが未接続の場合も電話の発信、着信画面が表示されるため、運転前にヘッドセットデバイスが正常に接続されているか確認してください。
- 発信しても“Calling”ポップアップ（発信中）が表示されない場合は、車両を安全なところに停車させ、スマートフォンの状態を確認してください。





4. 電話がつながると、画面がポップアップ（通話中）の表示に切り替わります。







5. 通話を終了します。
（セレクトスイッチ )



📞アドバイス

- SUZUKI mySPINアプリで事前に電話番号を登録済みの場合、走行中に電話をかけることができます。
- SUZUKI mySPINアプリを使用した発信のみが履歴として残ります。
- 走行中は、電話番号を入力して電話をかけることができません。電話をかけるときは、“連絡先のアイコン”から電話をかけることができます。
- セレクトスイッチ  /  でポップアップ(通話中)の音量を調整できます。
 - 音量を上げる
(セレクトスイッチ )
 - 音量を下げる
(セレクトスイッチ )

<メータでの発信履歴のアイコンから電話をかける(リダイヤル)手順>

1. ダイヤル画面からメータでの“発信履歴のアイコン”を選択します。
(セレクトスイッチ  /  /  / )

決定します。


(モードスイッチ **OK**)



- ① ダイヤル
- ② 通話

2. 発信履歴の画面に切り替わります。連絡先を選択します。

(セレクトスイッチ  /  /  / )

 (通話)を決定すると電話を発信します。



③ 最後のSUZUKI mySPIN 通話

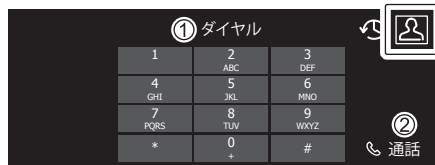
<連絡先のアイコンから電話をかける手順>

1. ダイヤル画面から “連絡先のアイコン” を選択します。

(セレクトスイッチ  /  /  / )

決定します。

(モードスイッチ **OK**)



① ダイヤル

② 通話

取扱いの方法

2. すべての連絡先の画面に切り替わります。
連絡先を選択します。
(セレクトスイッチ ▲ / ▼)

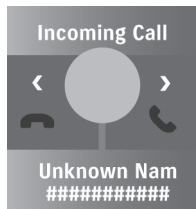
決定すると電話を発信します。
(モードスイッチ **OK**)



- ③ すべての連絡先
④ お気に入り

<着信を受ける手順>

電話を受信すると、画面に“Incoming Call”
ポップアップ(受信中)が表示されます。



アドバイス

電話を受信した後の操作方法は、電話を発信するときと同じです。(P.116)

連絡先

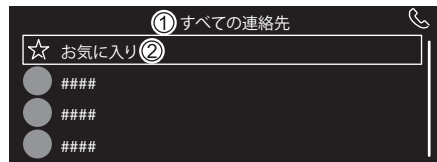
<連絡先の表示、電話をかける>

1. アプリのホーム画面から“連絡先”を選択します。
(モードスイッチ **OK**)






2. すべての連絡先の画面に切り替わります。
連絡先を選択します。
(セレクトスイッチ **▲** / **▼**)

決定すると電話を発信します。
(モードスイッチ **OK**)



- ① すべての連絡先
- ② お気に入り

アドバイス

- 連絡先が31件以上の場合には、ひらがな、アルファベット、数字でカテゴリ分けして表示します。
- すべての連絡先の画面から電話番号を入力して電話をかけるときは、画面右上の“電話のアイコン”を選択します。
(セレクトスイッチ  / )
決定すると、ダイヤル画面に切り替わります。
(モードスイッチ )
電話番号を入力して電話をかけます。



- ① すべての連絡先
- ② お気に入り
- ③ ダイヤル
- ④ 通話

<お気に入りの登録方法>

1. アプリのホーム画面から“連絡先”を選択します。
(モードスイッチ **OK**)



2. すべての連絡先の画面内の最上部にある“☆お気に入り①”を選択します。
(モードスイッチ **OK**)

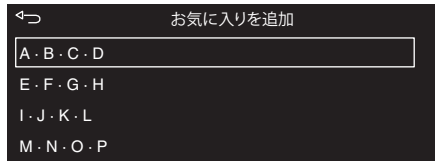


取扱いの方法

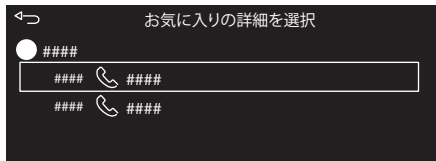
3. ☆お気に入りの最下部にある、
“+お気に入りを追加②” を選択します。
(モードスイッチ **OK**)



4. 連絡先一覧から追加したい宛先を選択します。
(モードスイッチ **OK**)



5. 宛先内にある追加したい電話番号を選択します。
 (モードスイッチ **OK**)



6. お気に入りへの登録が完了します。

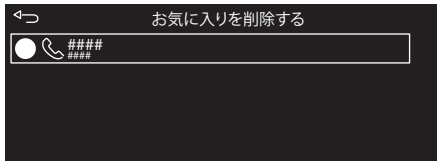
<お気に入りの削除方法>

1. お気に入りの登録方法の手順 3. にて、“お気に入りを削除する ③” を選択します。
 (モードスイッチ **OK**)

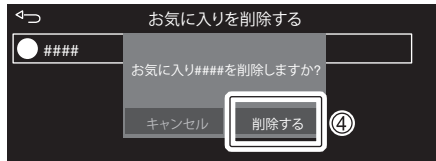


取扱いの方法

2. お気に入りの一覧から削除したい連絡先を選択します。
(モードスイッチ **OK**)



3. 確認のポップアップが表示されます。
“削除する ④” を選択します。
(モードスイッチ **OK**)



4. お気に入りからの削除が完了します。

マップ（地図）

アプリの位置情報の設定を使用して地図を表示します。アプリの位置情報の設定についての詳細は、別途、SUZUKI mySPIN アプリマニュアルをご覧ください。

ⓘアドバイス

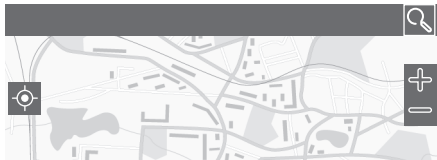
- デフォルトの地図アプリにはナビゲーションの機能はありません。
- AndroidとiOSでは、地図の表示や検索結果が異なることがあります。

<マップ画面の表示>

1. アプリのホーム画面から “マップ” を選択します。
（モードスイッチ **OKI**）



2. マップ画面の表示に切り替わります。

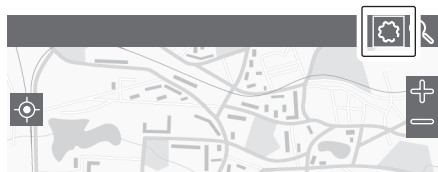


<マップの表示設定(iOSのみ)>

1. マップ画面からマップの表示設定のアイコンを選択します
(セレクトスイッチ ▶ / ◀)

決定します。

(モードスイッチ **OK**)



2. マップ設定の画面に切り替わります。設定項目を選択します。

(セレクトスイッチ ▲ / ▼)

決定します。

(モードスイッチ **OK**)

- マップの表示設定は次の3つの項目から選択できます。
 - スタンダード
 - 衛星
 - ハイブリッド (衛星とロードマップ)



- ① マップ設定
- ② スタンダード
- ③ 衛星
- ④ ハイブリッド

3. 選択したマップ画面の表示に切り替わります。

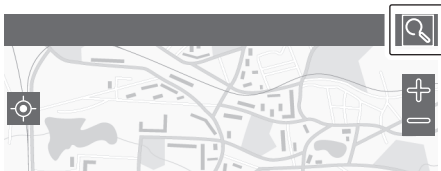
<キーボード入力して目的地の選択、ルート表示>

1. マップ画面から検索のアイコンを選択します。

(セレクトスイッチ **▶** / **◀**)

決定します。

(モードスイッチ **OK**)

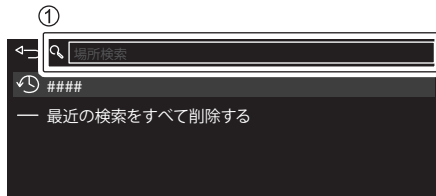


2. 目的地の検索画面に切り替わります。
“場所検索 ①”の項目を選択します。

(セレクトスイッチ **▲** / **▼**)

決定します。

(モードスイッチ **OK**)



① 場所検索


3. キーボード画面に切り替わります。目的地を入力します。


(セレクトスイッチ  /  /  / )


決定します。

(モードスイッチ **OK**)



 : バックスペース (Backspace)

 : キーボード切り替え

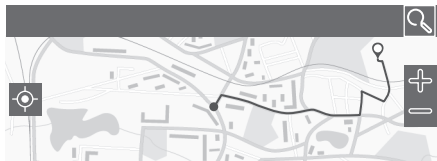
 : スペース

 : 言語切り替え

アドバイス

アプリの“キーボード”設定から使用するキーボードの言語を設定できます。詳細は、別途、SUZUKI mySPIN アプリマニュアルをご覧ください。

4. 入力した目的地までのルートを表示します。

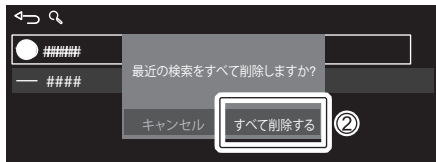


<すべての検索履歴の削除>

1. 目的地の検索画面から、“最近の検索をすべて削除する ①” を選択します。
(モードスイッチ **OK**)



2. 確認のポップアップが表示されます。
 “すべて削除する ②” を選択します。
 (モードスイッチ **OK**)



3. すべての検索履歴が削除されます。

ⓘアドバイス

削除するものを個別に選んで削除することはできません。

音楽

下記の音楽ファイルを表示・再生します。

Android : ストレージ

iOS : ストレージ、Apple Music

<音楽ファイルの表示・再生>

1. アプリのホーム画面から“音楽”を選択します。

(モードスイッチ **OK**)



2. 音楽画面(楽曲メニュー)に切り替わります。楽曲メニューから項目を選択します。(セレクトスイッチ **▲** / **▼**)

決定します。

(モードスイッチ **OK**)

● 楽曲メニューは次の項目から選択できません。

- 再生中 : 再生中の曲を表示
- タイトル : 曲名から探す
- アーティスト : アーティスト名から探す
- アルバム : アルバム名から探す
- プレイリスト : プレイリストから探す





- ① 再生中
- ② タイトル
- ③ アーティスト
- ④ アルバム
- ⑤ プレイリスト

⌘アドバイス


- タイトルが31件以上の場合は、ひらがな、アルファベット、数字でカテゴリ分けして表示します。
- 対応しているプレイリストの拡張子は、“.m3u”です。なお、SUZUKI mySPINでプレイリストを作成することはできません。

取扱いの方法

3. 楽曲メニュー（タイトル）から希望する曲名を選択します。

（セレクトスイッチ  / ）

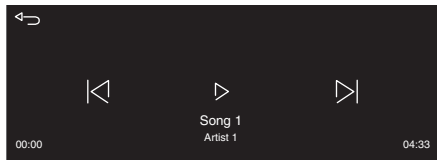
決定します。

（モードスイッチ ）



⑥ タイトル

4. 音楽の再生画面に切り替わります。



アドバイス

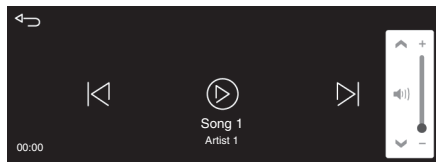
- 再生画面に表示する内容は、接続している機器や再生するファイルの種類によって異なります。
- システムは、“ID3” タグ情報をサポートしています。音楽ファイルに“ID3” タグが無い場合、曲名またはファイル名を表示します。

<音楽再生時の操作方法>

音楽再生/一時停止	モードスイッチ OK
前曲へ戻る	セレクトスイッチ ◀ / ▼
次曲へ進む	セレクトスイッチ ▶ / ▲
音量	<ol style="list-style-type: none"> 1. 音楽の再生画面から音量ポップアップを表示 (セレクトスイッチ ▶ を長押し) 2. 音量を上げる(セレクトスイッチ ▲) 3. 音量を下げる(セレクトスイッチ ▼)

アドバイス

音量を0にすると、再生を一時停止します。



<シャッフル再生>

各カテゴリ(タイトル、アーティスト、アルバムおよびプレイリスト)内の曲をシャッフルして再生します。




オン:

シャッフルのアイコン  をオン(オレンジ色)にすると、シャッフルして再生を開始します。(モードスイッチ **OK**)



① タイトル

オフ:

再生画面から  を押して一覧に戻り、シャッフルのアイコン  をオフ（白色）にすると、シャッフルを終了して再生を続けます。
 (モードスイッチ )



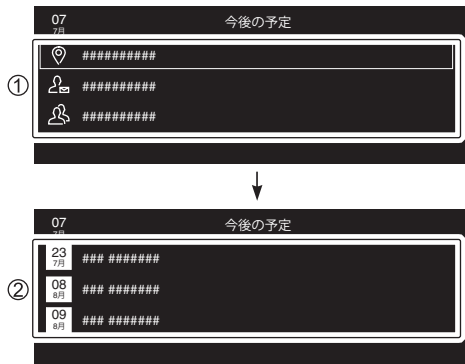
① タイトル

カレンダー

1. アプリのホーム画面から “ カレンダー ” を選択します。
(モードスイッチ **OK**)



2. カレンダーの表示に切り替わります。初めに本日の予定を表示し、時間順に並べて表示します。現在より過去の予定は表示できません。下にスクロールすると本日以降の予定も表示できます。
(モードスイッチ **OK**)



- ① 本日の予定
② 本日以降の予定

3. 以下の情報を表示します。
(モードスイッチ **OK**)
- 日時
 - 目的地
 - 予定の作成者 (薄文字)
 - 招待者
 - ノート (メモ)

DEVICE SET

スマートフォン (Mobile Devices)、ライダーヘッドセット (Rider Headset)、パッセンジャーヘッドセット (Passenger Headset)の各デバイスの登録・削除および接続・切断をすることができます。

登録には、Bluetooth[®]とワイヤレスLAN経由の接続を使用します。スマートフォンのBluetooth[®]とワイヤレスLANの機能を有効に設定してください。なお、走行中は操作できません。メータとスマートフォンをペアリングするなど、スマートフォンを操作するときは、安全な場所に停車して行ってください。

Bluetooth[®]について

車両のメータに搭載されたブルートゥースの無線技術によりスマートフォンとの接続が可能です。

Bluetooth[®]のワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc.が所有権を有します。Robert Bosch GmbHはこれらのライセンスに基づいて使用しています。








<Bluetooth®対応バージョンおよび
プロファイル>

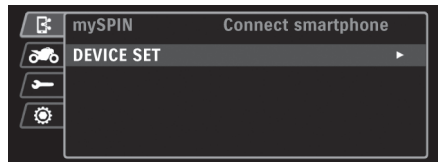
Bluetooth バージョン	Bluetooth 4.2
Bluetooth プロファイル (Bluetooth 対応の携帯電話 など)	HFP ver.1.7
	A2DP ver.1.3
	AVRCP ver.1.6
	PBAP ver1.2
Bluetooth プロファイル (Bluetooth 対応のライダー ヘッドセット、パッセンジャー ヘッドセット)	HFP ver.1.7
	A2DP ver.1.3
	AVRCP ver.1.6

<ワイヤレス LAN対応バージョン>

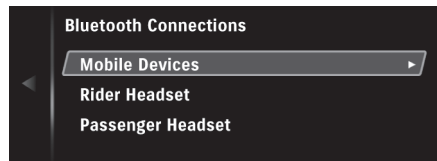
プロトコル	IEEE802.11n
ネットワーク周波数	2.4GHz

<スマートフォンデバイスの初回登録>

1. メニュービューの “CONNECT” から
“DEVICE SET” の項目を選択します。
(セレクトスイッチ  / モードスイッチ )
(セレクトスイッチ  / )
2. 決定します。
(セレクトスイッチ )



3. “Bluetooth Connections” 設定画面を
表示し、“Mobile Devices” の項目を選
択します。
(セレクトスイッチ  / )
4. 決定します。
(セレクトスイッチ )

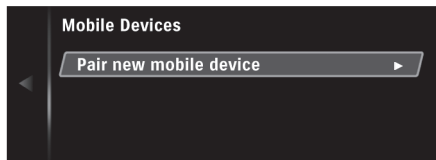


5. “Mobile Devices” 設定画面を表示し、“Pair new mobile devices” の項目を選択します。

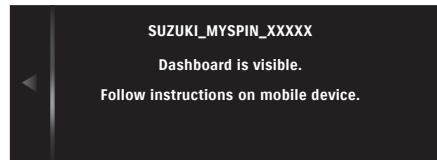
(セレクトスイッチ ▲ / ▼)

6. 決定します。

(セレクトスイッチ ▶)



7. メータの設定画面にメータの登録名 “SUZUKI_MYSPIN_XXXXX” と表示されます。

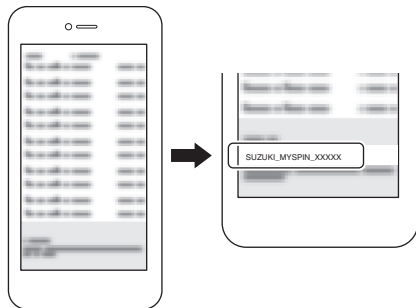


ⓘアドバイス

“XXXXX” は、アルファベットと数字の組み合わせで表示します。



取扱いの方法

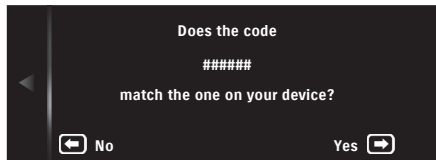
8. スマートフォン側のBluetooth選択画面の項目に表示された接続可能なBluetoothの機器一覧から車両のメータの登録名“SUZUKI_MYSPIN_XXXXX”を選択します。



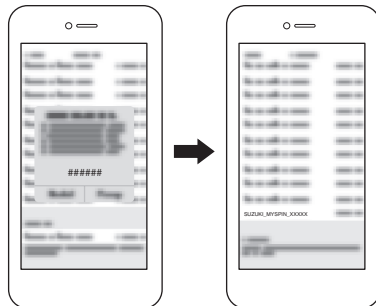
9. スマートフォン側の画面に“Bluetoothペアリングの要求”のコードが表示されます。



- 10.メータの設定画面にスマートフォン側と同じコードが表示されていることを確認し、**Yes**  を選択（決定）します。
（セレクトスイッチ ）



- 11.スマートフォン側の“ペアリング”を決定すると“SUZUKI_MYSPIN_XXXXX”が接続済みとなり車両へのスマートフォンデバイスの登録が完了します。

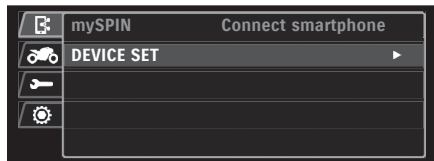


<ヘッドセットデバイスの初回登録>

ライダーヘッドセット(Rider Headset)、パッセンジャーヘッドセット(Passenger Headset)の初回登録は、同様の手順で行ってください。

- “Rider headset” を例として説明しています。

1. メニュービューの “CONNECT” から “DEVICE SET” の項目を選択します。
(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)
(セレクトスイッチ **▲** / **▼**)
2. 決定します。
(セレクトスイッチ **▶**)

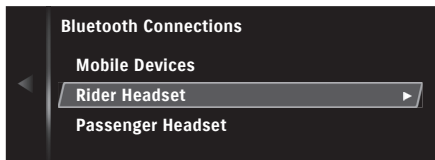


3. “Bluetooth Connections” 設定画面を表示し、“Rider Headset” の項目を選択します。

(セレクトスイッチ ▲ / ▼)

4. 決定します。

(セレクトスイッチ ▶)

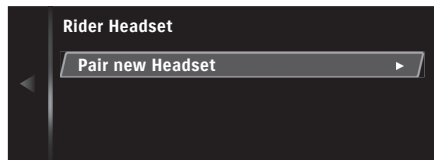


5. “Rider Headset” 設定画面を表示し、“Pair new Headset” の項目を選択します。



(セレクトスイッチ ▲ / ▼)

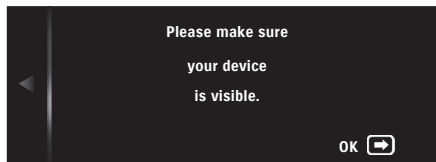
6. 決定します。

(セレクトスイッチ ▶)



取扱いの方法

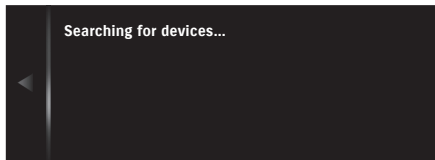
7. ヘッドセットデバイスの検出画面に
“Please make sure your device is
visible” と表示されます。
8. **OK**  を選択（決定）します。
（セレクトスイッチ ）



アドバイス

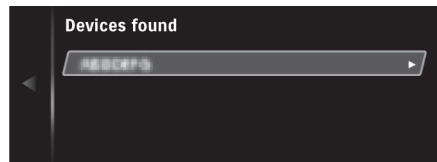
ヘッドセットデバイス側のペアリング方法については、ヘッドセットデバイスの取扱説明書等をご覧ください。

9. ヘッドセットデバイスの検索画面に
“Searching for devices…”と表示され
デバイスの検索を開始します。



10. 検索されたヘッドセットデバイスを確認
します。
(セレクトスイッチ ▶▶)

“Devices found”画面から登録するヘッド
セットデバイスを選択すると登録が完了
します。
(セレクトスイッチ ▶▶)

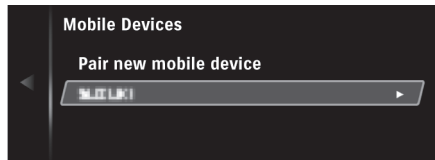


<登録済み各デバイスの接続と削除>

スマートフォン (Mobile Devices)、ライダーヘッドセット (Rider Headset)、パッセンジャーヘッドセット (Passenger Headset) の各デバイスの接続と削除は、同様の手順で行ってください。

- “Mobile Devices” を例として説明しています。

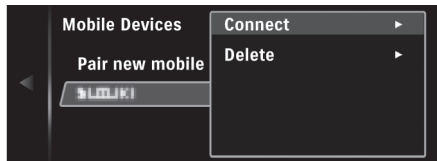
1. “Mobile Devices” 設定画面を表示します。登録済み各デバイスの項目が表示されます。設定するデバイスの項目を選択します。
(セレクトスイッチ ▲ / ▼)
2. 決定します。
(セレクトスイッチ ▶)



3. 設定項目を選択します。
 (セレクトスイッチ ▲ / ▼)

4. 決定します。
 (セレクトスイッチ ▶)

- “Connect (接続)” :
 登録済みのデバイスに接続します。デバイスを接続していないときに表示します。
- “Disconnect (切断)” :
 接続しているデバイスを切断します。デバイスを接続しているときに表示します。
- “Delete (削除)” :
 登録済みのデバイスを削除します。




アドバイス

接続/切断完了には数秒かかる場合がございます。操作後30秒以上経っても完了しなれば、メインスイッチをOFFにして操作をやり直してください。

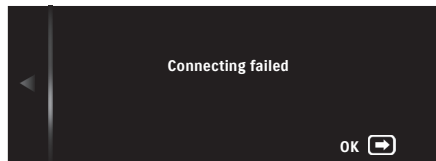
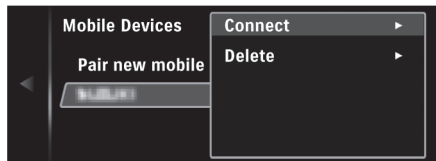
取扱いの方法

こんなときは

“Connect” を決定すると、選択したデバイスとの接続を開始しますが、接続する各デバイスが正しく設定されていないときは、設定画面に“Connecting failed” と表示され接続することができません。

“Connecting failed” の設定画面から **OK**  を選択（決定）します。
(セレクトスイッチ )

接続する各デバイスを正しく設定してから再接続してください。

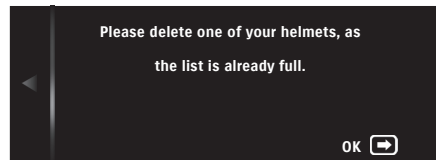
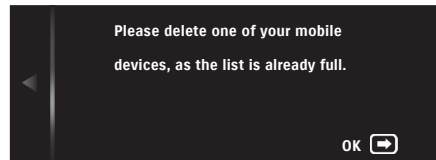


<各デバイスの登録数>

スマートフォン(Mobile Devices)、ライダーヘッドセット (Rider Headset)、パッセンジャーヘッドセット(Passenger Headset)の各デバイスは、それぞれ2つまで登録することができます。

登録済みの各デバイスが2台あり、新たな登録をしようとする、設定画面が次の表示となり登録することができません。

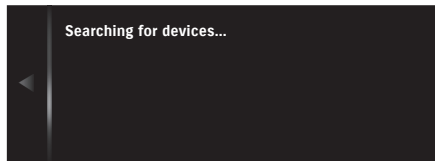
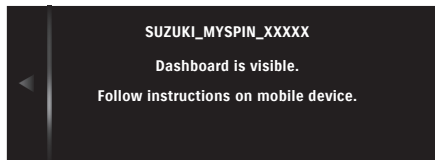
< 登録済み各デバイスの接続と削除 > の項 (P.154)を参照して不要なデバイスの登録を削除してください。



取扱いの方法

登録済みの各デバイスにおいて、1台が車両と接続しているとき、新たなデバイスを登録しようとする、設定画面が以下の表示となり、新たな接続が優先して登録されます。

<スマートフォンデバイスの初回登録>の項(☞ P.146)および<ヘッドセットデバイスの初回登録>の項(☞ P.150)を参照して新たなデバイスの登録をしてください。




② RIDE

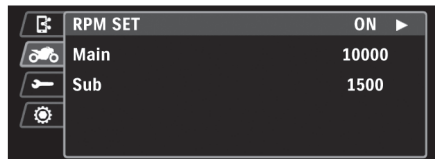
エンジン回転インジケータライト（メイン/サブ）の設定をします。設定されたエンジン回転数に達すると、エンジン回転インジケータライト（メイン/サブ）が点灯または点滅します。

RPM SET

モード設定

エンジン回転インジケータライト（メイン/白）（サブ/緑・黄）の（点灯・点滅・消灯）のモードを設定します。

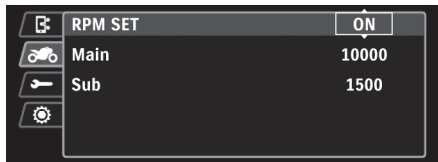
1. メニュービューの“RIDE” から“RPM SET”の項目を選択します。
（セレクトスイッチ  / モードスイッチ **OK**）







取扱いの方法

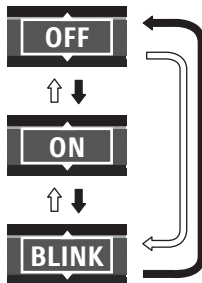
2. “RPM SET” の項目を決定し、選択を示す枠を表示します。




(セレクトスイッチ ) / モードスイッチ 



選択を示す枠の表示中にモードを選択します。
(セレクトスイッチ  / 


- “OFF” → “ON” → “BLINK” → “OFF”
(セレクトスイッチ 
- “OFF” ⇔ “BLINK” ⇔ “ON” ⇔ “OFF”
(セレクトスイッチ 



3. 枠が消えると選択したモードが確定します。
 (セレクトスイッチ  / モードスイッチ **OK**)
4. メータに表示されるエンジン回転インジケータ表示 “” は、ON (点灯)、BLINK (点滅) の選択と連動し点灯します。
- エンジン回転インジケータライト (メイン/サブ) とエンジン回転インジケータ表示 “” の表示を下記に示します。

モード	ON	BLINK	OFF
メインLED	点灯	点滅	-
サブLED	点灯	点灯	-
エンジン回転インジケータ表示 			-

ⓘアドバイス

- モードの選択が“OFF”の場合、“Main”および“Sub”の選択ができません。この場合、“ON”もしくは“BLINK”を選択してください。
- バッテリーを再接続したときは、エンジン回転インジケータライトを再設定してください。
- 設定中にライトビューへの切り替え(強制終了)が可能です。この場合、終了時の設定が採用されます。
 (モードスイッチ  を長押し)
- メインスイッチをオフ(OFF)にしたときや走行を開始したときは、設定が終了します。この場合、終了時の設定が採用されます。

取扱いの方法

Mainの設定

エンジン回転インジケータライト（メイン／白）の点灯タイミング（エンジン回転数）を設定します。

1. モード設定にて“ON”または“BLINK”を選択します。
（セレクトスイッチ ▲ / ▼）
2. “Main”の項目を選択します。
（セレクトスイッチ ▲ / ▼）



3. “Main” の項目を決定し、選択を示す枠を表示します。

(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)

選択を示す枠の表示中に “Main” の設定回転数を選択します。

(セレクトスイッチ **▲** / **▼**)



設定回転数の範囲は、次の通りです。

- 250 r/min毎、
- 4,000 r/min ~ 11,750 r/min (レッドゾーンの開始回転数)

4. 枠が消えると選択した設定回転数が確定します。

(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)

Subの設定

エンジン回転インジケータライト（サブ／緑・黄）の点灯タイミング（エンジン回転数）を設定します。

1. モード設定にて“ON”または“BLINK”を選択します。
（セレクトスイッチ ▲ / ▼）
2. “Sub”の項目を選択します。
（セレクトスイッチ ▲ / ▼）

	RPM SET	ON
	Main	10000
	Sub	1500
		

3. “Sub” の項目を決定し、選択を示す枠を表示します。

(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)

選択を示す枠の表示中に “Sub” の設定回転数を選択します。

(セレクトスイッチ **▲** / **▼**)



設定回転数は、次の通りです。

250 r/min	↔	500 r/min	↔
1,000 r/min	↔	1,500 r/min	↔
2,000 r/min	↔	2,500 r/min	↔
3,000 r/min	↔	250 r/min	

4. 枠が消えると選択した設定回転数が確定します。

(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)

取扱いの方法

例：Main設定を10,000 r/minに設定した場合

サブ設定回転数 (r/min)	サブLED回転数 (r/min)		メインLED回転数 (r/min) (白)
	(緑)	(黄)	
250	9,500	9,750	10,000
500	9,000	9,500	10,000
1,000	8,000	9,000	10,000
1,500	7,000	8,500	10,000
2,000	6,000	8,000	10,000
2,500	5,000	7,500	10,000
3,000	4,000	7,000	10,000

例：Main設定を10,000 r/minに設定し、Sub設定を500 r/minに設定した場合

エンジン回転数 (r/min) および設定回転数 (r/min)	サブLED		メインLED (白)
	(緑)	(黄)	
エンジン回転数 < 9,000	—	—	—
9,000 ≤ エンジン回転数 < 9,500	点灯	—	—
9,500 ≤ エンジン回転数 < 10,000	点灯	点灯	—
10,000 ≤ エンジン回転数	点灯	点灯	点灯/点滅

③ SERVICE

WARNING MANAGER

現在、車両で起きている不具合または故障の情報を確認します。WARNING MANAGERは、不具合が発生しているときのみ選択できます。



1. メニュービューの “SERVICE” から “WARNING MANAGER” の項目を選択します。



(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)

(セレクトスイッチ **▲** / **▼**)

決定します。

(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)


2. 不具合または故障の情報を確認することができます。

(セレクトスイッチ  / )



故障の情報

アドバイス

故障内容等、詳細は、「故障診断表示」( P.90)を参照してください。

NEXT SERVICE

サービスリマインダは、日付と距離の設定をもとに、点検表示によって次回の点検時期をお知らせします。

▲警告

サービスリマインダ表示が点灯したまま乗り続けると、車両に悪影響を与え、故障の原因になるおそれがあります。

点灯したときは、速やかに点検整備を受け、スズキ販売店でサービスリマインダの再設定を行ってください。

アドバイス

サービスリマインダの設定はスズキ販売店にご相談ください。

<サービスリマインダの設定値（日付・距離） の確認>

1. メニュービューの “SERVICE” から
“NEXT SERVICE” の項目を選択します。
(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)
(セレクトスイッチ **▲** / **▼**)

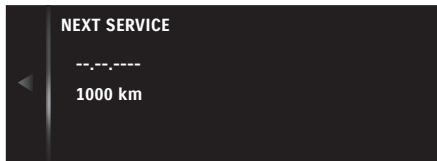
決定します。

(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)



取扱いの方法

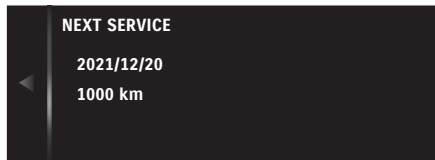
2. サービスリマインダの設定値（日付・距離）を確認します。




- 工場出荷時の設定（日付・距離）
 - “----.---” 日付（年、月、日）
 - 1,000 km

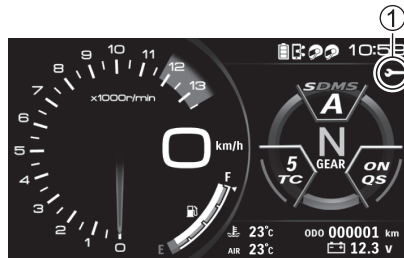
<サービスリマインダ表示の点灯前>

- 設定された日付を表示します。
- 設定された距離までの残りの距離を表示します。

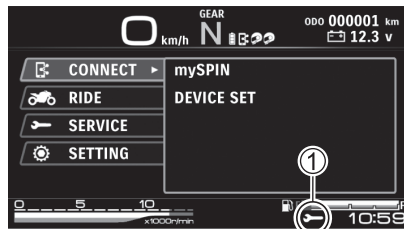


<サービスリマインダ表示の点灯時>

- 設定された日付もしくは距離に達すると、
 マーク ①を表示します。
- 距離と日付のどちらかが先に到達しても、距離は - km、日付は設定された日付を表示します。



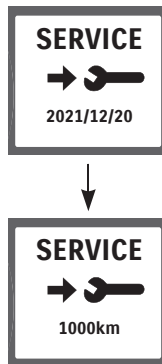
ライドビュー




メニュービュー

<オープニング予告>

メインスイッチを**ON**にすると、設定された日付および距離に対して、残り1か月、もしくは、残り1,000 kmに達した際に、点検時期の予告を3秒間表示します。



<オープニングアラーム>

サービスリマインダ表示が点灯したとき、メインスイッチを**ON**にすると、3秒間アラーム表示をします。3秒経過後、もしくは、セレクトスイッチ  を押すとアラーム表示は消灯します。



④ SETTING

“SETTING”には、次の項目があります。詳細は、それぞれの参照先をご確認ください。

- BRIGHTNESS (P.176)
- DAY/NIGHT (P.178)
- UNIT (P.181)
- DATE/TIME (P.185)
- DEFAULT SET (P.193)
- SYSTEM INFO (P.196)

各項目の設定

BRIGHTNESS

メータディスプレイの輝度を“BRIGHT”（明色）、“MEDIUM”（中間色）、“DARK”（暗色）の設定から選択できます。

▲警告

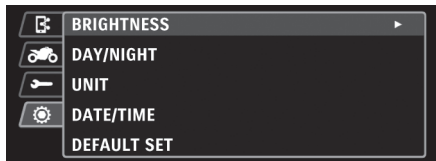
メータディスプレイの輝度は周辺の明るさに合わせて光センサによって変化します。光センサをシールなどでかくすと明るい場所でメータ表示が読み取れなくなり、事故の原因になるおそれがあります。

光センサおよび周辺にシールを貼ったり、光を遮るものを置いたりしないでください。

1. メニュービューの “SETTING” から
 “BRIGHTNESS” の項目を選択します。
 (セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)
 (セレクトスイッチ **▲** / **▼**)

決定します。

(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)



2. 設定項目を選択します。
 (セレクトスイッチ **▲** / **▼**)



3. 設定項目を決定します。

(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)

● が選択した項目に移動し、同時に設定が切り替わります。



DAY/NIGHT

メータディスプレイの背景色をAUTO (自動), WHITE (デイモード/白), BLACK (ナイトモード/黒)の3つの設定から選択できます。

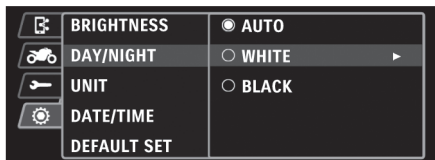
1. メニュービューの “SETTING” から “DAY/NIGHT” の項目を選択します。
(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)
(セレクトスイッチ **▲** / **▼**)

決定します。

(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)

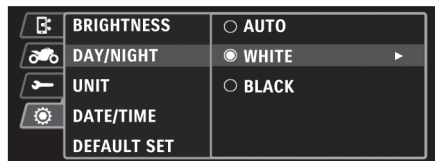


2. 設定項目を選択します。
 (セレクトスイッチ ▲ / ▼)



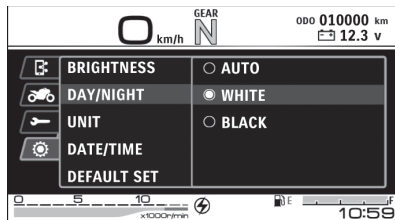
3. 設定項目を決定します。
 (セレクトスイッチ ▶ / モードスイッチ OK)

が選択した項目に移動し、同時に設定が切り替わります。



取扱いの方法

4. AUTO (自動)、WHITE (デイモード/白)、BLACK (ナイトモード/黒) の各設定が決定されると同時にメータディスプレイの背景色が切り替わります。AUTO (自動) を選択した場合は、実行時の照度に合わせて背景色を決定します。



WHITE (デイモード/白)



BLACK (ナイトモード/黒)

UNIT

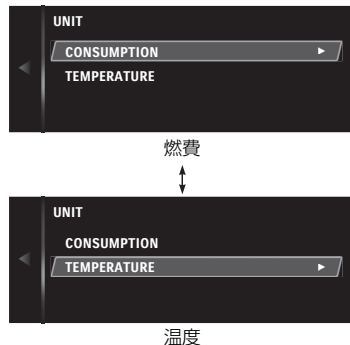
次の手順で距離、燃費、外気温および水温の単位を設定します。

1. メニュービューの “SETTING” から “UNIT” の項目を選択します。
 (セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)
 (セレクトスイッチ **▲** / **▼**)
2. 決定します。
 (セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)

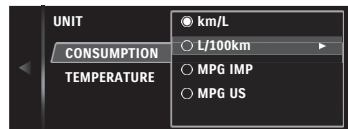


取扱いの方法

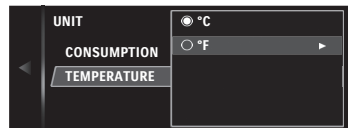
- 設定項目を選択します。
(セレクトスイッチ ▲ / ▼)
- 決定します。
(セレクトスイッチ ▶)



5. 各項目の設定画面を表示し、設定項目を選択します。
 (セレクトスイッチ ▲ / ▼)



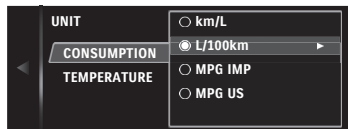
燃費測定単位



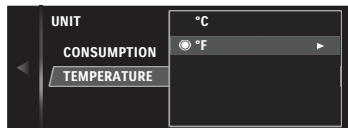
温度測定単位

6. 設定項目を決定します。
(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)

● が選択した項目に移動し、同時に設定が切り替わります。



燃費測定単位



温度測定単位

DATE/TIME

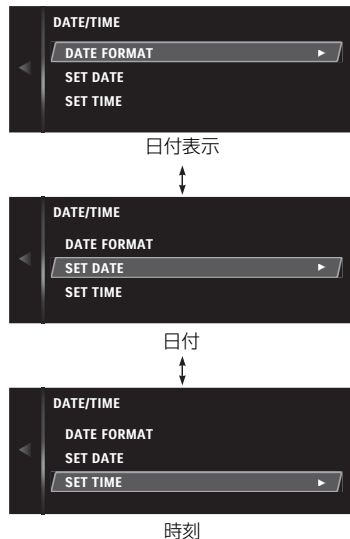
次の手順で日付と時刻を設定します。

1. メニュービューの “SETTING” から “DATE/TIME” の項目を選択します。
 (セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)
 (セレクトスイッチ **▲** / **▼**)
2. 決定します。
 (セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)



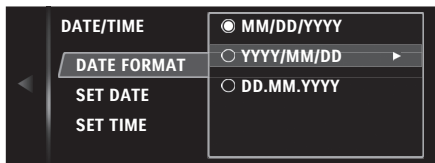
取扱いの方法

3. 設定項目を選択します。
(セレクトスイッチ ▲ / ▼)
4. 決定します。
(セレクトスイッチ ▶)




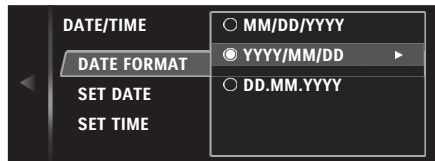
<DATE FORMAT（日付表示）の設定>

1. “DATE FORMAT” の設定画面を表示し、設定項目を選択します。
（セレクトスイッチ  / ）



2. 決定します。
（セレクトスイッチ  / モードスイッチ **OK**）

 が選択した項目に移動し、同時に設定が切り替わります。





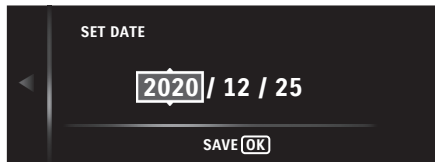
<日付表示の設定>

年、月、日の表示順序は、次の3パターンから選択できます。

- MM/DD/YYYY（月、日、年）
- YYYY/MM/DD（年、月、日）
- DD.MM.YYYY（日、月、年）

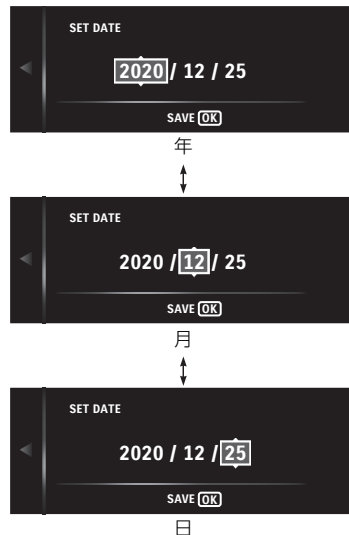
<SET DATE（日付）の設定>

1. “SET DATE” の設定画面を表示します。
設定項目（選択を示す枠）を設定します。
（セレクトスイッチ  / ）



2. 日付（年 / 月 / 日）の各設定項目（選択を示す枠）が切り替わります。
 （セレクトスイッチ ▶ / ◀）

（例：DATE FORMAT(日付表示)
 YYYY/MM/DD を選択した場合）



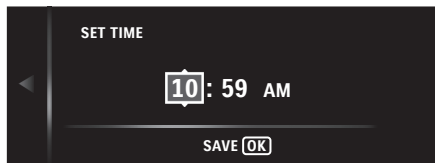
3. 日付(年/月/日)の設定項目を決定します。
(モードスイッチ **OK**)

アドバイス

- 年表示は2019年から2099年まで設定できます。
- バッテリーを再接続すると日付はリセットされます。再設定をしてください。

<SET TIME (時刻) の設定>

1. “SET TIME” の設定画面を表示します。
設定項目(選択を示す枠)を設定します。
(セレクトスイッチ **▲** / **▼**)



2. 時刻（時 / 分 / AM・PM）の各設定項目
 （選択を示す枠）が切り替わります。
 （セレクトスイッチ ▶ / ◀）



3. 時刻（時 / 分 / AM・PM）の設定項目を決定します。
（モードスイッチ **OK**）

アドバイス

バッテリーを再接続すると時刻はリセットされます。再設定をしてください。

DEFAULT SET

以下の項目を初期設定値に戻すことができます。

項目		初期設定値
BRIGHTNESS		MEDIUM (中間色)
DAY/NIGHT		WHITE (デイモード/白)
RPM SET	MODE	OFF
	MAIN	11,750 r/min
	SUB	3000 r/min
UNIT	CONSUMPTION	km/L および L/100 km
	TEMPERATURE	℃
DATE/TIME	DATE FORMAT	YYYY/MM/DD

Bluetooth アドバイス

Bluetoothの接続(ペアリング)も解除されます。

<初期設定値へ戻す>

1. メニュービューの “SETTING” から “DEFAULT SET” の項目を選択します。
(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)
(セレクトスイッチ **▲** / **▼**)
2. 決定します。
(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)



3. “DEFAULT SET” (初期設定値) の確認画面が表示されます。

Yes **▶** :

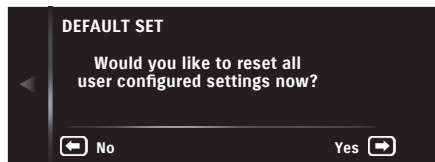
初期設定を決定します。


(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)


◀ **No** :

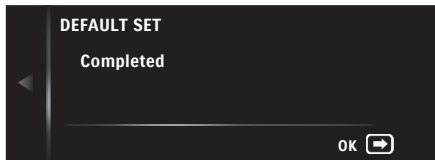
初期設定をキャンセルして前の画面へ戻ります。

(セレクトスイッチ **◀** / モードスイッチ **↶**)



4. **Yes**  の決定後、確認画面が次の表示に切り替わります。

OK  を決定すると、1. の画面へ戻ります。



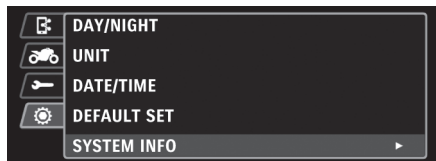
 アドバイス

確認画面に“Failed”と表示したときは初期化できていません。何度もFailedが表示される場合は、スズキ販売店にご相談ください。

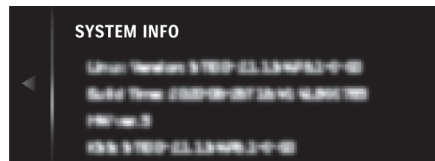
SYSTEM INFO

ソフトウェアのバージョン情報を確認できます。

1. メニュービューの “SETTING” から “SYSTEM INFO” の項目を選択します。
(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)
(セレクトスイッチ **▲** / **▼**)
2. 決定します。
(セレクトスイッチ **▶** / モードスイッチ **OK**)



3. “SYSTEM INFO” の画面が表示されます。



運転アシストシステムの設定

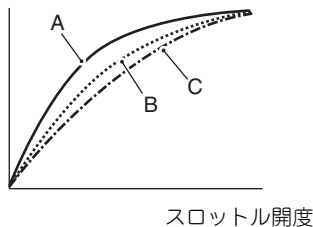
■ ドライブモード (SDMS)

ドライブモード (SDMS) とは、高速クルージングや混雑路など様々な走行状況の中でライダーの好みに応じたエンジンの出力特性を、A、B、Cのドライブモードから選択することができる装置です。



ドライブモードの特性

エンジン出力



<Aモード>

最もシャープなスロットルレスポンスであり、すべてのスロットル開度において最大のエンジン出力が得られる特性

<Bモード>

Aモードより中間のスロットル開度までスロットルレスポンスがマイルドな特性

<Cモード>

Bモードより高いスロットル開度までスロットルレスポンスがマイルドな特性

取扱いの方法

モードの設定

ドライブモードは次の手順で操作します。
なお、メインスイッチを**ON**にすると、メインスイッチを**OFF**にしたときのドライブモードが選択されます。

1. ライドビューを表示し、ドライブモード表示 (SDMS 表示) を選択します。
(モードスイッチ **OK**)

選択された項目がハイライト表示します。



2. スロットルグリップを完全に閉じた状態で
ドライブモードを選択します。

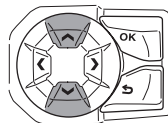
(セレクトスイッチ ▲ / ▼)

- C ➡ B ➡ A

(セレクトスイッチ ▲)

- A ⇄ B ⇄ C

(セレクトスイッチ ▼)



アップまたはダウン



3. ドライブモード表示（SDMS 表示）に、選択されたドライブモードが表示されます。



▲ 警告

ドライブモードを走行中に操作すると、エンジン速度とエンジン出力が変動し、走行安定性を損なうことがあります。

ドライブモードの操作は、停車して行ってください。

🔊 アドバイス

- ドライブモードを操作すると、エンジン出力特性が切り替わるため、エンジン回転数が変化します。
- ドライブモードの切り替え操作に失敗した場合は、ドライブモード表示（SDMS表示）が点滅します。

- スロットルが開いているときは、ドライブモードの切り替えができません。ドライブモードの切り替えは、スロットルを閉じて行ってください。スロットルグリップを完全に戻した状態でドライブモードを切り替えられないときは、安全な場所に車両を停止して、メインスイッチを一旦OFFしてください。再度メインスイッチをONにしても切り替えができない場合はスズキ販売店で点検を受けてください。
- モードの切り替えができないときは、セレクトスイッチ  /  を押したとき、ドライブモード表示（SDMS表示）が点滅します。

■ トラクションコントロールシステム

トラクションコントロールシステムとは、スロットルグリップを回しているときにシステムがリヤタイヤの空転を感知すると、エンジン出力を制御してリヤタイヤのグリップ力を回復させる機能です。

トラクションコントロールシステムがエンジン出力を制御しているときは、TCインジケータライトが点滅します。

▲ 警告

指定サイズ以外のタイヤを使用すると、トラクションコントロールシステムが正常にエンジン出力を制御することができません。

タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。

▲ 警告

トラクションコントロールシステムは、あらゆる条件下での後輪のスリップ（空転）を完全に制御したり、転倒を防止したりするものではありません。

カーブでのオーバースピードや深すぎるバンク角による横すべり、ブレーキングやエンジンブレーキなどによるリヤタイヤのスリップ（空転）は、制御することができません。技量、天候、路面状況に応じた適切な速度で運転してください。

👉 アドバイス

- トラクションコントロールシステムがエンジン出力を制御すると、エンジン音や排気音に変化することがあります。
- 急加速や悪路走行などで前輪または後輪が地面から離れた場合、トラクションコントロールシステムがエンジン出力を制御することがあります。
- トラクションコントロールシステムがエンジン出力を制御したとき、スロットルグリップを回してもエンジン出力が上がらない場合があります。そのときは、一旦スロットルグリップを完全に戻すと正常な状態に戻ります。

トラクションコントロールシステムは、OFFまたは5種類の感度（モード1～5）に設定することができます。

トラクションコントロールシステムは、リヤホイールの空転を少なくするようにエンジン出力を制御します。感度レベルはモード1が感度レベルが最も低く、モード5が感度レベルが最も高く設定されています。

OFFを選択すると、リヤホイールが空転しても、エンジン出力を制御しません。

アドバイス

運転する前に、メータ内のトラクションコントロールシステム表示で設定モードを確認してください。



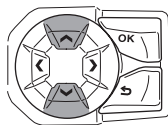
モードの設定

1. ライドビューを表示し、トラクションコントロールシステム表示(TC)を選択します。
(モードスイッチ **OK**)

選択された項目がハイライト表示します。

2. トラクションコントロールシステムのモードを選択します。
(セレクトスイッチ **▲** / **▼**)

- モードは5～OFFの順に切り替わります。
(セレクトスイッチ **▲**)
- モードはOFF～5の順に切り替わります。
(セレクトスイッチ **▼**)



アップまたはダウン





▲ 警告

走行中にメータやスイッチを注視すると事故の原因になります。

トラクションコントロールシステムのモードの切り替えは、回りの安全に十分に注意して行ってください。

📢 アドバイス

- スロットルグリップを完全に戻していないときは、モードの切り替えができません。選択中のトラクションコントロールシステム表示が点滅します。モードの切り替えをするときは、スロットルグリップを完全に戻した状態で行ってください。スロットルグリップを完全に戻した状態でモードを切り替えられないときは、安全な場所に車両を停止して、メインスイッチを一旦OFFしてください。再度メインスイッチをONにしても切り替えができない場合はスズキ販売店で点検を受けてください。
- モードの切り替えができないときは、セレクトスイッチ  /  を押したとき、トラクションコントロールシステム表示が点滅します。

■ クイックシフト(QS)

クイックシフトの設定を “OFF” または “ON” に設定します。

クイックシフトを “ON” に設定すると、ギヤチェンジの際、スロットルグリップおよびクラッチレバーの操作が不要になります。

アドバイス

クイックシフトを使用した走りかたの詳細は
<クイックシフトの操作方法> (P.249)
をご覧ください。



モードの設定

1. ライドビューを表示し、クイックシフト表示 (QS) を選択します。
(モードスイッチ **OK**)

選択された項目がハイライト表示します。




2. クイックシフトの設定、“ON”または“OFF”を選択します。

(セレクトスイッチ  / )

モード “OFF”

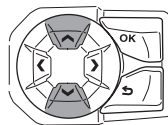
クイックシフトが機能しません。

- セレクトスイッチ  を押すと “OFF” に切り替わります。

モード “ON”

クイックシフトが機能します。

- セレクトスイッチ  を押すと “ON” に切り替わります。



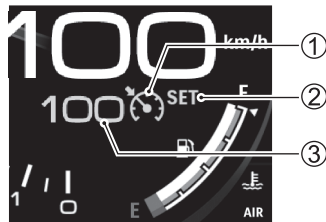
アップまたはダウン



■ クルーズコントロールシステム

クルーズコントロールは、高速道路などの加減速の少ない道路において、スロットルグリップを操作しなくてもセットした速度で定速走行できる機能です。

セットした速度をキャンセルした後に、前回セットした速度に戻るレジューム機能も備えています。



- ① クルーズコントロール表示
- ② SET 表示
- ③ 目標车速 (レジューム時)

ⓘ アドバイス

- セット可能条件を満たしていないなどで、スタンバイ状態から車速をセットできないときは、クルーズコントロール表示が点滅します。
 - 上り坂や下り坂などの道路状況によっては、クルーズコントロールが定速車速を保てない場合があります。
 - メインスイッチをOFFにすると、クルーズコントロールはオフに設定されます。
 - レジューム機能を使用したときに表示する目標車速は、実際の速度を示しているものではありません。車両速度はスピードメータをご覧ください。
 - クルーズコントロール機能を使用している場合も、法定速度を守って走行してください。
- メータのクルーズコントロール表示が点滅した後、消灯し、点灯状態にならない場合は、システムに異常が発生した可能性があります。もし、右ハンドルスイッチのクルーズコントロールスイッチを押してもクルーズコントロール表示が点灯状態にならない場合は、安全な場所に車両を停止して、メインスイッチを一旦OFFしてください。再度メインスイッチをONにし、クルーズコントロールスイッチを押しても、クルーズコントロール表示が点灯状態にならない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

▲警告

クルーズコントロールの誤使用は、意図しない加速などの原因となり事故につながるおそれがあります。

クルーズコントロールを使用しないときは、設定をオフにしてください。

▲警告

天候や道路の状況によっては、クルーズコントロールを使用すると安全を損ない、事故などの原因になるおそれがあります。

次のような状況では、使用しないでください。

- 悪天候時
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 未舗装路
- すべりやすい道
- 急な下り坂

定速車速セット条件

定速車速をセットするには、次の条件を満たしている必要があります。

- クルーズコントロールがスタンバイ状態になっていること
- ギヤが2速以上で2,000 r/min以上のとき

クルーズコントロール表示

右ハンドルスイッチのクルーズコントロールスイッチ ① を押すと、メータにクルーズコントロール表示 ② が点灯します。

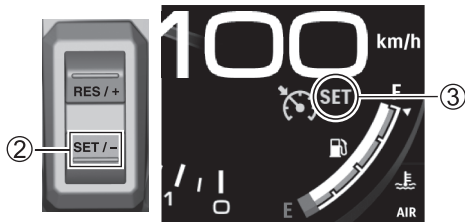


車速セット

1. セット可能条件を満たしているときは、クルーズコントロール表示①が点灯します。



2. クルーズコントロール表示①が点灯した状態で、設定したい車速になったときに左ハンドルスイッチのクルーズスピードスイッチ **SET/-** ②を押すと車速のセットが完了し、スロットルグリップを戻してもそのときの車速で定速走行します。車速をセットすると、クルーズコントロールの SET 表示③が点灯します。



3. 設定車速での走行中は、クルーズスピードスイッチの **RES/+** と **SET/-** で車速の調整ができます。

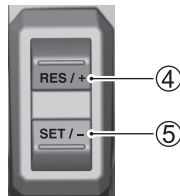
設定可能速度：30 km/h以上

クルーズスピードスイッチ **RES/+** ④

- 短押し：約1 km/h増速
- 長押し：連続増速

クルーズスピードスイッチ **SET/-** ⑤

- 短押し：約1 km/h減速
- 長押し：連続減速



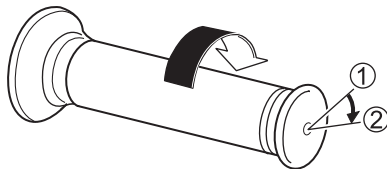
ⓘアドバイス

セットした速度で定速走行しているときにスロットルグリップを回すと、セットした速度以上に加速できます。スロットルグリップを戻すと設定していた車速に戻ります。また、設定車速以上で走行中にクルーズスピードスイッチ **SET/-** を押し、設定車速がその時の車速に更新されます。

定速走行のキャンセル

以下の操作を行うと、定速走行をキャンセルし、スタンバイ状態に戻ります。

- スロットルグリップを全閉位置①から閉じる方向へ回したとき



② キャンセル位置

- クラッチレバーを握ったとき
- ブレーキレバーやブレーキペダルを操作したとき
- エンジン回転数が 2,000 r/min を下回ったとき
- ギヤが1速になったとき
- シフトチェンジをしたとき
- 坂道などで、セットした速度に長時間到達できないとき
- タイヤが空転したとき
- クルーズコントロールを解除（オフ）したとき（P.218）

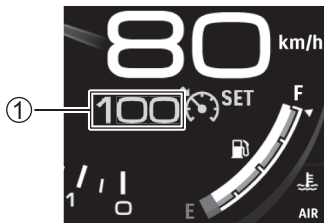
ⓘアドバイス

システムに異常が発生したときにも、定速走行はキャンセルされます。

レジューム機能

システムに定速走行をキャンセルしたときの設定値データが残っているときは、クルーズスピードスイッチ **RES/+** を押すとキャンセル時の目標車速に戻すことができます。

レジューム機能が働いているときは、目標車速に戻るまで目標車速 ① を表示します。



以下のときには、レジューム機能は使用できません。

- エンジン回転数が 2,000 r/min を下回ったとき
- メインスイッチを**OFF**にしたとき
- クルーズコントロールをオフにしたとき

▲ 警告

前回キャンセルしたときの設定車速より速度が遅い状態でレジューム機能を使うと車両が加速しますので、不適切な道路状況での使用は事故の原因になります。

前回キャンセルしたときの設定車速を考慮した上で使用してください。

メインスイッチ

クルーズコントロールの解除（オフ）

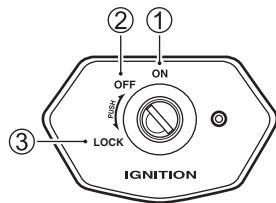
クルーズコントロールスイッチを押すと、システムがオフになります。オフになると同時に、クルーズコントロール表示が消灯します。

ⓘアドバイス

システムに異常が発生したときにも、クルーズコントロールはオフになります。

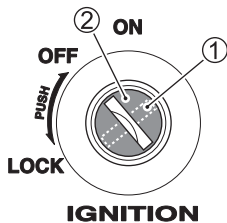
■ ポジション

メインスイッチにはON ①・OFF ②・LOCK ③の3つのポジションがあります。

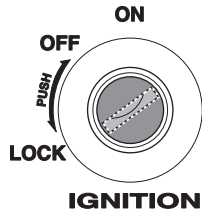


アドバイス

- メインスイッチのキー穴 ① をカバーするリッド②を設けています。



- リッド穴がずれているときは、リッド穴をキー穴に合わせてください。



▲警告

衝突やスリップにより転倒した場合は、車両に想定できない異常が発生する可能性があります。また、車両の異常により火災が発生したり、リヤホイールなどの回転する部品に巻き込まれたりする可能性があります。

転倒した場合は、すぐにメインスイッチをオフにして、すべての装置を停止してください。転倒したときに、見えない部分に損傷を受けている可能性があるため、スズキ販売店にて点検を受けてください。

▲警告

走行中はキーを操作しないでください。思わぬ事故につながる可能性があります。

キーは停車後、操作してください。

— 注記 —

走行中にメインスイッチを操作するとエンジンが円滑に回転なくなり、エンジンや触媒装置に悪影響を与えます。

メインスイッチは走行中に操作しないでください。

OFF

- エンジンが停止します。
- ライト類が消灯します。
- キーが抜けます。

ON

- エンジンの始動・走行ができます。
- 次のランプが点灯します。
 - ヘッドランプ
 - テールランプ
 - ポジションランプ
 - ライセンスランプ
- キーが抜けません。

LOCK

- ハンドルがロックします。
- ランプ類が点灯しません。
- キーが抜けます。

車から離れるときは、盗難抑止のためにハンドルロックをかけましょう。チェーンロックなどの併用もおすすめします。

<ハンドルロックのかけかた>

1. ハンドルを左へいっぱいにきります。
2. キーを押し込みながら OFF から LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

ⓘアドバイス

- ハンドルを左右に動かして、確実にロックされているか確認してください。
- ロックがかかりにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回してください。

<ハンドルロックの外しかた>

キーを差し込み、押しながらOFFまで回します。

⚠警告

ハンドルをロックしたまま車を動かすと、バランスを失って転倒する原因になります。

サイドスタンドを出してからハンドルをロックしてください。ハンドルをロックをしたまま車を動かさないでください。

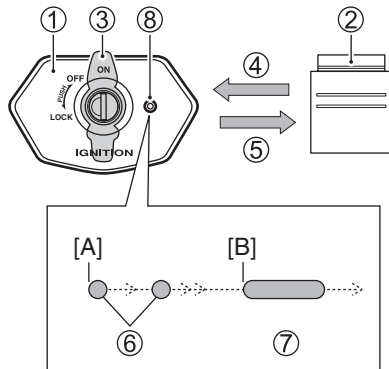
ⓘアドバイス

- 走行前にハンドルを左右に動かして、切れ角が左右均等かを確認してください。
- メインスイッチのキー穴をカバーするリッドを設けています。リッド穴がずれているときは、リッド穴をキー穴に合わせてください。

■ イモビライザ

差し込まれたキーのIDが車のECMに登録されているものかどうかを照合し、始動の可否を判定します。

メインスイッチ ① を**ON**にすると、ECM ② はキー ③ に内蔵されているコントローラにID ④ の送信を指令します。(このとき登録されているキーの個数と同じ回数だけイモビライザ警告灯が点滅 ⑥ します) これを受けてキーはID ⑤ を送信、ECMが正しいと判断すると始動可能となりイモビライザ警告灯 ⑧ が2秒間点灯 ⑦ します。



[A] : メインスイッチ ON

[B] : エンジン始動可

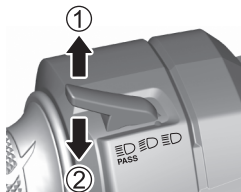
⑧ : イモビライザ警告灯

Ⓐアドバイス

- イモビライザ警告灯がいつまでも点滅する場合はキーが違っているか、送信異常です。メインスイッチをOFFにしてやり直してください。
 - キーは当初2個登録されています。さらに2個まで追加登録が可能です。この登録されているキーの個数と同じ回数だけ警告灯が点滅します。
 - キーを2つとも紛失してしまうと、blankキー 2個とECMまで交換しなければなりません。予備のキーはしっかり保管してください。
- キーを差し込むときに、この車のスペアキーや他の車のイモビライザ対応キーをイモビライザアンテナに近づけるとイモビライザシステムが正常に作動しなくなることがあります。キーホルダにイモビライザ対応のキーを2個以上付けしないでください。
 - 金属製のもの、磁気を帯びたもの、電波を発信するものはイモビライザの通信に悪影響を与えるため、キーホルダに付けたり、キーに近づけないでください。

ハンドルスイッチ

■ ディマスイッチ / パッシングスイッチ



- ① ハイビーム
- ② パッシング

ディマスイッチ

上向きまたは下向きにヘッドランプの向きを切り替えます。

<ハイビーム “” >

スイッチを前方に押すと、ヘッドランプが上向きになります。

<ロービーム “” >

スイッチを手前に引くと、ヘッドランプが下向きになります。

パッシングスイッチ “ ”

スイッチを手前に引いている間、ハイビームが点灯します。スイッチをはなすとロービームにもどります。

アドバイス

対向車や先行車があるときはロービームで走行してください。

注記

ランプの熱によりレンズが溶けたり置いた物が損傷することがあります。

停車中に点灯したヘッドランプやテールランプを物でさえぎったり衣類などを被せないでください。

注記

ヘッドランプにテープ類を貼ると貼り付けた箇所がランプの熱で溶けるおそれがあります。

ヘッドランプにテープ類を貼らないでください。

■ セレクトスイッチ ▲ / ▼ / ▶ / ◀

表示切替えや各システムの設定に使用します。
詳細は「各項目の設定」(P.99)を参照してください。

■ モードスイッチ OK / ↵

表示切替えや各システムの設定に使用します。
詳細は「各項目の設定」(P.99)を参照してください。

■ クルーズスピードスイッチ

RES/+ / SET/-

クルーズコントロールシステムの操作(設定)に使用します。詳細は「クルーズコントロールシステム」(P.210)を参照してください。

■ ホーンスイッチ 𠂇

スイッチを押している間、ホーン(警音器)が鳴ります。

■ ターンシグナルスイッチ ⇐⇒

右折または左折するときや進路変更などの合図に使います。

右折 ⇨

スイッチを⇨側にすると、右側ターンシグナルランプが点滅します。解除するにはスイッチを前に押します。

左折 ⇐

スイッチを⇐側にすると、左側ターンシグナルランプが点滅します。解除するにはスイッチを前に押します。



▲ 警告

ターンシグナルスイッチは、点滅したままにしておくと周囲の誤判断を招き、事故を起こすおそれがあります。

ターンシグナルスイッチは自動的に解除されませんので、使用後は必ずスイッチを前に押し解除してください。

■ エンジンストップスイッチ / スタータスイッチ

エンジンストップスイッチ

転倒などの非常時に、直ちにエンジンを停止させます。エンジンストップスイッチを“” (STOP) 側に押すとエンジンが停止します。通常は“” にしておきます。

<>

エンジン関連の電気回路がつながっています。






- エンジンの始動ができます。

<>

エンジン関連の電気回路がつながっていません。

- エンジンが停止します。
- エンジンの始動ができません。

注記

走行中にエンジンストップスイッチを→や→→にすると、エンジンが円滑に回転しなくなり、エンジンや触媒装置に悪影響を与えます。

緊急時を除いて、走行中には使用しないでください。

アドバイス


エンジンストップスイッチでエンジンを停止したときは、必ずメインスイッチをOFFにしてください。ONのままにしておくとバッテリーあがりの原因になります。

スタータスイッチ “”

スタータスイッチを押すことでスタータモーターが回転して、エンジンを始動します。

詳細は「エンジンのかけかた」(P.231)を参照してください。

ⓘアドバイス

- エンジンストップスイッチが “” のときはエンジンを始動できません。
- スズキイージースタートシステムを装備しているため、スタータスイッチを押すと、スイッチから手を放しても数秒間スタータモーターが回り続けます。数秒間経過するか、エンジンが始動するとスタータモーターは止まります。

■ ハザードスイッチ


故障などの非常時に、停車するとき使用します。スイッチを右へ動かすと、すべてのターンシグナルランプが点滅します。

ⓘアドバイス

非常時以外は、使用しないでください。エンジン停止状態での使用は、バッテリーあがりの原因となります。



エンジンのかけかた

■ クルーズコントロールスイッチ

クルーズコントロールシステムの操作（設定）に使用します。クルーズコントロールスイッチを押すと、クルーズコントロール表示が点灯します。詳細は「クルーズコントロールシステム」（P.210）を参照してください

■ エンジンをかける前に

エンジンは、次の手順でかけてください。

1. エンジンストップスイッチが“”になっていることを確認します。
2. メインスイッチを**ON**にします。
3. ニュートラルインジケータライトの点灯を確認します。点灯しないときは、ギヤシフトレバーを操作してニュートラルにします。
4. エンジン警告灯(MIL)の消灯を確認します。
5. スロットルグリップを閉じたまま、スタータスイッチを押します。
6. 走行前にサイドスタンドが完全に格納されているか確認します。サイドスタンドインタロックの詳細は「サイドスタンドインタロック」（P.237）を参照してください。

注記


エンジンの温度上昇によるエンジン本体や車体の損傷を避けるために次のような使いかたをしないでください。

- 長時間のアイドリング
- 不必要な空ぶかし
- スロットルグリップを開けたまま保持し続ける操作

アドバイス

この車は、スズキイージースタートシステムを装備しているため、スタータスイッチをワンプッシュするだけでエンジンを始動できます。詳細は「スズキイージースタートシステム」(P.235)を参照してください。

エンジンがかかりにくいときは

スタータスイッチを2~3回押してもエンジンがかからないときは、スロットルグリップを1/8ほど回し、スタータスイッチ“”を押します。

警告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。

排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

注記

スタータスイッチを5秒以上押し続けたりすると、消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。

スタータスイッチを5秒以上押し続けたり、スズキイージースタートシステムを連続で使用したりして、スタータモータを連続して回転させないでください。

注記

エンジン警告灯(MIL)が点灯したままスタータスイッチを押し続けると、バッテリーあがりの原因となります。

エンジン警告灯(MIL)が点灯しているときは、スタータスイッチを押し続けしないでください。

注記

エンジンを始動する前に、ギヤポジション表示とニュートラルインジケータライトの状態を確認してください。以下の状態でない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

- ギヤポジション表示が N の表示をしているとき、ニュートラルインジケータライトが点灯していること。
- ギヤポジション表示が(1、2、3、4、5、6)いずれかの表示をしているとき、ニュートラルインジケータライトが消灯していること。

注記

エンジンを始動した後、油圧警告灯が点灯した状態でスロットルを開く、または走行させるとエンジンに悪影響を与えるおそれがあります。

スロットルを操作する前や走行前には油圧警告灯が消えていることを確認してください。

アドバイス

転倒した場合は、エンジンを止めるシステムがエンジンを止めます。また、同時にマスタウォーニングインジケータライトが点灯します。エンジンを再始動するには、車両を起こした後、メインスイッチを一旦OFFにして、再びONにしてください。マスタウォーニングインジケータライトが消灯すると、エンジンの再始動が可能になります。

■ スズキキーースタートシステム

スタータスイッチをワンプッシュするとエンジンを始動できます。スイッチから手を放してもスタータモータが回り続け、数秒が経過するが、エンジンが始動するとスタータモータは止まります。

- ギヤポジションがニュートラルの場合は、クラッチレバーを握らなくてもエンジンを始動することができます。
- ギヤポジションがニュートラルではない場合は、クラッチレバーを完全に握ることでエンジンを始動することができます。

サイドスタンドとギヤの位置によりエンジンが始動しない場合があります。詳細は「サイドスタンドインタロック」(P.237)を参照してください。

アドバイス

バッテリーの状態によっては、スズキキーースタートシステムによるエンジン始動が困難な場合があります。エンジンがかかりにくい場合は、クラッチレバーを完全に握り、ギヤをニュートラルにして、スタータスイッチを押し続けてエンジンを始動してください。それでも始動しない場合は、バッテリーが弱っていますので、バッテリーを充電するか交換してください。もしエンジンがかからないときは、スズキ販売店にご相談ください。

暖機運転は適切に

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行ってから、走行を開始してください。

- 長期間お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（-10℃以下を目安）にあるとき

上記以外のときはエコ運転のため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

注記

エンジン始動直後の空ぶかしや急発進、急加速は、エンジン故障の原因となります。

数十秒から数分程度の暖機運転を行ってから、走行を開始してください。

アドバイス

長時間のアイドリングやスロットルグリップを開けたまま保持し続ける操作は、オーバーヒートの原因となり、エンジンや車体の損傷の原因となります。

■ サイドスタンドインタロック

サイドスタンドを出したままの走行することを防ぐ、外し忘れ防止装置です。サイドスタンドの状態によって次のように作動します。

サイドスタンドが出ている場合

- ギヤが入っているときはエンジンを始動できません。(ニュートラルを除く)
- エンジン回転中にギヤを入れるとエンジンは停止します。

サイドスタンドが出ていない場合

エンジン回転中に、ギヤが入っている状態でサイドスタンドを立てるとエンジンは停止します。

▲ 警告

走行中にサイドスタンドを出すと、エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

走行中はサイドスタンドを操作しないでください。

👉 アドバイス

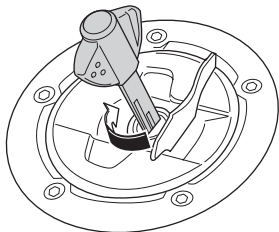
- サイドスタンドを完全に外していないとき、シフトペダルを操作するとエンジンが停止します。
- サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、注油してください。

ガソリンの給油

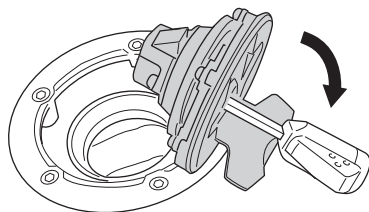
■ 給油の手順

次の手順でガソリンを給油します。

1. フューエルタンクキャップのキーカバーを開けます。
2. キーを差し込み、右に回してロックを解除します。



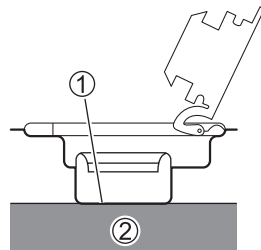
3. キャップを開けます。



4. ガソリンを給油します。
 キャップからガソリンがにじみ出ることがあるため、給油口の下端①以上入れないでください。

指定燃料 : 無鉛プレミアムガソリン
 (無鉛ハイオク)

タンク容量 : 19 L



② ガソリン

5. キャップを押し下げ、キーを左へ回して抜きます。キャップがロックされないとキーは抜けません。

▲ 警告

ガソリンは引火性が高く取扱いを誤ると火災を起こすおそれがあります。

- ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- フューエルタンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。静電気を帯びていると、放電の火花でガソリンに引火するおそれがあります。

- 給油操作は、一人で行い他の人を近づけないでください。
- 給油後、フューエルタンクキャップをカチッと音がするまで確実に閉めてください。
- こぼれたガソリンは、布などで完全にふき取ってください。

注記

加速不良やエンジン出力が出ないなどのエンジンの不調が起きるときは、使用しているガソリンが原因の場合があります。

この場合は、給油するガソリンスタンドを変えてみることをおすすめします。ガソリンスタンドを変えても症状が改善しないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

注記

ガソリンは、アルコールを含んでいるため塗装に損傷をあたえます。

給油するときは、外装に付かない様に注意してください。外装に付いたときは、すぐにふき取ってください。

注記

指定以外の燃料や不適切な添加剤は、エンジン、燃料装置、触媒装置に損傷をあたえるおそれがあります。

無鉛レギュラーガソリン、粗悪ガソリン、有鉛ガソリン、その他アルコール系の燃料や必要な添加剤などは入れないでください。

注記

給油時など、フューエルタンクに砂ほこりや水などの異物が混入すると、フューエルポンプの詰まりの原因となるおそれがあります。

給油するときは、タンク内に異物が入らないように注意してください。

シフトペダル

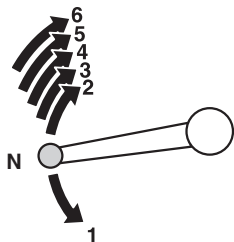
■ シフトペダルについて

トランスミッションは6段変速でギヤシフトペダルを図のように操作します。

6速リターン式で、ニュートラルは1速と2速の中間にあります。

アドバイス

- トランスミッションがニュートラルにあるときは、緑のニュートラルインジケータライトが点灯します。ニュートラルインジケータライトが点灯していても、クラッチレバーはゆっくり操作して確実にニュートラルに入っていることを確認してください。
- クイックシフトを設定している場合は、発進後のシフトアップ時にクラッチレバーの操作は必要ありません。詳細は「<クイックシフトとは>」(P.247)を参照してください。



ギヤ	適応速度 (km/h)
1速	0 ~ 40
2速	15 ~ 60
3速	30 ~ 80
4速	40 ~
5速	45 ~
6速	50 ~

■ シフトペダルの操作方法

トランスミッションは、エンジンの出力に合わせて効率よく運転できるように設計されています。運転するときには、運転の状況に合わせてシフトチェンジしてください。

なお、クラッチの摩耗の原因になるため、半クラッチを車両速度の調節のために使わないでください。

減速時には、エンジンスピードに合わせて、シフトダウンしましょう。

1. サイドスタンドを外します。
2. クラッチレバーを完全に握り、ギヤシフトレバーを操作してギヤを1速に入れ、静かに発進します。

3. 車のスピードに応じてギヤを切り替えま
す。シフトチェンジは、スロットルグリッ
プを一旦戻して、クラッチレバーを完全に
握ってから行ないます。
シフトペダル操作は、つま先で軽く行な
い、ペダルにコツンとを感じるまで確実に
行ってください。

▲警告

コーナリング中のシフトダウンは、リヤタイヤ
のスリップや走行の不安定につながるおそれ
があります。

コーナリングを始める前に、スピードを落とし
てシフトダウンしてください。

▲警告

あまり高い回転数でシフトダウンを行うと、次
の原因になります。

- 強いエンジンブレーキで走行安定性を失っ
たことによる尻振りなど
 - エンジン回転が上がりすぎることによるエ
ンジン、トランスミッションの故障
- シフトダウンをするときは、スピードを落とし
てください。

注記

エンジンが異常な高温になると、クラッチの切れが悪くなる場合があります。

安全な場所で、エンジンを停止して冷やしてください。

注記

上り坂などで、アクセル操作やクラッチレバー操作でバランスを取るなどして車を停止させようとししないでください。クラッチが過熱し、故障の原因となります。

上り坂などでは、ブレーキを使用してください。

注記

以下のような操作や走行は、エンジンの損傷の原因となりますので行わないでください。

- クラッチレバーを完全に握らないシフトチェンジ操作
- 無理なシフトチェンジ操作
- ギヤシフトペダルに足を乗せたままの走行

Ⓐアドバイス

- チェンジ操作はコツとを感じるまで確実に行ってください。
- むやみにエンジンスピードを上げないでください。エンジン寿命に悪影響を与えます。
- スピードは控えめにしましょう。
- 走行中に異常を感じたら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。
- エンジンスピードがレッドゾーンに入らないよう注意して走行してください。
- 空ぶかしや、1速/2速での急加速はレッドゾーンに入りやすいので、特に注意してください。

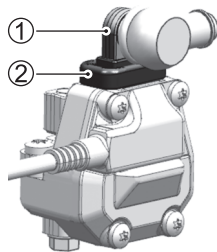
- レッドゾーンに入ってしまった場合は、速やかにスロットルをゆるめ、エンジンスピードを下げてください。

「感情的な走りはいけません 心のブレーキを忘れずに！」

<クイックシフトとは>

クイックシフトとは、走行中のギヤチェンジ操作をアシストする機能です。

メータの設定でクイックシフトを設定すると、走行中にスロットルグリップやクラッチレバーを操作せずにギヤチェンジができます。なお、停車状態からの発進時やギヤが入っている状態で停車している時は、クラッチレバーを握る必要があります。



- ① ギヤシフトセンサーレバー
- ② ブーツ

注記

次の取扱い方法を守らないときは、ギヤシフトセンサや関連部品の破損の原因になりますのでご注意ください。

- ギヤシフトセンサやブーツを分解しないでください。
- ギヤシフトセンサや関連部品にパークリナーやガソリンなどの有機溶剤が、かからないようにしてください。
- ギヤシフトセンサや周辺に高圧の水を当てないでください。

注記

ギヤシフト機構に関わる部品を変更・改造すると、クイックシフトが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、クイックシフトは、オートマチック・トランスミッションのような自動的にギヤチェンジを行う機能ではありません。低いギヤでエンジン回転数が高すぎる運転などは、トランスミッションなどに負荷をかける原因になります。エンジン回転数や速度に合わせて、ご自身でギヤチェンジを行ってください。

<クイックシフトの操作方法>

1. メータのクイックシフト（QS）の設定を、“ON”に設定します。詳細は「クイックシフト(QS)」(P.208)を参照してください。
2. クラッチレバーを完全に握り、ギヤを1速に入れます。

アドバイス

クイックシフトを設定しても、チェンジペダルの操作方法は設定前と変わりません。クイックシフトの設定に関わらず、ギヤチェンジを行うときは、コツンとを感じるまでチェンジペダルを確実に操作してください。

3. 発進後、ギヤチェンジを行うときは、クラッチレバーを握らずにチェンジペダルを操作します。
- ギヤチェンジの際は、車がそのときの状況に応じてエンジン回転数の調整を行うため、スロットルグリップを操作する必要はありません。
 - クイックシフトはエンジン回転数が2,000 r/minを超えたときに働きます。
 - ギヤチェンジをするときは、“コツン”と感じるまで、チェンジペダルを操作してください。

- クイックシフト表示①が点滅しているときは、クイックシフトが働きません。クイックシフト表示はライドビューでのみ点滅します。SUZUKI mySPINの画面では表示しません。



ⓘアドバイス

外気温が低いときは、クイックシフトが作動しない場合があります。作動しない場合は、エンジンを始動して、エンジンが暖まった状態で再度、確認をしてください。それでも作動しない場合は、スズキ販売店にご相談ください。

注記

以下のときにクラッチレバーを使用せずにギヤチェンジを行うと、エンジンや駆動系にダメージを与え、損傷の原因となるおそれがあります。以下のときには、クラッチレバーを使用してください。

- クイックシフトの設定が“OFF”のとき
- エンジン回転数が2,000 r/min以下のとき

ⓘアドバイス

走行中、エンジン回転数が2,000 r/min 以下でチェンジ操作をしたときクイックシフト表示は点滅します。

4. 停車するときは、クラッチレバーを握って停車します。

ⓘアドバイス

- クイックシフトを使用して連続したシフトチェンジを行う場合でも、チェンジ操作は一段ずつ正確に行ってください。
- クラッチ操作を行わず、スロットル開度を一定に保ちながらチェンジ操作を行うと、クイックシフトがスムーズに作動します。

こんなときは、

次のときは、スズキ販売店にご相談ください。

- エンジンが暖まった状態でクイックシフトが作動しないとき
- ギヤシフトセンサのレバーにがたつきがあるとき
- ブーツがやぶれているとき

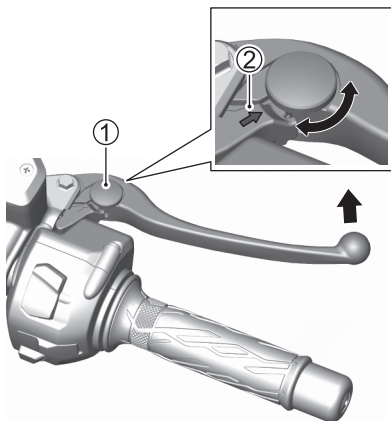
ブレーキレバー

■ ブレーキレバーについて

ブレーキレバーを操作すると、フロントブレーキが作動し、ブレーキランプが点灯します。ブレーキレバーとグリップとの間隔は、5段階から選択できます。

■ ブレーキレバーの調整

1. ブレーキレバーを前方に押し、アジャスタ①を回します。
2. アジャスタの数字を「合わせマーク②」にしっかりと合わせます。



アドバイス

- 調整は、レバーの突起とアジャスタの凹みをかみ合わせてください。
- 工場出荷状態では、3段の位置に調整されています。

警告

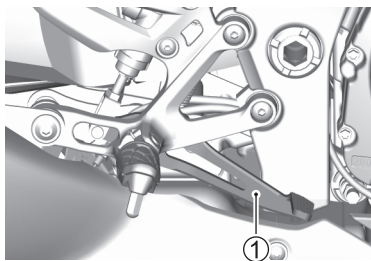
走行中にブレーキレバーの位置を調整することは、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

ブレーキレバーの位置調整は停車中に行ってください。

リヤブレーキペダル

■ リヤブレーキペダルについて

リヤブレーキペダル①を踏み込むとリヤブレーキがかかります。同時にブレーキランプが点灯します。

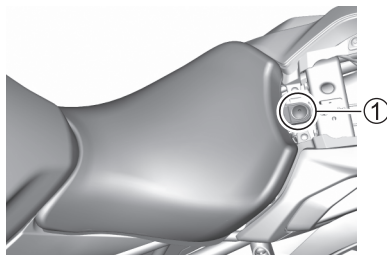


シート

■ フロントシート

フロントシートの外しかた

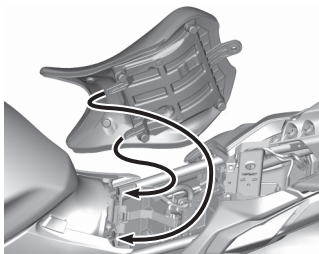
1. リヤシートを取り外します。(☞P.256)
2. ボルト①を外します。



3. フロントシートの後ろ側を持ち上げ、後方にスライドして外します。

フロントシートの取り付けかた

シート裏側のフックを車両側に差し込み、ボルトを確実に締め付けます。



▲警告

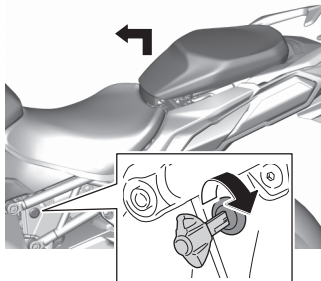
シートが正しく取り付けられていないと、シートが動いて運転に支障をきたすおそれがあります。

シートは正しい位置に取り付け、ボルトを確実に締め付けてください。

■ リヤシートとシートロック

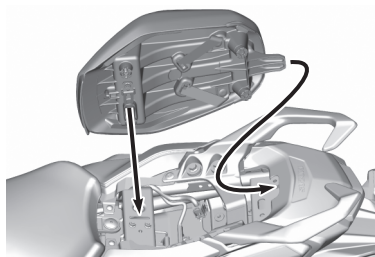
リヤシートの外しかた

1. シートロックにキーを差し込み、右に回してロックを解除します。
2. シートの前部を持ち上げ、前方に引いて外します。



リヤシートの取り付けかた

1. シート裏側のフックを車体側に差し込みます。
2. シートの前部を押し下げ、ロックします。



▲警告

シートが正しく取り付けられていないと、シートが動いて運転に支障をきたすおそれがあります。

シートは正しい位置に確実に取り付けてください。

👉アドバイス

- シートを軽く持ち上げ、ロックがかかったことを確認してください。
- シートの下にキーを置いたままロックすると、キーが取り出せなくなりますので注意してください。

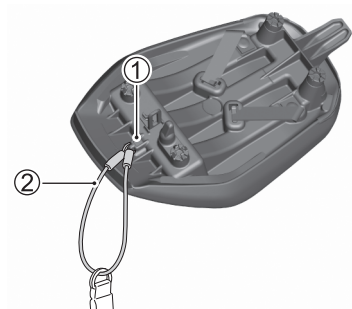
ヘルメットホルダ

■ ヘルメットホルダについて

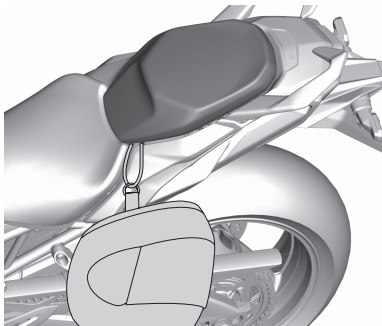
ヘルメットの盗難抑止のため、ヘルメットホルダを使いましょう。

1. リヤシートを取り外します。リヤシート裏側にヘルメットホルダ①があります。
2. サービス工具と共に収納されているヘルメットワイヤ②を取り出します。

3. ヘルメットの金具にヘルメットワイヤを通し、ヘルメットワイヤの両端をヘルメットホルダにかけます。



4. リヤシートを取り付け、ロックします。



▲警告

ヘルメットホルダにヘルメットを付けたまま走行すると、運転の妨げとなり事故の原因になります。また、ヘルメットに損傷を与えた場合、保護機能を低下させるおそれがあります。ヘルメットホルダにヘルメットをつけたまま走行しないでください。ヘルメットを運ぶ場合はシートの上をしっかり固定してください。

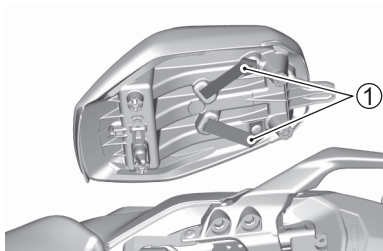
ヘルメットアドバイス

- ヘルメットホルダを使用するときは、必ずヘルメットワイヤを使用してください。ヘルメットの金具を直接ヘルメットホルダにかけるとシートが閉まりません。
- ヘルメットは 2 個同時にかけることができます。
- ヘルメットによっては、ヘルメットの形状やあごひもの長さにより、ヘルメットホルダに取り付けできないことがあります。

ラゲッジストラップ

荷物を固定する際には、ラゲッジストラップ①を使用します。

リヤシートの裏側にあるラゲッジストラップ①をフックから外します。左右のラゲッジストラップ①を外側に出し、リヤシートをロックします。ゴムバンド等で荷物をリヤシートの上に固定します。

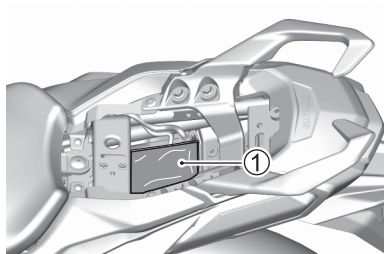


書類入れ

■ 書類入れについて

リヤシートを外すと書類入れがあります。

メンテナンスノート①は、ビニール袋に入れてここに保管してください。



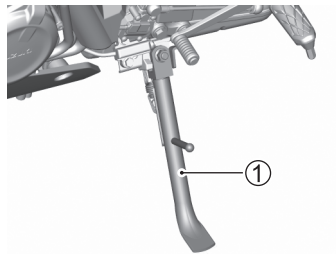
スタンド

■ サイドスタンド

この車には、駐車するためのサイドスタンドを装備しています。

サイドスタンド①を出すときは、スタンドの端に右足をかけていっばいに引き出します。

サイドスタンドインタロックの詳細は「サイドスタンドインタロック」(P.237)を参照してください。



▲警告

サイドスタンドが完全に収納されていない状態で運転すると、左旋回時に事故につながるおそれがあります。

走行前に、サイドスタンドインタロック機能の作動をチェックしてください。発進する前にサイドスタンドを確実に収納してください。

📍アドバイス

駐車するときは、できるだけ固い平坦な路面に駐車してください。やむをえず傾斜地に駐車する場合は、お車の正面を坂の上に向けて止め、タイヤを固定するためにギヤを1速に入れてください。

サスペンション

■ サスペンションについて

フロントフォークおよびリヤショックアブソーバの標準セッティングは、お車のスピードや荷重の変化などの多様なライディング条件に対応できるように設定されています。

なお、サスペンションセッティングは、好みの位置に微調整できます。

注記

無理にアジャスタを回すとサスペンションが損傷するおそれがあります。

限界を超えてアジャスタを回さないでください。

■ フロントフォーク

▲ 警告

左右で異なるサスペンションセッティングは、操縦性を低下させ、走行安定性を損なうことがあります。

左右のフロントフォークは同一のセッティングに調整してください。

注記

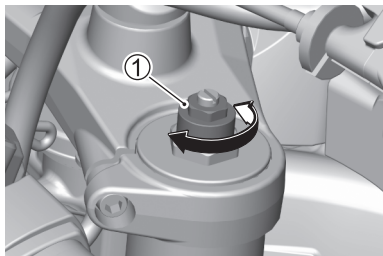
フロントフォークを汚れたまま調整すると、アジャスタに砂がかみ込んだり、オイルシールの損傷によりオイル漏れの原因になったりします。

調整前に洗浄し、砂などの汚れを十分に落としてください。

スプリングの調整

スプリングの強さの調整は、アジャスタ①を回して行います。

- アジャスタを時計回りに回すと強くなります。
- アジャスタを反時計回りに回すと弱くなります。



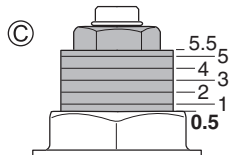
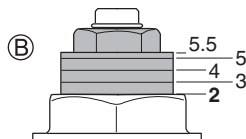
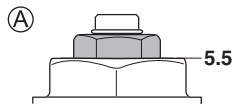
アジャスタの側面には、調整のための5本の溝があります。

0.5の位置にすると最も弱く、5.5の位置にすると最も強い設定になります。

標準位置は、2に設定されています。

アドバイス

左右のフロントフォークとも、同じ位置に調整してください。



- Ⓐ 5.5
- Ⓑ 2 (標準)
- Ⓒ 0.5

減衰力の調整

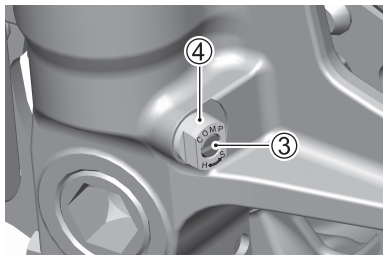
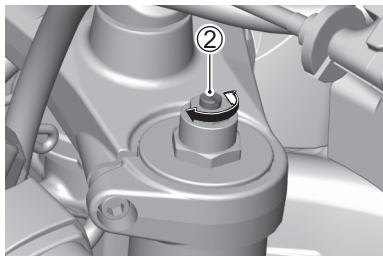
伸側および圧側の減衰力は、それぞれのアジャスタを回すことで個別に調整できます。

- 伸側減衰力アジャスタ②は、フロントフォークの上部に配置されています。
- 圧側減衰力アジャスタ③は、フロントフォークの底部に配置されています。

減衰力の調整は、まず標準セッティングにし、その後アジャスタで好みの位置に調整します。

Ⓐアドバイス

- フロントフォークのオイル漏れが発生するため、アジャスタベース④をゆるめないでください。
- 左右のフロントフォークとも、同じ位置に調整してください。



<伸側減衰力標準セッティング>

標準位置は、アジャスタを時計回りに止まるまで回した位置から、反時計回りに8クリック戻した位置です。

- 標準位置からアジャスタを時計回りに回すと減衰力が強くなります。
- 標準位置からアジャスタを反時計回りに回すと減衰力が弱くなります。

アジャスタは最も強い設定から最も弱い設定へ最大11クリックで調整してください。

減衰力の調整は、1クリックずつ調整を行って、最適な設定を見つけてください。

<圧側減衰力標準セッティング>

標準位置は、アジャスタを時計回りに止まるまで回した位置から、反時計回りに2回転戻した位置です。

- 標準位置からアジャスタを時計回りに回すと減衰力が強くなります。
- 標準位置からアジャスタを反時計回りに回すと減衰力が弱くなります。

アジャスタは最も強い設定から最も弱い設定へ最大3回転で調整してください。

減衰力の調整は、1/8 回転ずつ調整を行って、最適な設定を見つけてください。

■ リヤサスペンション

▲ 警告



リヤショックアブソーバには、高圧の窒素ガスが封入されています。不適切な取扱いをすると、爆発や破裂が起こるおそれがあります。

- 火や熱から遠ざけてください。
- 取扱説明書をよくお読みください。

ℹ️ アドバイス

リヤショックアブソーバを廃棄するときは、スズキ販売店にご相談ください。

— 注記 —

無理にアジャスタを回すとサスペンションが損傷するおそれがあります。

限界を超えてアジャスタを回さないでください。

— 注記 —

リヤショックアブソーバを汚れたまま調整すると、アジャスタに砂がかみ込んだり、オイルシールの損傷によるオイル漏れの原因になります。

調整前に洗浄し、砂などの汚れを十分に落としてください。

スプリングの調整

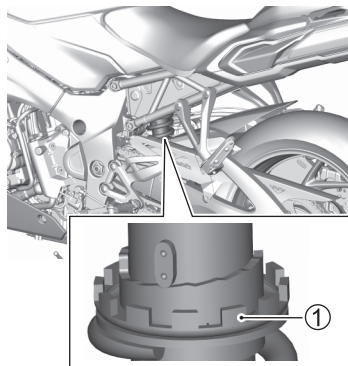
リヤショックアブソーバのスプリングの強さの調整は、ライダー、荷重、ライディング条件および路面状態に応じて調整が可能です。調整は、アジャスタ①を回し、合わせマークの位置を設定します。

スプリングの強さは、7段階に調整が可能です。

スプリングの設定を変えるときは、サイドスタンドを立てます。サービス工具のクランプレンチを使用して、アジャスタを任意の位置まで回し、合わせマークの位置を設定します。

合わせマークの位置は、1の位置が最も弱く、7の位置が最も強くなります。

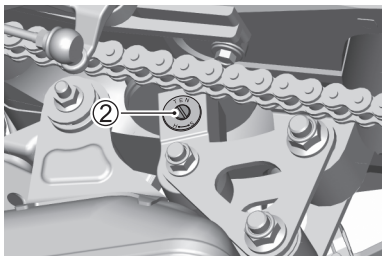
工場出荷時には、合わせマークの位置は3に設定されています。



減衰力の調整

伸側の減衰力調整アジャスタ②は、リヤサスペンションの下部に配置されています。

調整を行う場合は、標準位置に戻してから調整を行ってください。



標準位置は、アジャスタを時計回りに止まるまで回した位置から、反時計回りに1回転戻した位置です。

- 標準位置からアジャスタを時計回りに回すと減衰力が強くなります。
- 標準位置からアジャスタを反時計回りに回すと減衰力が弱くなります。

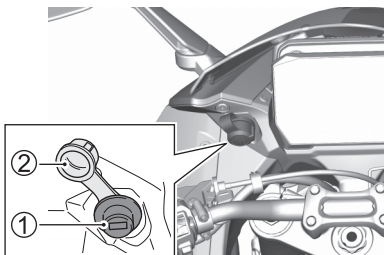
アジャスタは最も強い設定から最も弱い設定へ1.8回転以内で調整してください。

減衰力の調整は、1/8回転ずつ調整を行って、最適な設定を見つけてください。

USB ソケット

■ USB ソケットについて

USB ソケット①は、メータの左側に設置されています。出力電圧は5.0 V、最大電流2 A まで使用可能です。



- ① USB ソケット
- ② キャップ

注記

USB ソケットの取扱いは、次の事項を守らないと車両や接続した機器に損傷を与えるおそれがあります。

- 携帯電話以外の電子機器を接続しないでください。
- 洗車時や雨天時は使用しないでください。また、USB ケーブルを抜き、キャップを取り付けてください。

注記

アイドリング中やエンジンの停止中に、USBソケットを使用するとバッテリーあがりの原因になります。

USBソケットを使用するときは、バッテリーあがりに注意してください。

アドバイス

- 定格値は一時的な容量です。バッテリー上がりを防ぐため長時間の使用は避けてください。
- USBソケットを使用しないときは、異物の侵入を防ぐためキャップを取り付けてください。

ETC2.0車載器

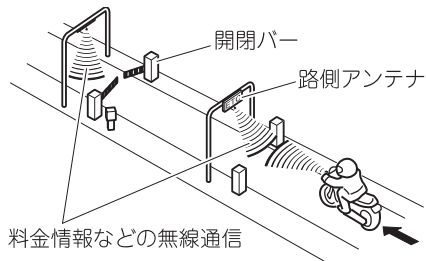
■ はじめに

ETCシステム利用規約、同実施細則、ETCカードの利用約款などに、ご利用上の注意事項が記載されています。ETCのご利用前に、この取扱説明書と合わせて必ずお読みください。

■ ETCシステムとは

ETCシステム（Electronic Toll Collection system）とは、有料道路の料金所の通過をスムーズに行なうために料金を自動で精算するシステムです。

車載器が料金所設置の路側アンテナと無線通信を行ない、料金はお客様が登録されたETCカードの引き落とし口座から後日引き落とされます。



<ETC2.0車載器の機能と特徴>

ETC2.0車載器は、道路側のITSスポットアンテナと無線通信して、ITSスポットから発信されている注意喚起情報を受信します。

車載器が注意喚起情報を受信したときは、メータのERRインジケータが高速で点滅（約0.1秒間隔で5秒間）して、運転手にお知らせします。

▲ 警告

注意喚起情報を受信したときは、走行が危険な場合や警戒が必要な場合があります。

安全を確認の上、通常より注意して走行してください。

アドバイス

受信した情報の詳細内容の通知（音声案内など）には対応していません。

■ 事前に行っておくこと

ETCをご利用するには、事前にETCカードの取得と、車載器のセットアップが必要です。

<ETCカードの取得>

お客様ご自身によるクレジットカード会社または有料道路事業者へのお申し込みが必要です。スズキ販売店またはスズキ代理店にご相談ください。

<ETC2.0車載器のセットアップ>

正しく通行料金を精算するため、ナンバープレートなどの車両情報を車載器に登録する「セットアップ」の作業（有料）が必要です。「セットアップ」の作業は、一般財団法人道路システム高度化推進機構に登録されているセットアップ店以外では行うことができません。

アドバイス

- 以下の場合、車載器の再セットアップが必要です。
 - ・ ナンバープレート（自動車登録番号標および車両番号標）が変更になった場合
 - ・ 車載器を他の車両に付け替えた場合
- 車載器がセットアップがされていないときは、ERRインジケータが点滅を続けます。



未セットアップ時

■ ETC利用時のご注意

<ETCカードの有効期限を確認>

有効期限が切れていたり、発行元が無効にしたETCカードでは、料金所の開閉バーが開きません。車載器に挿入する前に、ETCカードの有効期限を必ず確認してください。

▲ 警告

発行元が無効としたETCカードを車載器に挿入した場合でも、車載器はカードを正常に認証（メータのERRインジケータが消灯）しますが、料金所の開閉バーは開きません。

車載器を使用するときは、有効なETCカードを使用してください。

▲ 警告

車載器のETCカードの有効期限切れをお知らせする機能は、GPS信号にて判定しています。メインキーをオンにした直後、地下駐車場などの屋内、車載器の故障時などのGPS信号を受信できていないときは判定できませんので、ご注意ください。

ETCカードの有効期限は、走行前にご確認ください。

<ETC2.0車載器の作動を確認>

乗車前には、ETCカードを車載器に確実に挿入し、メータのERRインジケータが消灯することを確認してください。

ETCインジケータとERRインジケータの作動状況については、P.92をご覧ください。

▲ 警告

注意喚起情報受信時を除いてERRインジケータが点灯または点滅しているときは、ETCをご利用できません。

ETCをご利用するときは、走行前や料金所通過時にERRインジケータが消灯していることを必ず確認してください。

<料金所を通過するときは>

ETC車線には、十分な車間距離をとり、20 km/h以下に減速して進入し、徐行して通行してください。

スマートインターチェンジ*をご利用の際は、車両が停止した状態で通信の送受信が行われるため、必ず開閉バーの手前で一旦停止してください。

* スマートインターチェンジ：

高速道路の本線、サービスエリア、パーキングエリア等から乗り降りができるように設置され、ETCを搭載した車両のみ通行可能なインターチェンジ

なお、開閉バーは、車載器と料金所間で通信エラーがあると開かないことがあります。

▲ 警告

以下の内容を守って運転してください。料金所で開閉バーが開かずに衝突するなど、事故の原因となります。

- 料金所には、安全に通行できるように路面表示があります。必ず、前車との車間距離を十分に取り、20 km/h以下に減速して進入し、路面表示に従って1台ずつ通行してください。
- スマートインターチェンジでは、開閉バーの手前で必ず一旦停止してください。
- ETC利用時には、必ず有効なETCカードを挿入し、ERRインジケータが消灯していることを確認してください。

- メータのERRインジケータが消灯していても、通信エラーやアンテナ故障などで開閉バーが開かないことがありますので、安全な速度で料金所に進入してください。
- 料金所内での並走、追越し、割込み、車群走行は絶対に行わないでください。
- アンテナ故障などで料金所のアンテナと通信ができなかった場合にエラー表示(メータのERRインジケータが点滅または点灯)は行いません。また、このような場合は、ETCをご利用できません。
- 有料道路の入口料金所から出口料金所を出るまでは、同一のETCカードを継続して使用してください。異なるETCカードを使用すると料金所の開閉バーが開きません。

- ETC ご利用時でも、不測の事態（事故や異常気象）の際には、現場での指示などに従って運転してください。
- 開閉バーが開かなかったときは、開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、開閉バーを避けて通過し、ETC車線から退避してください。
 - ※ ETC 車線を通行中に開閉バーが開かなかった際は、路側表示が「停車」と出る場合もありますが、後続車による追突防止のため、後退やUターンしたりせず、二輪車の通行方法を指定する案内板や路面表示等に従い、開閉バーを避けて通過してETC車線から退避してください。退避後、駐停車が禁止されていない場所から安全を確認の上、すみやかにご利用の高速道路会社にご連絡ください。

- ETC のご利用方法、通行方法、制限事項等については「ETC システム利用規程」(<https://www.go-etc.jp/kitei/kitei.html>)に従ってください。ETCのご利用前に必ずご熟読ください。

■ 料金所でのETC情報通信

<予告アンテナ ／ETCカード未挿入お知らせアンテナ>

料金所の手前に設置され、車載器と通信を行い、車載器が正常に使用できることを確認するためのアンテナです。

- ETC車線利用不可能情報を受け取ったとき
メータのERRインジケータが点灯します。この場合、ETC専用車線はご利用できませんのでETC混在車線または一般車線をご利用ください。

ⓘアドバイス

予告アンテナ／ETCカード未挿入お知らせアンテナが設置されていない料金所もあります。

＜障害者割引制度におけるETC利用について＞

- ETC 無線走行で障害者割引の適用を受けるには、事前に福祉事務所などでの手続きと、併せて有料道路事業者が設定する窓口への登録が必要になります。両方の手続きがなされていない場合、ETC無線走行での障害者割引が適用されません。
- 事前に登録されたETCカードを、登録された車載器に挿入し、ETC車線を無線通行した場合のみ割引が適用されます。
 - 既にETC無線走行以外の支払いでの障害者割引適用の手続きをしている場合でも、改めて同様の手続きと登録をする必要があります。
- 通行料金の請求を受ける料金所でETC車線が封鎖されている場合は、係員のいる車線（一般車線または混在車線）で、一旦停車して係員にETCカードを渡し、身体障害者手帳または療育手帳を呈示して確認を受けてください。料金精算機のある車線では、「障がい者用係員呼出ボタン（レバー）」を操作して係員を呼び出してください。
- ETC無線走行で障害者割引の適用を受けようとする場合でも、必ず身体障害者手帳または療育手帳を携行してください。（ETC車線が閉鎖されている場合で、上記手帳をご提示いただけない場合は、割引が適用できません。）

- 障害者割引には有効期限があります。ご利用の前に有効期限を確認してください。なお、有効期限の更新手続きは福祉事務所などで行ってください。
- 登録済のETCカード、ETC車載器、車両を変更される場合は、ETCのご利用前に福祉事務所などで変更手続きを行ってください。

<入口料金所、出口・均一料金所>

車両、入口、料金などの情報を車載器との間でやり取りします。

● 料金所での異常通信時

開閉バーが開かなかった場合は、後続車両による追突事故の防止のため、開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、開閉バーを避けて通過し、ETC車線から退避してください。

料金所で開閉バーが開かずに通過（退避）した場合は、駐停車が禁止されていない安全な場所から遅滞することなく、ご利用の道路会社に連絡してください。

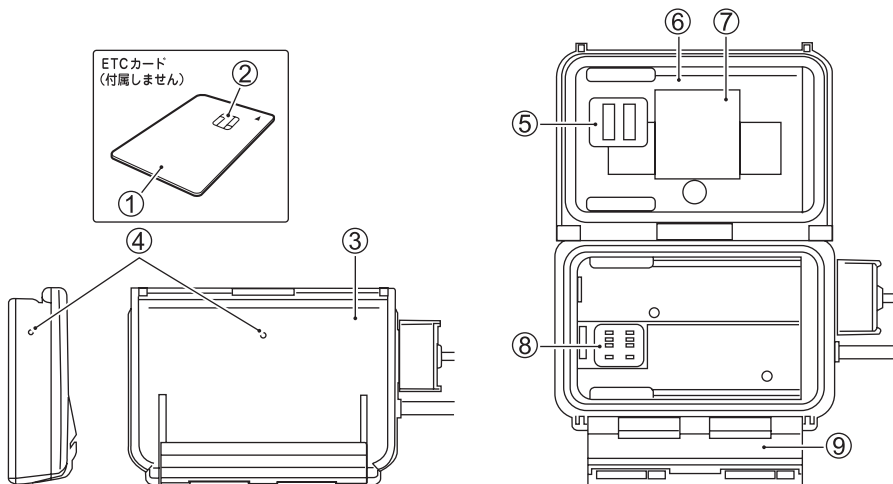
<フリーフロー型料金所>

開閉棒のない料金所で、本線上にて経路チェックや料金収受を行います。

● ETC車線利用不可能情報の受信時

メータのERRインジケータが点灯します。次の料金所のETC専用車線はご利用できませんので、係員のいるETC混在車線または一般車線をご利用ください。

■ ETC車載器各部の名称



① ETCカード

お客様ご自身でご用意ください。

② ICチップ

カード情報が記録されています。

③ ETC2.0車載器本体

ETCカードを装着させ、路側アンテナとの通信の制御を行います。

④ 呼吸穴

ケース内の気圧を調整し、防水性を保ちます。

⑤ 耐振ゴム

ETCカードとカードソケットの接触を保持します。

⑥ カバー（上蓋）

ETCカード着脱時に開閉します。

⑦ 銘板

型式、製造年月日、技適番号、車載器管理番号等が記載されています。

⑧ カードソケット

ETCカードとの通信を行います。

⑨ バックル

カバー（上蓋）をロックします。

<ETC2.0車載器、ETCカードの取扱い上のご注意>

- 車載器の分解や改造をしないでください。法律により処罰されることがあります。
- カバー（上蓋）内側の、銘板に記載されている車載器管理番号は、本車載器を利用した各種サービスを受けるための大切な番号です。サービスをご利用の際は、車載器管理番号をご確認ください。
- カバー（上蓋）内側の銘板は、はがさないでください。認証機器として認められなくなります。
- 車載器管理番号は、車載器に記載されている19桁の固有の番号で、ETCの各種割引サービスを受ける場合、あるいは今後の新たなサービスを受けるにあたって必要な番号です。「ETC車載器セットアップ申込書・証明書（お客様保存用）」を大切に保管していただくとともに、車載器管理番号を別に記録し、保管するようにしてください。
- ETCカードの取扱いは、ETCカード発行会社が提示する注意事項に従ってください。

▲警告

- お客様による車載器の取り付け位置の変更、載せ換えは絶対に行わないでください。必ず指定のスズキ販売店にご相談ください。誤った取り付けを行うと、誤作動を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。
- メータ付近に ETC アンテナが搭載されています。通信エラーの原因になりますので、次のことをお守りください。
 - ・メータ周辺には物を置かない
 - ・メータ周辺にはメッキや金属性のアクセサリを取り付けない
 - ・チタンコーティングされているウインドスクリーンは使用しない
 - ・ウインドスクリーンにシールなどを貼らない

▲警告

以下の場合、直ちに車載器への電源供給を止め、すみやかにスズキ販売店へご連絡ください。そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因となります。

- 内部に水や金属等の異物が入ったとき
- 煙が出ている、異臭がする、異常に熱いなどの異常に気がついたとき
- 車載器本体に亀裂などの破損を見つけたとき

▲ 警告

車載器には精密な電子部品が組み込まれています。故障、誤動作、火災、感電、けがを防ぐため、以下の取り扱い方法を守ってください。

- 再配線をしない
- 分解や改造をしない
- 内部に異物を入れない
- 濡れた手で操作したり、水などをかけたりしない
- ETC カードの出し入れは、湿気、ほこり、油煙等が少ない場所、また雨等に濡れない場所で行う
- 車載器を火中に投入しない
- コード類を無理に引っ張らない
- 車載器をねじったり、重いものを載せたり、強く押しつけたりしない

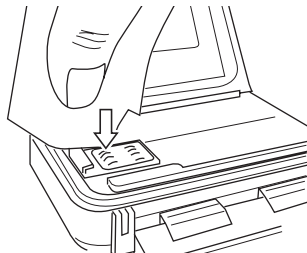
注 記

- 走行前に積雪等によりアンテナの前方が遮られていた場合は、遮るものを取り除いてください。通信障害を起こす原因となることがあります。
- 車載器に強い衝撃を与えないでください。破損や故障の原因になります。
- 車載器の表面を掃除するときは、シンナー、ベンジン、ガソリン等の有機溶剤を使用しないでください。樹脂表面を痛める原因となる場合があります。車載器の表面の掃除は、ちり、ゴミを取り除き、清潔な布で乾ぶきするようにしてください。

- 車載器本体にある呼吸穴はふさがないでください。防水性低下を招いたり、カバー（上蓋）が開かなくなるおそれがあります。
- 車載器のカバー（上蓋）に付いている耐震ゴムは、はがさないでください。カード認識エラーの誘発およびカード破損の原因となることがあります。

<ETC2.0車載器のお手入れ方法>

カードソケット部分を乾いた布等で軽く押さえ、汚れ・水分を取り除いてください。



注記

カードソケットが破損するおそれがあるので、ソケット面を擦り付けることは避けてください。

■ ETCを利用するときは

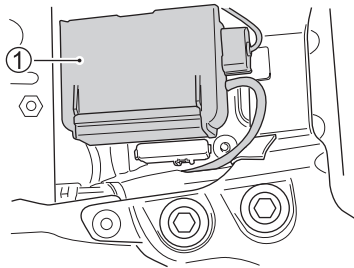
ETCを利用する際は、セットアップされた車載器へ、有効なETCカードを挿入する必要があります。

▲ 警告

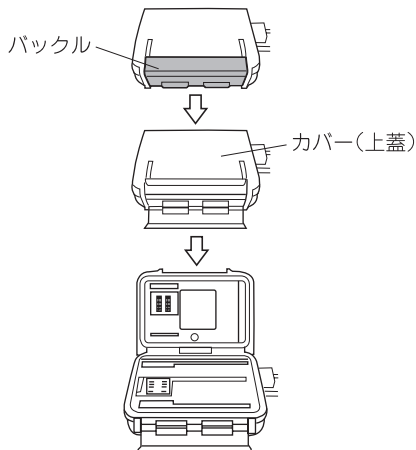
ETC利用時には、必ず有効なETCカードを挿入してください。有効なETCカードが挿入されていないと開閉バーが開かず、事故の原因となります。

<ETCカードの挿入>

1. 車両のメインスイッチを**OFF**にします。
2. リヤシートを取り外します。
☞「リヤシートとシートロック」(P.256)
3. 車載器は面ファスナで固定されています。面ファスナを外し、車載器①を取り出します。



4. ETC車載器本体のバックルを外し、カバー（上蓋）を開きます。

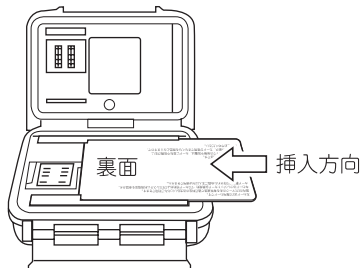


注記

ETCカードの挿入前に、車載器のカードソケット、ETCカードのICチップに汚れ、濡れがないことを確認してください。ETCカードの認証エラーや故障の原因となるおそれがあります。

取扱いの方法

- ETC カードの IC チップと車載器本体のカードソケットが接触するように、スライドさせて突き当たるまで挿入します。



- カバー（上蓋）を閉じ、バックルでカバー（上蓋）を固定します。
- 車両のメインスイッチを**ON**にします。

- カード認証が開始（メータのERRインジケータが点滅）され、カードが認証されるとメータのERRインジケータが消灯します。



認証中



認証完了

▲ 警告

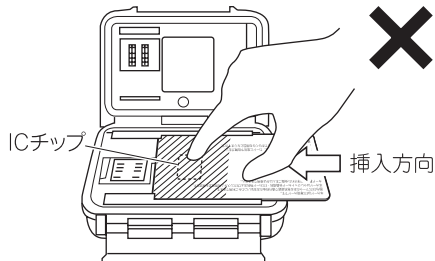
カード認証中はETCをご利用できません。開閉バーが開かず、事故の原因となりますので、認証が完了するまでお待ちください。

注記

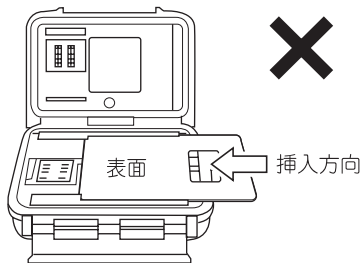
認証中にETCカードの抜き差しを行わないでください。ETCカードのデータが破損し使用できなくなることがあります。

<ETCカード挿入時のご注意>

- カード挿入時に、下図のようにICチップ付近を押さえて挿入すると、カードソケットのICカードコネクタピンが破損するおそれがあります。ETCカードの端を軽く押してゆっくりと挿入してください。



- カードの逆差し（前後、表裏）や、ETC以外のカードを挿入した場合、カードソケットのICカードコネクタピンが破損するおそれがありますので、ETCカードの向き等には十分にご注意ください。



■ エラー表示について

車載器への電源投入時、ETCカード挿入時、ゲートでの通信時などの処理を行った結果、エラーが発生した場合には、メータのERRインジケータが点灯または点滅します。

エラーには、次の表に記載の原因が考えられます。次の表の各対処方法を実施してもメータのERRインジケータが点灯または点滅する場合は、スズキ販売店にご相談ください。

アドバイス

ERRインジケータが高速（約0.1秒間隔で5秒間）で点滅したときは、注意喚起情報を受信したことを知らせるものですのでエラーや故障ではありません。

ERR インジケータ	考えられる原因	対処方法
点滅	セットアップ未完了	車載器をセットアップしてください。
	本装置の故障	スズキ販売店にご相談ください。
点灯	ETCカード未挿入	ETCカードを挿入してください。
	ETCカード挿入異常	ETCカードの挿入状態をご確認の上、再度挿入してください。
	ETCカードの読み出し不良 (データ処理異常)	<p><ETCカード挿入時> 挿入されたETCカードのデータを読み出すことができませんでした。挿入方向をご確認の上、再度挿入してください。</p> <p><ETC利用時> 料金所にて車両の停止が案内されることがありますが、開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、開閉バーを避けてETC車線から退避してください。退避後、駐停車が禁止されていない場所からETC車線を管理する高速道路会社等に滞滞することなく連絡し、指示に従ってください。</p>

取扱いの方法

ERR インジケータ	考えられる原因	対処方法
点灯	ETCカードの認識不良 (ETCカード異常)	挿入されたカードがETCカードであると認識できませんでした。 正しいETCカードであること、および挿入方向をご確認の上、再度挿入してください。
	ETCカードの認識不良 (ETCカード情報の異常)	挿入されたカードがETCカードであると認識できませんでした。 正しいETCカードであることをご確認の上、再度挿入してください。
	本装置と料金所間の データ処理エラー (車載器情報の異常)	開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、 開閉バーを避けてETC車線から退避してください。退避後、駐停車が禁止されていない場所からETC車線を管理する高速道路会社等に遅滞することなく連絡し、指示に従ってください。
	通信エラー	開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、 開閉バーを避けてETC車線から退避してください。退避後、駐停車が禁止されていない場所からETC車線を管理する高速道路会社等に遅滞することなく連絡し、指示に従ってください。

■ 故障かなと思ったら

- 次の表で内容を確認し、処置してください。
- 処置しても症状が改善されないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

症状	確認すること	処置
ERRインジケータが点灯したまま	ETCカードが挿入されていますか？	ETCカードを正しく挿入してください。 (挿入方向、表裏)
	ETCカードが正しく挿入されていますか？	
	ETCカードのICチップ、および車載器本体のカードソケットが汚れたり、濡れたりしていませんか？	ETCカードのICチップ（電極）を清掃ください。 車載器本体のカードソケットは、 <ETC2.0車載器のお手入れ方法> (P.291)を参照ください。
	ETCカードが変形していませんか？	変形していないカードをご使用ください。
メインスイッチがONのときにメータのETCインジケータとERRインジケータが両方とも消灯している	—	スズキ販売店にご相談ください。

取扱いの方法

症状	確認すること	処置
料金所で開閉バーが開かない	料金所との通信トラブル	開閉バーおよび後続車両等に十分注意を払い、安全を確認の上、開閉バーを避けて通過し、ETC車線から退避してください。退避後、駐停車が禁止されていない場所から、ETC車線を管理する高速道路会社等に遅滞することなく連絡し、指示に従ってください。
	ETCカードの有効期限が切れていませんか？	有効なカードをご使用ください。
	アンテナの上や前方に遮蔽物がありますか？	メータ周辺の電波を遮るものを取り除いてください。
ETCカードが入らない	ETCカードが変形していませんか？	変形していないカードをご使用ください。
	ETCカードの挿入部分に異物が入っていませんか？	異物を取り除いてください。
請求金額が違う	利用履歴の確認をETC利用照会サービスのホームページにて行なってください。 https://www.etc-meisai.jp/	料金については、ETCカード発行会社（クレジット会社）にお問合せください。

■ お問い合わせ一覧

<ETCのご利用に関して>

東日本高速道路株式会社

NEXCO 東日本お客さまセンター
0570-024024

(PHS・IP電話のお客さまは 03-5338-7524)

受付時間：24 時間（年中無休）

中日本高速道路株式会社

NEXCO 中日本お客さまセンター
0120-922-229

(フリーダイヤルがご利用できないお客さまは
052-223-0333)

受付時間：24 時間（年中無休）

西日本高速道路株式会社

NEXCO 西日本お客さまセンター
0120-924863

(フリーダイヤルがご利用できないお客さまは
06-6876-9031)

受付時間：24 時間（年中無休）

本州四国連絡高速道路株式会社

本四高速お客さま窓口
078-291-1033

受付時間：9:00 ～ 17:30

取扱いの方法

首都高速道路株式会社

首都高ETCコールセンター

03-6667-5859

受付時間：9:00～18:00（年中無休）

阪神高速道路株式会社

阪神高速お客さまセンター

06-6576-1484

受付時間：月～金 8:30～19:00
（土日・祝日・年末年始は 9:00～18:00）

<ETCカードおよび請求金額に関して>

お手持ちのETCカード発行元にご確認ください。

<車載器に関して>

お車の購入先、または取扱説明書に記載されている連絡先にお問い合わせください。

<セットアップに関して>

一般財団法人 ITS サービス高度化機構 (ITS-TEA)

ETC お問い合わせ窓口

03-5216-3856

受付時間：月～金 9:00～18:00
（土日・祝日・年末年始を除く）

メ 毛

お車の点検および簡単な整備

点検と整備

■ 概要

定期的なお車の点検や整備は、安全に運転するために、またお車を長持ちさせるためにもとても大切です。ここでは、通常行われることが多い簡単な点検、整備の方法を説明しています。

お車をしばらく使用しないときにも、定期点検は実施してください。お車を長期間休ませた後に使い始めるときは、入念に点検してください。

点検の種類やタイミングについては、この章の「日常点検と定期点検」(P.307)の項目をご参照ください。

▲ 警告

日常点検や定期点検を怠ると、事故や故障の原因になるおそれがあります。

常にお車を良い状態に保ってください。もしご自身での整備が難しい場合には、スズキ販売店にご相談ください。

▲ 警告

専門的な知識が無い状態で、技量をこえた整備を行うことは、事故や故障の原因になるおそれがあります。

整備は、安全のためご自身の知識・技量の範囲で行ってください。難しいことはスズキ販売店にご相談ください。

▲警告

排気ガスには、無色・無臭の一酸化炭素や有毒ガスが含まれています。

一酸化炭素を吸うと、最悪の場合、死亡や重大な損害を生じるおそれがありますので、屋内や換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。

▲警告

走行して点検する場合は、周囲の交通事情に十分注意してください。

通常より速度を落とし、交通量の少ない場所で行ってください。

▲警告

エンジンがかかっている状態での点検は、エンジンの可動部品に手や服がはさまれ、重大なけがを引き起こすおそれがあるため危険です。

ランプ、エンジンストップスイッチ、スロットルの点検以外の点検を行うときは、エンジンを止めてください。

▲警告

ガソリンや可燃性のある油脂類がありますので、点検、整備を行うときは火気厳禁です。

整備中は、火気を近づけたり、たばこを吸わないでください。

▲警告

不安定な場所での整備は、作業中に車両が倒れる原因になります。

整備は、平坦で足場のしっかりした場所で行ってください。

▲注意

エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

マフラやエンジンの周辺部品の整備は、素手で触れても熱くない温度まで下がってから行ってください。

— 注記 —

メインスイッチがONの状態ですべての電装部品の整備を行うと、電気回路がショートしたときに電装部品に損傷を与えるおそれがあります。

電装部品の整備を行うときには、メインスイッチをOFFにしてキーを抜いてください。

— 注記 —

品質の悪い部品を使うと、お車の寿命を縮めるおそれがあります。

部品を交換するときは、スズキ純正部品のご使用をおすすめします。

日常点検と定期点検

■ 概要

お車を快適に使用し、事故を未然に防ぐために道路運送車両法で日常点検と定期点検を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

Ⓕアドバイス

一般的な使われ方より激しい状態(シビアコンディション)でお車をご使用される場合には、部品の劣化が通常より著しく進行することがありますので、通常より早めに点検整備を行ってください。シビアコンディションに該当する条件については、お車に付属するメンテナンスノートの[シビアコンディション条件]をご参照ください。

Ⓕアドバイス

油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。廃液の処理はスズキ販売店にご相談ください。

■ 点検の種類

<日常点検>

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。

次の項目について点検してください。

ブレーキ

- ブレーキレバー、ブレーキペダルの遊び
- きき具合
- ブレーキ液の量

タイヤ

- 空気圧
- 亀裂、損傷、異物、異常摩耗
- 溝の深さ

エンジン

- エンジンオイルの量
- 冷却水の量
- かかり具合、異音
- 低速、加速の状態

チェーン

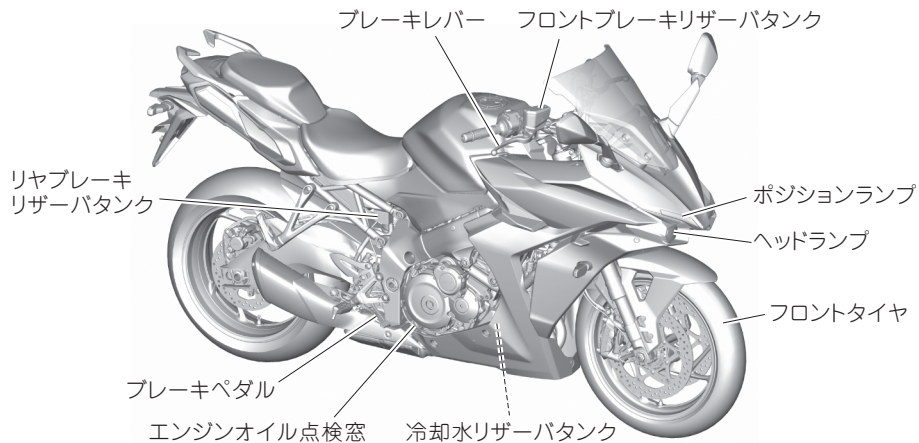
※ゆるみ

灯火装置、方向指示器（ランプ類）

運行において異常が認められた箇所

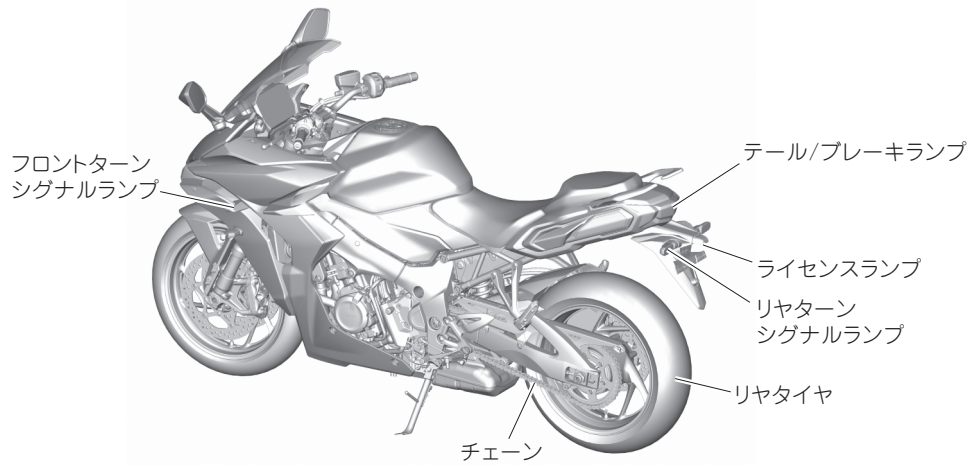
※印の点検は、メーカー指定点検を示します。

<日常点検・部品配置>



--- 部は見えない部分を示します。

お車の点検および簡単な整備



<定期点検>

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。

- 定期点検結果は、別冊「メンテナンスノート」に記録する必要があります。ご自身で点検できない項目については、スズキ販売店で点検を受けて記録してください。
- 点検時期や点検内容などについて、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“日常点検の方法”、“定期点検の解説”をご覧ください。
- 初期（1か月）点検はお買いあげいただいたスズキ販売店が無料で実施します。ただし他店では有料となります。また油脂代、部品代およびその交換工賃は有料です。

<継続検査（車検）>

小型自動車（251 cm³以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。期間満了前に必ずお受けください。

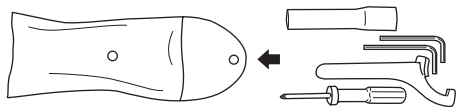
サービス工具、ヘルメットワイヤ

■ サービス工具、ヘルメットワイヤの車載場所

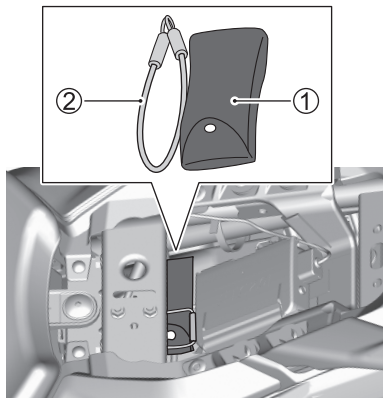
サービス工具 ①、ヘルメットワイヤ ②は、リヤシート下に収納されています。

サービス工具、ヘルメットワイヤの使用後は、次の手順で収納してください。

1. 下記のように、サービス工具をケースに入れます。



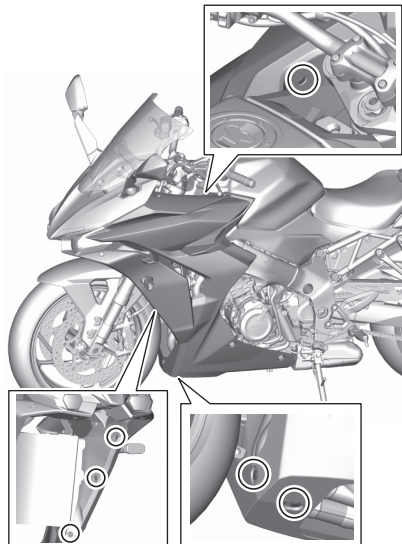
2. 下記のように、リヤシート下の車載場所に、サービス工具、ヘルメットワイヤを収納し、バンドで固定します。



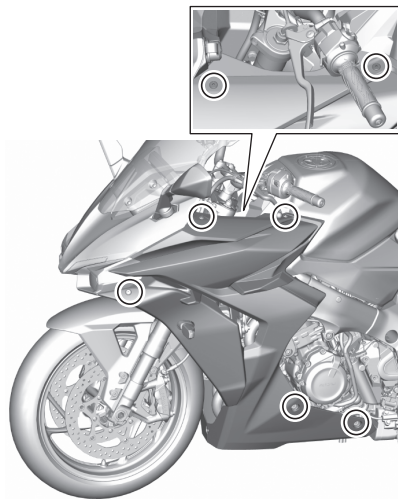
フェアリング

■ サイドカウルの取り外し

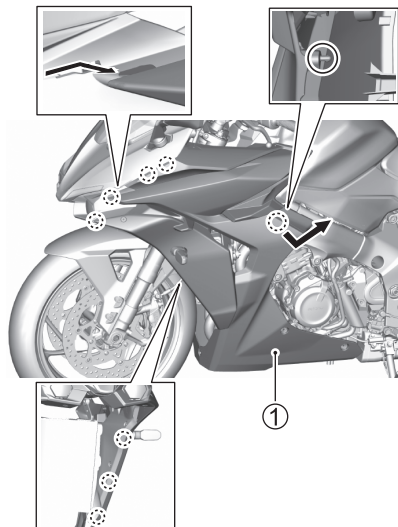
1. 平坦地に駐車します。
2. フロントシートおよびリヤシートを取り外します。
☞ 「シート」(P.254)参照
3. サイドカウル(左右)の各ファスナを外します。



4. サイドカウル（左右）の各ボルトを外します。

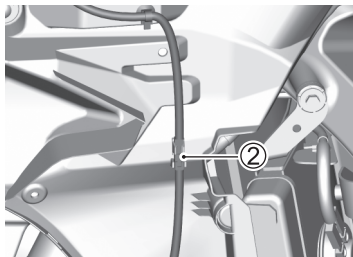


5. 各フックを外し、サイドカウル（左右）①を矢印方向へ取り外します。



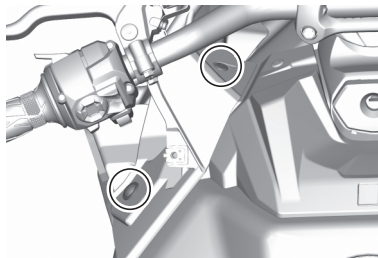
お車の点検および簡単な整備

6. ターンシグナルコネクタ（左右）②を外します。

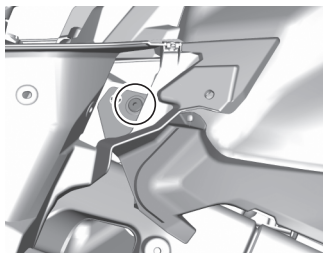


■ フレームカバーの取り外し

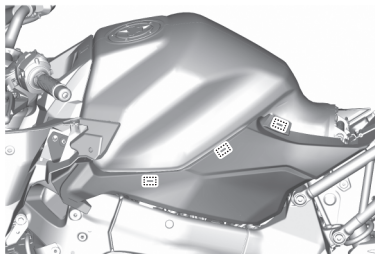
1. 平坦地に駐車します。
2. サイドカウル（左右）を取り外します。
☞ 「サイドカウルの取り外し」(P.313)参照
3. ファスナおよびボルトを外します。



4. ボルトを外します。

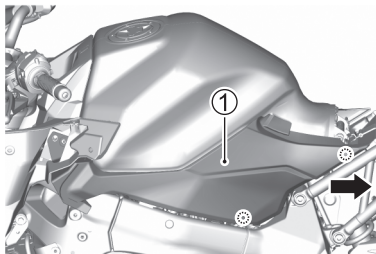


5. 面ファスナを外します。破線部（四角）に面ファスナがあります。



フューエルタンク

6. 各フックを外し、フレームカバー（左右）
①を矢印方向へ取り外します。

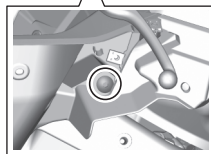
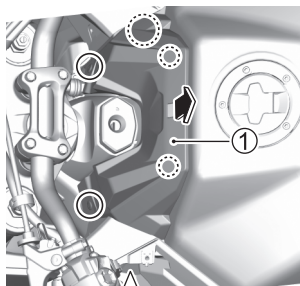


■ フューエルタンクの持ち上げかた

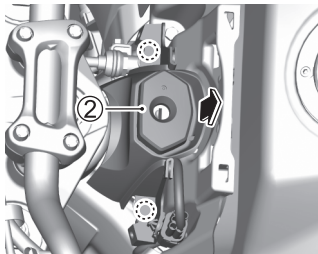
次の手順でフューエルタンクを持ち上げます。

1. 平坦地に駐車します。
2. フロントシートおよびリヤシートを取り外します。
☞ 「シート」(P.254)参照
3. サイドカウル（左右）およびフレームカバー（左右）を取り外します。
☞ 「フェアリング」(P.313)参照

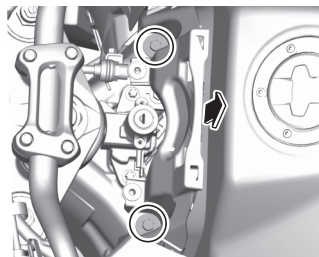
4. 左右のボルトおよびファスナを外します。
フューエルタンクアッパカバー ①を上方
向へ取り外します。



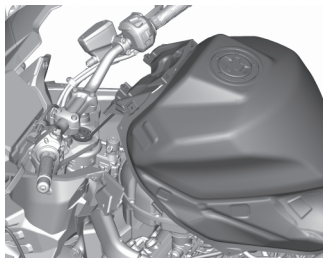
5. フック(破線部)を外し、フューエルタンク
口アカバー ②を取り外します。



6. フューエルタンクボルトを外します。



7. フューエルタンク前側を持ち上げ、タンクステーをステアリングステムナット部とフューエルタンクの締め付け部にかかけます。



アドバイス

タンクステーはスズキ販売店で購入することができます。

タンクステー部品番号：44560-23H00

警告

ガソリンが十分入っている状態でフューエルタンクを持ち上げると、ガソリンが給油口からにじみ出て、引火するおそれがあります。

フューエルタンクを持ち上げる場合は、ガソリンの量を1/4以下にしてください。

■ フューエルタンクの取り付け

フューエルタンクの取り付けは、持ち上げかたの逆の手順で行います。

注油

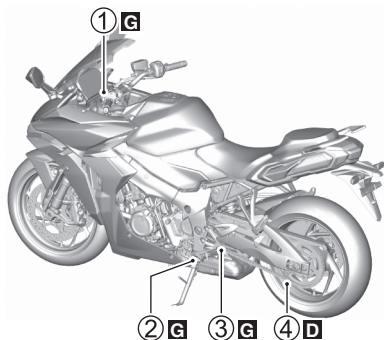
■ 注油ポイント

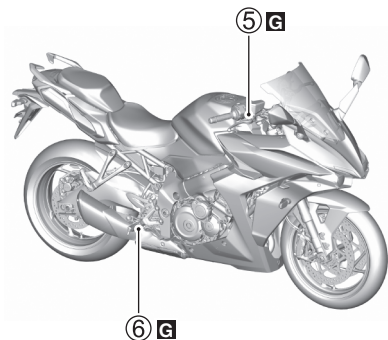
適切な注油は、スムーズな操作や各 부품の寿命をのばすためだけでなく、安全に運転するためにも重要です。悪路を長時間走行したとき、雨で濡れたとき、または洗車した後は、注油してください。

注 記

スイッチへの注油は、故障の原因となります。グリースを塗ったり、注油をしないでください。

次の箇所に注油してください。





G：グリース

D：ドライブチェーンオイル

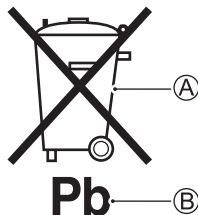
- ① クラッチレバーピボット
- ② サイドスタンドピボットおよび
スプリングフック
- ③ チェンジペダルピボットおよび
フットレストピボット
- ④ ドライブチェーン
- ⑤ ブレーキレバーピボット
- ⑥ ブレーキペダルピボットおよび
フットレストピボット

バッテリー

■ 概要

この車は密閉式のメンテナンスフリーバッテリーを使用しています。バッテリー液の点検、補給は必要ありませんが、スズキ販売店で定期的にバッテリーの充電状態をチェックしてください。

バッテリーを処分するときは、それぞれの地域の法律に基づいて処理してください。バッテリーラベルにシンボルマーク①が表示されているバッテリーは家庭用のごみとは分けて処分してください。鉛の含有率が0.004%を超えるバッテリーには化学記号“Pb”②が表示されていません。



使用済みのバッテリーを適切に処分したり、リサイクルすることで環境や人体への悪影響を防ぐことができます。資源の節約のためにもリサイクルすることをおすすめします。使用済みのバッテリーの処分またはリサイクルについて、詳しくはスズキ販売店にご相談ください。

▲警告

バッテリーの電極、端子、その他関連する部品には、鉛や鉛化合物が含まれています。

鉛が体内に入ると健康を害しますので、鉛が含まれる部品に触れた後は手を洗ってください。

▲警告

バッテリーからは、引火性の有るガスが発生します。

火気を近づけたり、喫煙をしたりしないでください。

▲警告

バッテリーには、希硫酸が含まれています。希硫酸が身体に付着すると、失明や重いやけどを負うおそれがあります。

バッテリーを取り外すときに傾けたりしないようにしてください。バッテリーの近くで作業するときは、目を守るための適切な保護具や手袋を使用してください。もし目に入った場合は、すぐに多量の水で15分以上洗い医師の診察を受けてください。万一飲み込んだ場合は、すぐに多量の水を飲んで医師の診察を受けてください。皮膚や衣服に付いた場合は、衣服を脱ぎ多量の水で洗い流してください。また、保管するときは、子供の手の届くところに置かないでください。

▲警告

乾いた布でバッテリーをふくと、静電気が発生して引火するおそれがあります。

バッテリーをふくときは、静電気を防ぐために湿らせた布でふってください。

注記

長時間のアイドリングや不必要な空ぶかしはエンジン部品、触媒装置、電装部品に悪影響を与えます。また、燃料の無駄使いになるだけでなく、オーバーヒートの原因にもなります。

バッテリー充電のための長時間のアイドリングや空ぶかしは行わないでください。

アドバイス

補充電については、スズキ販売店にご相談ください。ご自身で補充電される場合は、メンテナンスフリーバッテリーに対応した充電器を使用してください。

アドバイス

充電するときに、電流、電圧、充電時間が不適切な場合は、バッテリーの寿命を短くするおそれがあります。不明なときは、スズキ販売店にご相談ください。

アドバイス

- バッテリーを交換する場合は、同タイプのMFバッテリーを選んでください
- 長期間、お車をご使用にならない場合は、1か月毎に、充電してください。

■ バッテリー取り外し

次の手順でバッテリーを取り外します。

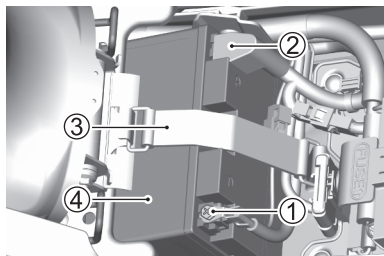
1. 平坦地に駐車します。
2. メインスイッチを**OFF**にします。
3. フロントシートおよびリヤシートを取り外します。

🔧 「シート」(P.254)参照

4. (-)側バッテリーコード①を外します。
5. (+)側バッテリーコード②を外します。
6. バッテリーを固定しているバンド③を外します。
7. バッテリー④を車両右側に抑えながら取り外します。

👉アドバイス

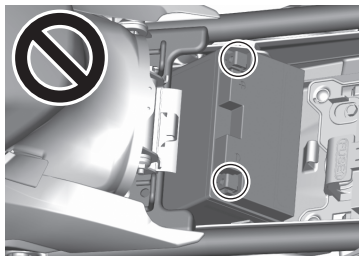
バッテリーを取り出したり、組付けるときは、バッテリーの左角がシートレールに接触しないように、バッテリーを車両右側に抑えながら行ってください。



注記

バッテリーを取り外すときや取り付けるときに、バッテリー端子がフレームに接触するとショートする原因になります。

バッテリーを扱うときは、バッテリー端子がフレームに近づきすぎないように注意してください。



8. ターミナル部に白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いでふきます。腐食が著しいときは、ワイヤーブラシかサンドペーパーで磨いてください。

アドバイス

- バッテリーコードを外すときは、必ずメインスイッチをOFFにし、マイナス(-)側を先に外してください。取り付けるときはプラス(+)側を先に取り付けます。
- ターミナル部にゆるみが生じないように締め付け、プラス(+)側ターミナルカバーを確実に取り付けてください。
- バッテリーを交換するときは、スズキ販売店にご相談ください。

■ バッテリ取り付け

次の手順でバッテリーを取り付けます。

1. 端子部を清掃後、薄くグリースを塗り、取り外しの逆の手順でバッテリーを取り付けます。
2. 端子を確実につなぎ、プラス(+)側端子②にターミナルカバーを取り付けてください。

注 記

バッテリーのリード線のプラス(+)とマイナス(-)を逆に接続すると、充電系統およびバッテリーが損傷する原因になります。

接続するときは、赤のリード線はプラス (+) 端子に、黒 (または黒に白のストライプ) 線はマイナス (-) 端子に接続してください。

スパークプラグ

■ スパークプラグについて

スパークプラグの点検や交換はスズキ販売店にご相談ください。

ⓘアドバイス

バッテリーを外すとエンジン回転インジケータライト(RPM SET)が初期値に戻りますので、設定を確認してください。

エアクリーナ

■ エアクリーナエレメントの点検について

1年毎に点検してください。ホコリが多い場所を走行する機会が多い場合は、6か月毎に点検してください。

アドバイス

- エアクリーナエレメントは清掃できません。
- エアクリーナエレメントの点検・交換について、ご自身での整備が難しい場合は、スズキ販売店にご相談ください。

エアクリーナエレメントが詰まると吸気抵抗が増え、結果として出力が低下し燃料消費が増大します。指定した時期に整備が必要です。ホコリ、湿気、泥の多い条件で運転する場合は通常よりも頻繁にエアクリーナを点検する必要があります。

次の手順でエアクリーナエレメントを取り外し、点検してください。

▲警告

エアクリーナエレメントを正しい位置に取り付けずにエンジンをかけると危険です。エアクリーナエレメントが付いていないとエンジンからのバックファイアがエアクリーナケースに吹き返されるおそれがあります。また、ホコリがエンジンに侵入し、重大なエンジンの損傷を招くおそれがあります。

エンジンをかけるときは必ずエアクリーナエレメントを正しい位置に取り付けてください。

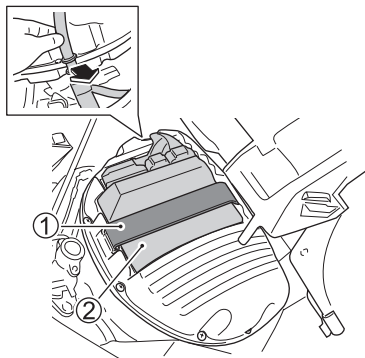
注記

ホコリが多い、濡れている、または泥が多い環境で使用する場合、エアクリーナエレメントを頻繁に点検しないと車両故障につながるおそれがあります。このような状況でエアクリーナが詰まるとエンジン損傷の原因にもなります。過酷な環境で走行した後は、必ずエアクリーナエレメントを点検し、必要に応じて交換してください。エアクリーナケースに水が入った場合は、直ちにエアクリーナエレメントの点検とケース内の清掃を行ってください。

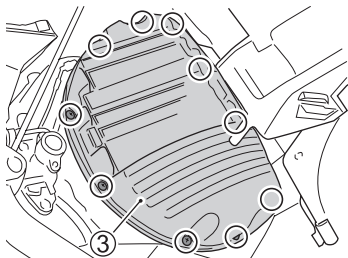
■ エアクリーナエレメント

取り外しかた

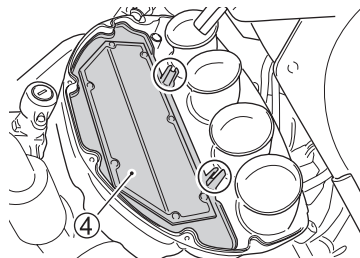
1. フューエルタンクを持ち上げます。
☞「フューエルタンクの持ち上げかた」(P.319)
2. バンド①を外します。エアクリーナからECM②を取り外します。



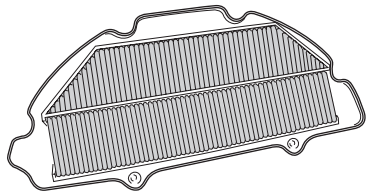
3. スクリュ（10箇所）を外し、エアクリーナキャップ③を取り外します。



4. スクリュを外し、エアクリーナエレメント④を取り外します。



5. エアクリーナエレメントを目視により点検します。汚れ、詰まりや損傷がある場合は、新品と交換します。



注記

エアを吹き付けるとエアクリーナエレメントが損傷するおそれがあります。

エアクリーナエレメントにエアを吹き付けないでください。

取り付けかた

1. エアクリーナエレメントの取り付けは外しかたの逆の手順で行います。

注記

エアクリーナエレメントが破損していると、エンジンに汚れが入り、エンジンが損傷するおそれがあります。

エアクリーナエレメントが破損している場合は、新品のエアクリーナエレメントと交換してください。取り付ける前にエアクリーナエレメントに裂け目がないか確認してください。

注記

エアクリーナエレメントの取り付け位置が正しくないと、汚れがエアクリーナエレメントをすり抜け、エンジン損傷の原因となります。

エアクリーナエレメントを正しく取り付けてください。

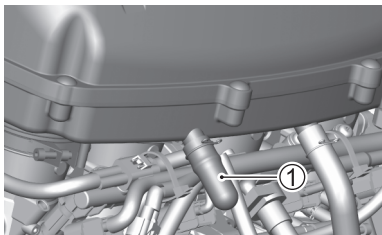
2. フューエルタンクを取り付けます。

アドバイス

フューエルタンクを取り付ける前に、フューエルタンクのドレンホースやプリーザホースが曲がっていないことを確認してください。

■ エアクリーナドレンチューブの 清掃

1年毎に、エアクリーナケースの下に取り付けられているエアクリーナドレンチューブ①に、水やオイルがたまっていないかを点検してください。



<エアクリーナドレンチューブの点検、清掃>

1. フューエルタンクを持ち上げます。
☞ 「フューエルタンクの持ち上げかた」(P.319)
2. エアクリーナドレンチューブ①に、水やオイルがたまっていないかを点検します。
3. 汚れや水がたまっている場合は、エアクリーナドレンチューブを外し、汚れや水を取り除きます。
4. エアクリーナドレンチューブを確実に取り付けます。

エンジンオイル

■ 概要

エンジンの寿命は、オイル量と品質によって大きく左右されます。また、日頃のオイル量の点検と定期的な交換は、お車の性能を引き出すうえで非常に大切ですので、忘れずに行いましょう。

エンジンオイル交換時期：

初回1か月または1,000 km
以降6,000 kmまたは1年ごと

オイルフィルタ交換時期：

初回1か月または1,000 km
以降18,000 kmごと

▲ 警告

エンジンオイルの取り扱いを誤ると、お体やお車に悪影響をおよぼします。

取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んで従ってください。

■ エンジンオイルの選びかた

スズキ純正エンジンオイルまたは同等のエンジンオイルの使用をおすすめします。

<スズキ純正エンジンオイル>

規格 オイル	SAE	JASO
エクスター R9000 MA2	10W-40	MA2
エクスター R7000 MA2	10W-40	MA2
エクスター R5000 MA2	10W-40	MA2

<同等のエンジンオイル>

同等のエンジンオイルとは次の規格を満足したものです。

SAE	API	JASO
10W-40	SJ, SL, SM, SN	MA (MA1, MA2)

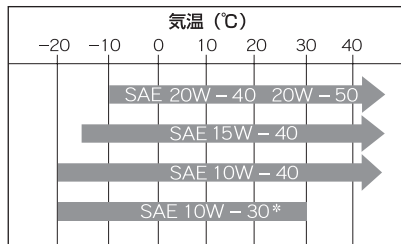
SAE : 米国自動車技術者協会規格

API : 米国石油協会規格

JASO : 日本自動車技術会規格

<SAE粘度表>

SAE10W-40のオイルが入手できない場合は、次の表を参考に使用環境に合うオイルを選んでください。



*APIがSJ、SLのもの

注記

銘柄やグレードの違うオイルを混ぜて使用すると、変質して故障の原因となることがあります。

オイルを混ぜて使ったり、低品質オイルを使用したりしないでください。

お車の点検および簡単な整備

<摩擦低減剤>

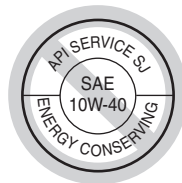
摩擦低減剤は、不具合の原因になるため使用しないでください。

API SJ, SL, SM, SN



推奨します

API SJ, SL, SM



推奨しません

API SN



注記

クラッチは、エンジンオイルに浸されていますので、摩擦低減剤を含むエンジンオイルはクラッチのすべりなどの原因となる場合があります。

摩擦低減剤を必要以上に多く含むエンジンオイルは使用しないでください。また摩擦を低減する添加物は加えないでください。

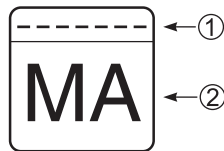
<JASO T903>

JASO T903は、4サイクル二輪車のエンジンオイルを選ぶ際の指針となる規格です。

二輪車は四輪車と異なりエンジンオイルがクラッチやトランスミッションも潤滑しています。JASO T903はこれらクラッチやトランスミッションが要求するオイル性能について規定しています。

MA (MA1、MA2)、MBの分類があり、本規格に適合するエンジンオイルの容器には、次の表示があります。

例：MAのとき



- ① オイル販売会社の整理番号
- ② 性能分類の表示MA分類を示す

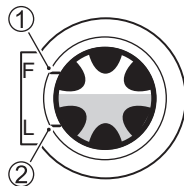
■ エンジンオイル量の点検

次の手順でエンジンオイルの点検を行います。

1. 平坦地に駐車します。
2. エンジンを 3 分間アイドリング運転します。
3. エンジンを停止し、3分間待ちます。
4. 車体を垂直にして、エンジンの右側にある点検窓のF(Full)①とL(Low)②の間にエンジンオイルの油面があるかを点検します。

油面がF(Full)①より上またはL(Low)②より下の場合は、F(Full)①とL(Low)②の間になるよう調整してください。

- 油面がL(Low)②より下の場合は、オイルを補給してください。
- 油面がF(Full)①より上の場合は、オイルを抜くなどして調整してください。オイルを抜く方法については、スズキ販売店にご相談ください。



▲注意

エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

周辺部品の整備は、素手で触れても熱くない温度まで下がってから行ってください。

注記

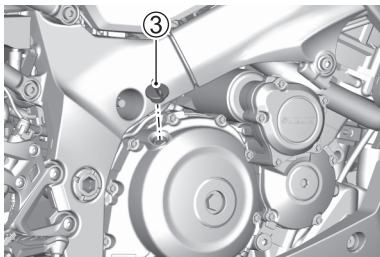
エンジンオイルが多すぎても、少なすぎてもエンジンに悪影響を与えます。

点検するときは車体を水平な場所に止めてください。車を使用する際には毎回点検窓でエンジンオイル油面を点検してください。オイル油面はL(Low)線とF(Full)線の間にあることを確認してください。

■ エンジンオイルの補給

次の手順でエンジンオイルを補給します。

1. 平坦地に駐車します。
2. エンジンを3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
3. 3分後、オイル注入口キャップ③を外します。



4. 車体を垂直にして、F(Full) とL(Low)の間に油面がくるように補給します。
5. キャップ③を確実に取り付けます。

▲ 警告

エンジンオイルは有害ですので、幼児やペットが誤って飲み込むと身体に重大な影響を与えます。

新しいオイル、エンジンから抜いたオイル、オイルフィルタは、幼児やペットが触れない場所に置いてください。

▲警告

エンジンオイルに繰り返し触れたり、長時間触れたりすると皮膚がんの原因になるおそれがありますので注意してください。

オイル交換をする際には、オイルに触れるのを避けるために長袖や耐油性の手袋を着用してください。もし、オイルが皮膚に付いたときは石鹸で十分に洗い、衣類やウエスにオイルがついた場合は洗濯してください。また、使用済みのオイルやオイルフィルタは、リサイクルするか適切な方法で処分してください。

注記

オイル注入口からゴミなどが入るとエンジンが損傷するおそれがあります。

作業前にオイルジョッキの内部等にホコリや泥、異物等が付着していないことを確認し、オイル注入口から入らないようにしてください。

アドバイス

オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。

冷却水

■ 概要

冷却水は定期的な交換が必要です。メンテナンスノートに従って適切な時期に交換してください。冷却水の交換は、スズキ販売店にご相談ください。

■ 指定冷却水

冷却水はエンジンを冷やすためだけでなく、エンジン内部のサビを防ぐために循環しています。また、寒冷地でも凍らないように不凍液を使用していますので、お客様の地域が寒冷地でなくても、必ず冷却水をご使用ください。

次の冷却水をご使用ください。

指定冷却水： スズキスーパーロングライフ
クーラント（青）

冷却水容量： 2,750 ml

スズキスーパーロングライフクーラントは水で希釈する必要はありません。

▲警告

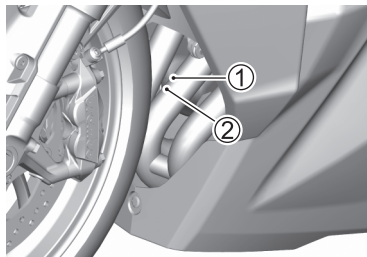
冷却水の取扱いを誤ると、お体やお車に悪影響をおよぼします。

取扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んで従ってください。ご不明な点は、スズキ販売店にご相談ください。

■ 冷却水の量の点検

エンジンが冷えているときに、次の手順で点検してください。

1. 平坦地に駐車します。
2. 車体を垂直にして、冷却水がリザーバタンクのF(Full)①とL(Low)②の間にあるかを点検します。




アドバイス

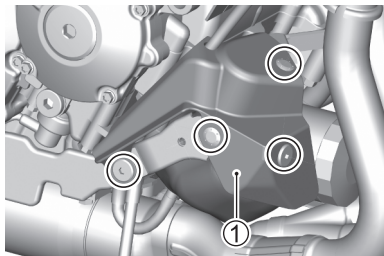
- 冷却水の減りが著しいときはラジエータ本体、ホースなどからの漏れが考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。
- リザーバタンクが空の場合は、ラジエータ内の冷却水も不足している可能性があります。
- 冷却水の交換はスズキ販売店にご相談ください。

■ 冷却水の補充

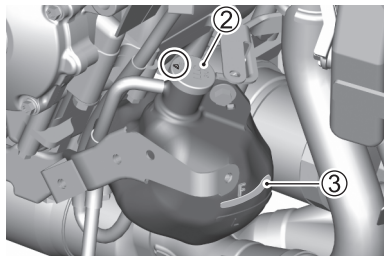
次の手順で冷却水を補充します。

1. 平坦地に駐車します。
2. 右側サイドカウルを取り外します。
 「フェアリング」(P.313)

3. ボルトとファスナを外し、アンダーカバー①を取り外します。(アンダーカバーからオーバーフローホースを取り外す)



4. リザーバタンクキャップ②を外します。
5. F(Full)③まで冷却水を補給します。適切な冷却水については、「指定冷却水」(P.350)を参照してください。



6. リザーバタンクキャップの矢印をリザーバタンクホース側に向けて取り付けます。

アドバイス

スズキスーパーロングライフクーラントは、水で希釈する必要はありません。

警告

冷却水は有毒のため、液を飲んだり蒸気を吸い込んだりすると身体に重大な影響を与えます。

冷却水や不凍液は、絶対に飲まないようにしてください。もし飲み込んだ場合は、無理に吐かず、すぐに医師に連絡してください。また、蒸気を吸い込んだ場合は、蒸気を吐き出し、きれいな空気を吸ってください。目に入った場合は、すぐに水で洗い流し、医師の診察を受けてください。冷却水を取り扱った後は、十分に手を洗ってください。冷却水を保管するときは、幼児やペットが触れない場所に置いてください。

▲警告

エンジンが熱いときにラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、やけどを負うおそれがあります。

冷却水の補給はリザーバタンクキャップから行い、ラジエータキャップは外さないでください。

▲注意

F(Full)レベルを超えて補給するとエンジンが熱くなったときに冷却水がリザーバタンクからあふれ出るおそれがあります。

冷却水の補給はF(Full)レベル以上に入れないでください。

注記

冷却水はお車の塗装面を痛めるおそれがあります。

こぼさないように注意してください。こぼれたときは、すぐにふき取ってください。

アドバイス

水だけを補充するとエンジンクーラントは希釈され効果が低下します。必ず、指定の冷却水を補充・交換してください。

ドライブチェーン

■ 冷却装置の点検

ラジエータ本体やホースにひびや損傷、冷却水の漏れがないかを点検してください。もし不具合が見つかった場合は、スズキ販売店にご相談ください。

■ 概要

この車両のドライブチェーンは、ジョイントを使用したマスターリンク式チェーンを使用しています。ドライブチェーンを交換するときは、スズキ販売店にご相談ください。毎回、運転する前にはドライブチェーンの状態とゆるみを点検してください。点検と整備の方法は、次の「点検」の項目に従ってください。

▲ 警告

ドライブチェーンのゆるみが多いとスプロケットから外れ、重大な事故を引き起すおそれがあります。

運転前にドライブチェーンの点検または調整をしてください。

■ ドライブチェーンの点検

次の点を点検してください。

- ピンのゆるみ
- ローラーの損傷
- リンクの乾燥やサビ
- 曲がりや固着
- 異常摩耗
- ゆるみ(たるみ)量

お車の点検および簡単な整備

ドライブチェーンの状態や調整に関して、不具合を見つけた場合はご自身の知識や技量に応じて整備してください。ご自身での整備が難しい場合は、スズキ販売店にご相談ください。

もしドライブチェーンが損傷している場合は、スプロケットも損傷しているおそれがありますので、スプロケットについて次の点を点検してください。

- 歯の異常摩耗
- 歯の欠損または損傷
- スプロケットマウントナットのゆるみ

スプロケットに不具合が見つかったときは、スズキ販売店にご相談ください。

▲ 警告

かしめが不十分だったり、クリップ式のチェーンを使ったりすると、ドライブチェーンが外れたり切れたりする原因になります。重大なエンジンの損傷や事故を引き起こすおそれがありますので注意してください。

チェーンの交換には、特別な工具や品質の高いノンクリップタイプのチェーンが必要です。専門の技術が必要ですので、スズキ販売店にご相談ください。

■ ドライブチェーンの清掃・注油

次の手順で清掃・注油してください。

1. ドライブチェーンにホコリや泥などが付着しているときは汚れを取り除きます。そのときに、シールリングを傷付けないように注意してください。
2. 洗浄は、シールチェーン専用クリーナまたは水や中性洗剤などとやわらかいブラシを使用します。
ブラシはやわらかくてもシールを痛める場合があるため、シールリングを傷付けないように注意してください。

推奨クリーナ： スズキアルミホイール & チェーンクリーナ

注 記

不適切な清掃をすると、ドライブチェーンのシールリングに傷がついたりドライブチェーンが壊れたりすることがあります。

- シンナー、灯油、ガソリン等の揮発性溶剤を使用しないでください。
- 高圧洗車やスチーム洗車をしないでください。
- ワイヤブラシを使用しないでください。

3. 水や洗浄剤をきれいにふき取ります。

4. 注油は2輪シールチェーン専用オイルもしくは粘度の高いオイル（#80～90）を使用します。

推奨オイル：スズキチェーンオイルR

注 記

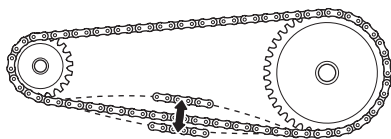
ドライブチェーンオイルの中にシールリングに損傷を与える溶剤や添加物が含まれている場合があります。

シールリング付きドライブチェーン専用オイルを使用してください。

5. オイルがドライブチェーン各部によく行きわたるように、ドライブチェーンチェーンの手前と奥の両側に注油します。
6. 全周に注油した後、外側の余分なチェーンオイルを乾いたウエスでふき取ります。

■ ドライブチェーンの調整

運転前にドライブチェーンのゆるみ（たるみ）を点検してください。平坦路に駐車して、ドライブチェーン中央部のゆるみ（たるみ）が規定値になっているか点検します。



20~30 mm

▲ 注意

エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、エキゾーストパイプやマフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

ドライブチェーンの整備は、素手で触れても熱くない温度まで下がってから行ってください。

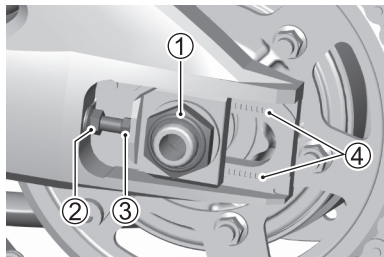
ドライブチェーンのゆるみ(たるみ)は、次の手順で調整してください。

1. 平坦路に駐車します。
2. アクスルナット①をゆるめます。
3. 左右のロックナット②をゆるめます。
4. 左右のアジャスタボルト③を回してフロントスプロケットとリヤスプロケットの中央部のゆるみ(たるみ)が規定値になるように調整します。

ゆるみ(たるみ) 規定値：20～30 mm

アドバイス

ドライブチェーンはフロントスプロケットとリヤスプロケットに対して一直線上になるように調整します。スイングアーム上の目盛り④を目安に左右同じ位置に合わせてください。



5. アクスルナット ① を規定トルクで締め付けます。

アクスルナット規定トルク：100 N・m

6. ゆるみが規定値であるか再確認します。必要であれば再調整します。

7. 左右のロックナット②を締め付けます。

チェーンアジャスタロックナット

規定トルク：22 N・m

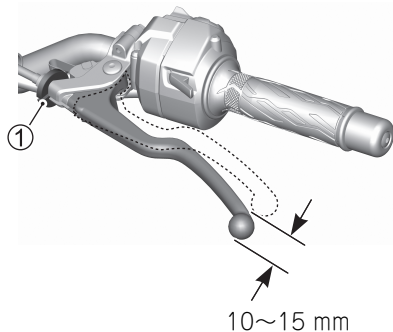
アドバイス

- スイングアーム上の目盛り ④ の範囲内で調整してください。スイングアーム上の目盛り ④ の範囲を超える場合はドライブチェーンを交換してください。
- アクスルナットの締め付けは、トルクレンチを使用してください。トルクレンチが無い場合は、スズキ販売店へご相談ください。

クラッチ

■ クラッチレバーの遊びの 点検・調整

軽い抵抗を感じるまでクラッチレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲（10～15 mm）あるかを点検します。規定の範囲から外れている場合は、クラッチケーブルアジャスタ①を回しクラッチレバーの遊びの量を調整してください。



アドバイス

上記の方法で適正な遊びに調整ができない場合には、スズキ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ 概要

この車は、前輪と後輪にディスクブレーキを装備しています。

▲ 警告

ブレーキシステムの点検と整備が不適切な場合は、事故にあう可能性が増えます。

運転前には、「乗車前点検」の項目を参考に点検してください。また、メンテナンスノートに従って定期点検を行ってください。ブレーキ液は、安全のため2年毎に交換してください。

👉アドバイス

泥、水、砂などがブレーキにかかる運転は、ブレーキディスクやパッドの消耗が早くなります。このような運転が多い場合には、メンテナンスノートの点検時期より頻繁に点検してください。

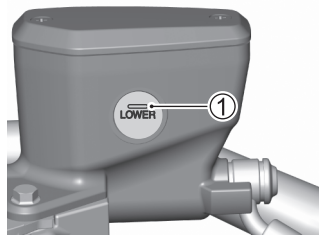
■ ブレーキホースの点検

ブレーキホースや接続部に損傷がないかを点検してください。もし、ひび割れや亀裂などの不具合が見つかったときは、スズキ販売店でブレーキホースを新しいものに交換してください。

■ ブレーキ液の量の点検

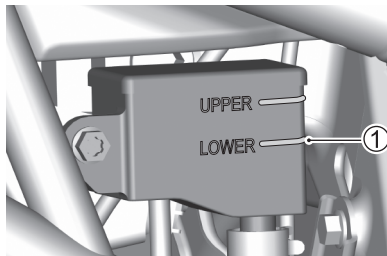
平坦地で車体を垂直にし、ハンドルを直進状態にして、リザーバタンクの液面がロアレベル①より上にあるかを点検します。

フロントブレーキ



車両前方から見たところ

リヤブレーキ



車両右側面から見たところ

▲警告

液面がロアレベル以下の場合は、ブレーキパッドの摩耗やブレーキシステムの液漏れ等が考えられます。

スズキ販売店で点検を受けてください。

▲警告

ブレーキ液は、吸湿性が高いためブレーキホースなどを通して徐々に湿気を吸収します。湿気を吸収すると沸点が下がり、ブレーキが効きにくくなることがあります。また、ブレーキ部品を腐食させてブレーキシステム（ABSを含む）の異常を引き起こすおそれがあります。

安全のため、2年毎にブレーキ液を交換してください。

指定ブレーキ液：

スズキブレーキフルードDOT4（JIS BF-4）

▲警告

DOT4のブレーキ液以外を使用すると、ブレーキの損傷の原因になり事故を招くおそれがあります。

必ずDOT4のブレーキ液を使用し、違う種類のを混ぜて使用しないでください。また、ブレーキ液の容器は、品質の低下を防ぐために使う直前に開けてください。ブレーキ液を取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

▲警告

リザーバタンクにゴミなどが入ると、ブレーキシステムの故障の原因になります。

ブレーキ液を入れるときは、フィラーキャップを開ける前にキャップの周りを清掃してください。

▲警告

ブレーキ液は有害ですので、絶対に飲まないでください。また、皮膚に付いたりや目に入らないように注意してください。

もし、飲んだ場合には、すぐに医師に連絡してください。目に入った場合は、すぐに水で洗い流し、医師の診察を受けてください。また、幼児やペットが触れない場所に保管してください。

注記

ブレーキ液はお車の塗装面、プラスチック、ゴム類を痛めるおそれがありますので、こぼさないように注意してください。

こぼれたときは、すぐにふき取ってください。

■ ブレーキパッドの摩耗の点検

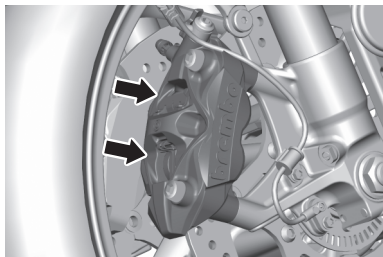
ブレーキキャリパの後ろから、パッドの摩耗を点検します。

摩耗限度溝①がディスクプレートまで達したら（パッドの厚さが約1 mmになったら）、パッドを交換してください。

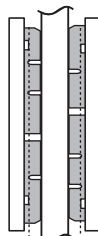
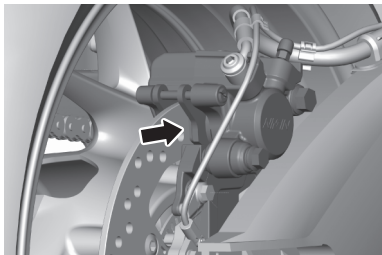
ブレーキパッド交換後は、ブレーキレバーまたはブレーキペダルが正規のタッチになるまで、数回ストロークしてください。これにより、ブレーキパッドが適切な位置になります。

新しいブレーキパッドは、きき具合が異なる場合がありますので、慎重な運転を心がけてください。

フロントブレーキ

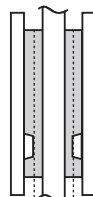


リヤブレーキ



①

フロント



①

リヤ

▲警告

ブレーキパッドの点検や整備を行わなかったり、適切なパッドを使わなかった場合には、ブレーキが効かずに事故を招くおそれがあります。

ブレーキパッドの交換は、スズキ販売店にご相談ください。

▲警告

両側にあるブレーキパッドのうち片側だけを交換すると、ブレーキの利きが安定しません。両方のブレーキパッドを一緒に交換してください。

▲警告

ブレーキを修理したり、ブレーキパッドを交換したりした後は、パッドが適切な位置になっていません。ブレーキレバーやペダルを数回ストロークせずに走行すると、ブレーキが効きにくくなっているため危険です。

走行前に必ずブレーキレバーやペダルを数回ストロークして、ブレーキが効くことを確認してください。

👉アドバイス

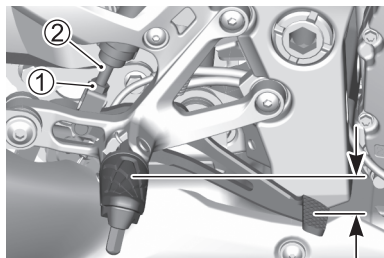
ブレーキパッドの交換中は、ブレーキレバーやペダルをストロークしないでください。ブレーキキャリパのピストンを元の位置に戻すことが難しくなるだけでなく、ブレーキ液が漏れる原因になります。

■ リヤブレーキペダルの高さ調整

ブレーキペダルの高さは、適切な位置に調整してください。調整が不適切だと、ブレーキパッドがディスクに当たり続け、摩耗や損傷の原因になります。

次の手順でブレーキペダルの位置を調整してください。

1. ロックナット ① をゆるめてプッシュロッド ② を回し、ペダルをフットレスト上面から50~60 mm低い位置に調整します。



50~60 mm

2. ロックナット①を締め付け、プッシュロッド②を固定します。

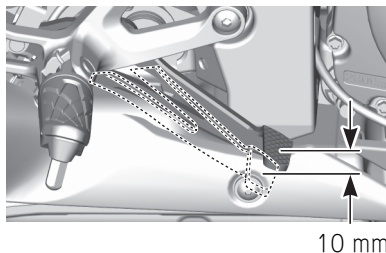
注記

ブレーキペダルの調整が不適切だと、ブレーキパッドとディスクが常に当たり続け、摩耗や損傷の原因になります。

この項目に書かれている方法で、ブレーキペダルを正しく調整してください。

■ リヤブレーキランプスイッチの点検および調整

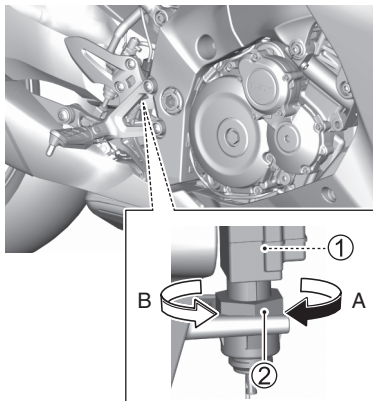
リヤブレーキペダルを10 mm程度踏み込んだときに、ブレーキランプが点灯を始めるか点検します。点灯の開始が早い場合や遅い場合は、リヤブレーキランプスイッチを調整してください。



リヤブレーキランプスイッチ本体①が回らないように指で固定し、アジャスタ②を回して調整します。アジャスタをAのように回すとブレーキランプの点灯開始が早くなり、Bのように回すと遅くなります。

アドバイス

リヤブレーキランプスイッチは車体制御システムの構成部品のため、ブレーキランプはブレーキがきき始める直前に点灯するように調整してください。



注記

調整をするときにリヤブレーキランプスイッチ本体を回すと、配線の断線の原因となることがあります。

リヤブレーキランプスイッチ本体が回らないようにしてアジャスタを回してください。

シフトペダル

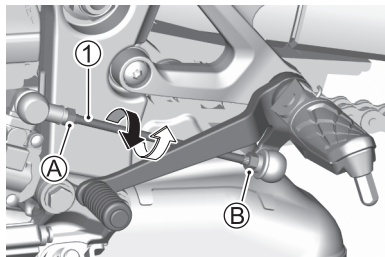
■ 概要

運転するときにシフトチェンジしにくいときは、シフトペダルの高さをご自身の体に合っていない可能性があります。ご自身の体に合った高さに調整することをおすすめします。

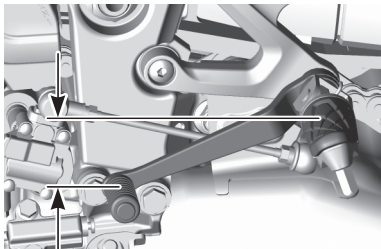
■ シフトペダル高さの調整

次の手順でシフトペダルの高さが調整できます。

1. ロックナット①、②を手前（↓）に回してゆるめ、ロッド③を回します。



2. ロッドを手前(↓)に回すとペダル位置が低く、反対(↑)に回すと高くなります。
3. シフトペダル位置をフットレスト上面から50～60 mm低い位置に調整します。



50～60 mm

4. 調整後は、ロックナット①、②を反対(↑)に回して締め付けてください。

👉アドバイス

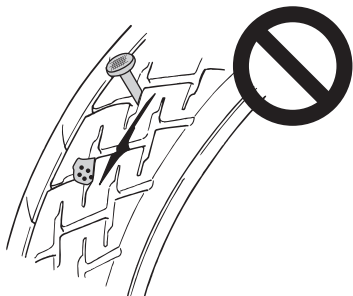
調整後は、ロックナットを確実に締め付けてください。

タイヤ

■ 概要

タイヤの接地面および側面の全周に、亀裂や損傷がないかを確認します。また、釘や石などの異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを確認します。

また、タイヤの接地面が、異常に磨耗していないかを確認します。異常に磨耗している場合は、スズキ販売店にご相談ください。



タイヤを交換する場合は、必ず指定タイヤを使用してください。

指定タイヤ

前	サイズ	120/70ZR17M/C (58W)
	種類	DUNLOP Roadsport2 T
後	サイズ	190/50ZR17M/C (73W)
	種類	DUNLOP Roadsport2 T

▲警告

指定外のタイヤの使用は、安全走行に悪影響を与える場合があります。

必ず指定タイヤを取り付けてください。

▲警告

タイヤの修理、取り付け、バランス取りが不適切だと、お車をコントロールしにくくなったり、タイヤの摩耗が早くなったりします。

- タイヤの交換、修理、バランス取りには、適切な工具や経験が必要ですので、スズキ販売店やバイクショップにご相談ください。
- 取り付けるときには、タイヤ側面にある回転方向を示す矢印に注意して取り付けてください。

▲警告

タイヤは、お車と路面をつなぐ重要な部品です。安全に運転するために、以下の内容をお守りください。

- 運転する前に、タイヤの状態と空気圧をチェックし、必要であれば空気圧を調整してください。
- 最大積載量を守り、過度な積載は避けてください。
- 限界まで摩耗していたり、亀裂や損傷を発見したりしたときは交換してください。
- この取扱説明書に記載されているサイズと種類のタイヤを必ず使用してください。
- 取り付け後は、ホイールのバランスを取ってください。
- この取扱説明書のこの章をよく読んでください。

▲警告

タイヤのならしを適切に行わないと、タイヤがスリップしてコントロールを失うおそれがあります。新しいタイヤに交換したときは、特に注意して運転してください。

「ならし運転」(P.16)を参照し、最初の160 kmは急加速、急カーブ、急ブレーキを避けてタイヤのならしを正しく行ってください。

👉アドバイス

新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。

■ タイヤ空気圧の点検

安全運転のために、タイヤの空気圧と使用するタイヤの選択は取扱説明書に従ってください。

タイヤは、走行すると温まって空気圧が上がるため、走行前のタイヤが冷えているときにタイヤゲージを使用して、規定の空気圧になっているか点検します。規定値を外れている場合は、適正な空気圧に調整してください。



また、最大積載量をこえると、タイヤの損傷につながったり、お車をコントロールできなくなったりするおそれがありますので注意してください。

運転する前に、次の表を参考に、乗車人数にあったタイヤの空気圧になっているか確認してください。

タイヤ空気圧

1人乗車時	前	250 kPa
	後	290 kPa
2人乗車時	前	250 kPa
	後	290 kPa

空気圧が下がると、曲がりにくくなるだけでなく、タイヤの摩耗が早くなります。逆に、空気圧が高いとタイヤと路面の接地面が小さくなるため、すべて転倒する原因になります。

アドバイス

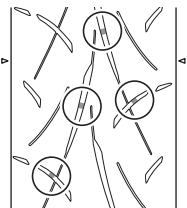
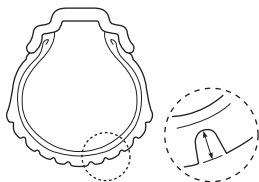
チューブレスタイヤは、タイヤに穴が開くと空気が抜けてしまいますので、タイヤの空気圧が下がったときは、タイヤに釘などが刺さっていないか、リムが損傷していないかを確認してください。

■ タイヤ溝の深さの点検

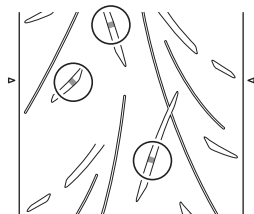
タイヤの状態や種類は、お車の性能に影響します。タイヤに亀裂や損傷などの異常があると、お車をコントロールできなくなるおそれがあります。摩耗したタイヤは、ハンドリング特性が変わるだけでなく、パンクしやすくなりますのでご注意ください。

運転前に、タイヤの状態を確認してください。使用限度近くまで摩耗しているときは、安全に走行するために早めのタイヤ交換をおすすめします。

溝の深さは、前1.6 mm、後2.0 mm以上が望ましいです。ウエアインジケータが路面に接触するようになったら、タイヤの摩耗限界に到達したことを示していますので、タイヤを交換してください。



前輪ウエアインジケータ



後輪ウエアインジケータ

▲ 警告

この車は、チューブレスタイヤを使用しています。チューブレスタイヤはチューブタイヤと扱いが違いますので、安全のために以下の内容を守ってください。

- チューブレスタイヤは、タイヤとホイールのビードとの間に気密性が必要です。タイヤとホイールの損傷を防ぐために、タイヤの取り付け、取り外しには、特殊な工具が必要です。
- チューブレスタイヤのパンク修理には、一度タイヤを取り外し、内側からパッチを貼ります。

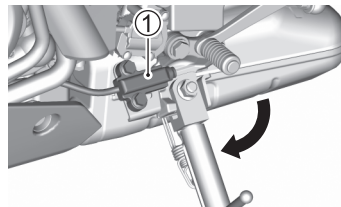
- タイヤの外側からパンクの穴に差しして修理する修理キットを二輪車に使うと、コーナリング時に抜けるおそれがありますので使わないでください。
- 修理したタイヤは、修理部の劣化や空気圧低下の原因になる発熱を防ぐために、最初の24時間は80 km/hまでにしてください。
- タイヤ側面がパンクしたり、トレッド部が6 mm以上のパンクをしたときは、修理できませんので、タイヤを交換してください。

サイドスタンド/インタロックシステム

■ サイドスタンド/ インタロックシステムの点検

次の手順でサイドスタンド/インタロックシステムが正常であるか点検します。

1. サイドスタンドを外して乗車します。
2. ギヤを1速に入れて、クラッチレバーを完全に握り、エンジンを始動します。
3. クラッチレバーを握ったままでサイドスタンドを出します。



① サイドスタンドインタロックスイッチ

- サイドスタンドを出したときにエンジンが停止するようならサイドスタンド/インタロックシステムは正常に機能しています。
- ギヤが入っている状態でスタンドを出したときにエンジンが停止しないようならサイドスタンド/インタロックシステムは適切に動作していません。スズキ販売店で点検を受けてください。

ヒューズ

■ 概要

電装部品は、大きな負荷がかかっても破損しないようにヒューズで保護されています。電装部品が動かないときは、ヒューズが切れていないかを確認してください。

▲ 警告

指定容量を超えるヒューズや針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

配線の過熱、焼損の原因となるので使用しないでください。原因が分からないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

— 注記 —

お車に適さない電装品類（ランプ、計器など）を取り付けるとヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こしたりすることがあります。

電装品類を取り付けるときは、スズキ純正用品をご使用ください。

— 注記 —

洗車時、ヒューズのまわりに水を強くふきつけると、配線の中に水が入り、腐食やショートの原因になります。

ヒューズのまわりは、水を強く吹きつけないように注意してください。

■ メインヒューズ、ヒューズ

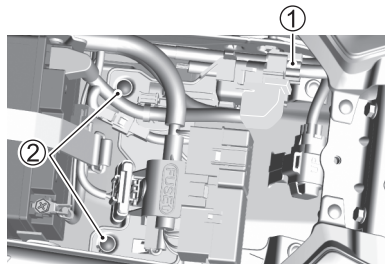
各ヒューズはフロントシートの下側にあります。

次の手順で各ヒューズを点検します。

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. フロントシートおよびリヤシートを取り外します。

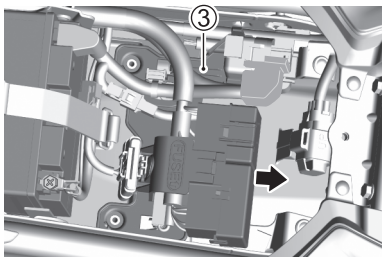
 「シート」(P.254)参照

3. スタータリレーコネクタ①を外します。
4. エレクトリックパーツホルダのスクリュ②を外します。

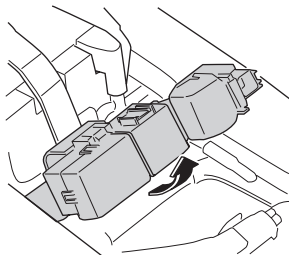


お車の点検および簡単な整備

5. エレクトリックパーツホルダ ③ を少し浮かせながら車両後方にスライドさせフックを外します。

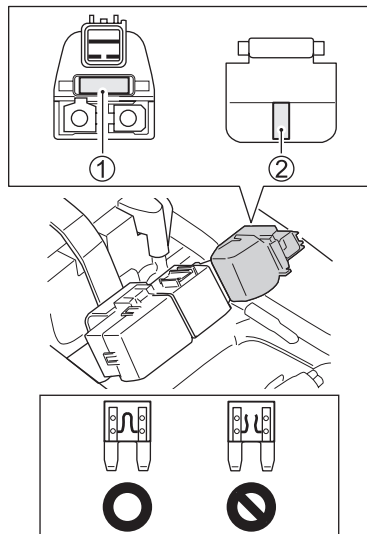


6. エレクトリックパーツホルダを下図の様に起こしてから各ヒューズを点検します。



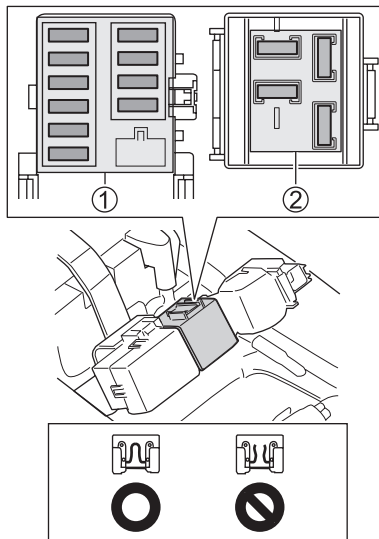
メインヒューズ

1. スターターリレーボックスのカバーを外し、ヒューズ①を抜いて点検します。
2. 切れている場合は原因を確認後、スペアヒューズ②と交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。



ヒューズ

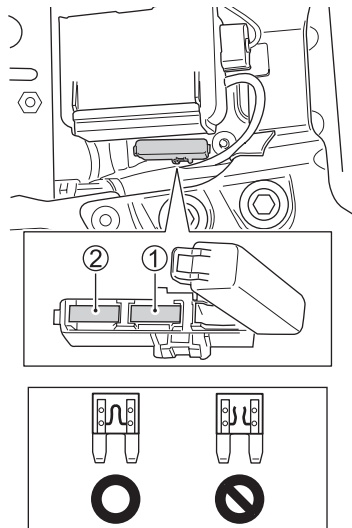
1. ヒューズボックスカバーを取り外し、
2. ヒューズ①を抜いて点検します。
3. 切れている場合は原因を確認後、同じアンペアのスペアヒューズ②と交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。



■ ETCヒューズ

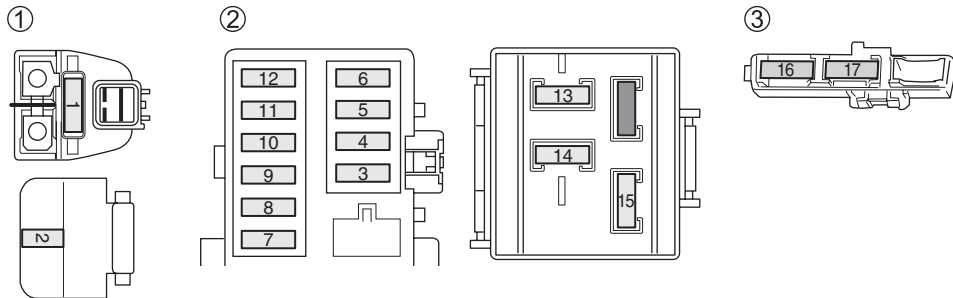
次の手順でETCヒューズを点検します。

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. リヤシートを取り外します。
☞「リヤシートとシートロック」(P.256)参照
3. ヒューズボックスカバーを開き、ヒューズ①を抜いて点検します。
4. 切れている場合は原因を確認後、スペアヒューズ②と交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。



■ ヒューズリスト

次の表は、各ヒューズが保護する主な接続装置を表しています。



- ① スターターリレーボックス（メインヒューズ）
- ② ヒューズボックス
- ③ ETCヒューズ

位置	表示	容量	主な接続先
1	MAIN	30 A	・すべての電気回路
2	SPARE	30 A	-
3	HEAD-LO	10 A	・ヘッドランプ(ロービーム)
4	HEAD-HI	10 A	・ヘッドランプ(ハイビーム) ・スピードメータ
5	ABS-MOTOR	20 A	・ABS
6	ABS-VALVE	15 A	・ABS
7	OPTION	10 A	・オプション ・パワーソース
8	IGNITION	10 A	・クーリングファンリレー ・フューエルポンプリレー ・2次エアソレノイド ・ECM ・サイドスタンドリレー ・O2 センサ ・イモビライザ ・ABS ・C.P.ソレノイド

位置	表示	容量	接続先名称
9	SIGNAL	10 A	・ポジションランプ ・ストップランプ ・テールランプ ・ライセンスランプ ・ターンシグナルランプ ・スピードメータ ・ホーン
10	PARK	10 A	・ポジションランプ ・テールランプ ・ライセンスランプ
11	FAN	15 A	・クーリングファンモータ
12	FUEL	10 A	・スピードメータ ・フューエルポンプ ・ECM
13	SPARE	15 A	-
14	SPARE	20 A	-
15	SPARE	10 A	-
16	SPARE	1 A	-
17	ETC	1 A	・ETC

灯火装置、方向指示器

■ LED（発光ダイオード）

この車の灯火装置や方向指示器には、LEDを使用しています。

LEDを使用したランプは非分解式のため、LEDのみの交換はできません。もし、LEDが1つでも点灯しなくなった場合は、スズキ販売店にご相談ください。

ヘッドランプH/L		LED
ポジション		LED
ストップ/テール		LED
ターンシグナル	前	LED
	後	LED
ライセンス		LED

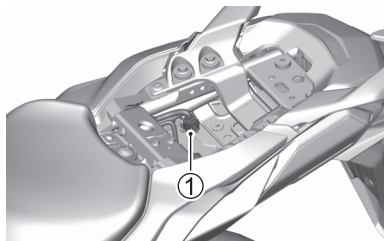
故障診断カプラ

■ 故障診断カプラ

故障診断カプラ①はリヤシート下にあります。

アドバイス

故障診断カプラは、販売店などでの整備時に使用します。



メ 毛

トラブルシューティング

トラブルシューティングとは

トラブルシューティングには、一般的なトラブルの原因を見つけるための情報をのせています。

お車に不具合や違和感を感じたときは早めにスズキ販売店にご相談いただくことをおすすめします。

注記

不適切な整備や調整は、お車の損傷の原因となり、保証を適用されない場合があります。

不明な点がある場合は、スズキ販売店にご相談ください。

エンジンがかからないときは

次の点を確認してください。

- 始動手順は手順通りですか？
☞ 「エンジンのかけかた」(P.231)
- フューエルタンクに燃料は入っていますか？
☞ 「ガソリンの給油」(P.238)
- エンジン警告灯 (MIL) は点灯したままになっていませんか？
☞ 「エンジン警告灯(MIL)」(P.59)

- イモビライザ警告灯は点灯したままになっていませんか？
☞ 「イモビライザ」(P.223)
 - バッテリー端子がゆるんでいませんか？
☞ 「バッテリー」(P.326)
 - ヒューズが切れていませんか？
☞ 「ヒューズ」(P.388)
- 異常がある場合はスズキ販売店にご相談ください。

オーバーヒートしているときは

アドバイス

エンジンがオーバーヒートすると、インジケータ類が同時に次の状態になってお知らせします。

- 水温計①がHIを表示して点滅
- 水温警告灯②が点灯



水温警告灯が点灯したら安全な場所に停車して、次の点を確認し、必要に応じた処置を行ってください。

1. メインスイッチを**OFF**にして、エンジンをとめます。
2. メインスイッチを **ON** にし、ラジエータファンを作動させてエンジンを冷やします。
ラジエータファンが作動しない場合はエンジンをかけずにスズキ販売店にご相談ください。

3. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やホースなどからの水漏れがないかを確認します。
 - 水漏れしているときは、エンジンをかけずにスズキ販売店にご相談ください。
 - 水漏れしていなくて、冷却水の量が不足しているときは冷却水を補充します。やむをえず水だけを補充した場合は、できるだけ早くスズキ販売店で冷却水の点検または交換をしてください。
4. 確認して異常がない場合は、水温警告灯が消灯すれば走行可能です。お車に不具合がないかを、できるだけ早くスズキ販売店で点検を受けてください。

注 記

オーバーヒートしている状態で走行するとエンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

水温警告灯が点灯した状態で走行しないでください。

油圧が下がっているときは

油圧警告灯①が点灯したら安全な場所に停車して、次の点を確認し、必要に応じた処置を行ってください。



1. メインスイッチを**OFF**にして、エンジンをとめます。
2. エンジンオイル量が適切であるか点検します。エンジンオイル量が不足している場合は補充してください。

3. エンジンをかけます。
 - 油圧警告灯が消灯したら走行可能です。
 - 油圧警告灯が消灯しない場合はエンジンをとめてスズキ販売店にご相談ください。
4. オイルが減っている場合は、エンジンが故障しているおそれがありますのでスズキ販売店で点検を受けてください。

注記

エンジンの油圧が低下している状態で走行すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。




油圧警告灯が点灯した状態で走行しないでください。

メータに次の表示が出たときは

メータに次の表示が出たときは、スズキ販売店にご相談ください。

- エンジン警告灯(MIL)が点灯したとき
☞ 「エンジン警告灯(MIL)」(P.59)
- 故障診断表示にFIを表示したとき
☞ 「故障診断表示」(P.90)
- 故障診断表示のCHECK表示が消えないとき
☞ 「故障診断表示」(P.90)
- メインスイッチを**ON**にしたときに、ABS警告灯が点灯しないとき
☞ 「ABS警告灯 (ABS)」(P.64)
- ギヤポジション表示がニュートラルのときに、ニュートラルインジケータライトが点灯しないとき
☞ 「エンジンをかける前に」(P.231)
- ギヤポジション表示が1、2、3、4、5、6のときに、ニュートラルインジケータライトが点灯するとき
☞ 「エンジンをかける前に」(P.231)
- ギヤポジション表示に数字が表示されない。
☞ 「ギヤポジション表示」(P.71)
- トラクションコントロールを設定しているときに、走行中に消灯していたTCインジケータライトが点灯したとき
☞ 「TCインジケータライト」(P.57)

お車が次の状態のときは

- サービスリマインダ表示が点灯したとき
 「サービスリマインダ表示」(P.74)
- 水温警告灯が点灯し、エンジンが冷えても消灯しないとき
 「オーバーヒートしているときは」(P.400)
- エンジンオイルが適量なときに、油圧警告灯が点灯したとき
 「油圧が下がっているときは」(P.402)

お車が次の状態のときは、スズキ販売店にご相談ください。

- エンジンが始動しないとき
- 転倒したとき
- 異音や液漏れがあるとき
- エンジンの出力が落ちたときや出ないとき
- ブレーキ液の液面が下がったときやブレーキ液やパッドを交換するとき
- ブレーキの効きが悪くなったとき
- 冷却水の液面が下がったときや交換するとき
- ヒューズが切れた原因が分からないとき
- タイヤが限度溝まで減ったときや交換するとき

お車の手入れ

保管のしかた

■ 概要

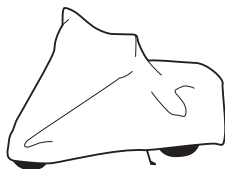
お車に長期間乗らないときには、保管する前に十分なお手入れが必要です。次にあげるお手入れをしましょう。

📌アドバイス

ご自身で行うのが難しいときは、スズキ販売店にご相談ください。

■ 車体

お車は、倒れにくい平坦な場所に駐車してください。もし、メインスタンドを装備している車の場合は、メインスタンドで駐車してください。保管する前には洗車し、乾燥させた後にボディカバーをかけてください。



📌アドバイス

ボディカバーは、エンジン、エキゾーストパイプやマフラが冷えてからかけてください。

■ バッテリー

1. 「バッテリー」(P.326)の項目を参考に、バッテリーを取り外します。
2. バッテリーの外側を清掃するときは中性洗剤でふき、端子が腐食しているときはワイヤーブラシなどでサビを落としてください。
3. 気温が低いときは、室内で保管してください。

アドバイス

バッテリーは、自己放電と電気漏れを少なくするため、車から外し、完全充電して室内か風通しのよい暗い場所に保存してください。車に積んだまま保存する場合は(一)ターミナルを外してください。

充電については、スズキ販売店にご相談ください。

長期保管後は

■ タイヤ

タイヤの空気圧は規定圧に調整してください。必要に応じてメンテナンス用スタンドなどを使用して前輪と後輪を地面から浮かせてください。

アドバイス

前輪と後輪を地面から浮かせる方法については、スズキ販売店にご相談ください。

■ 再始動の手引き

1. ボディカバーを外し、洗車します。
2. スズキ販売店でエンジンオイルとオイルフィルタを交換します。
3. 「バッテリー」(P.326)の項目を参考に、バッテリーを取り付けます。
4. 「注油」(P.324)の項目を参考に、注油します。
5. 日常点検を実施します。
6. エンジンをかけます。

サビを防ぐために

■ サビの原因

お車のサビを防いで、長持ちさせるためにお手入れしましょう。

次のものは腐食の原因となります。

- 海岸や凍結防止剤をまいた道路などの塩分、未舗装走行による飛び石などによる傷、湿気、化学物質の蓄積など
- 軽い事故や石や砂利が当たったときの金属部品や塗装面への傷など

■ サビにくくするためには

- 少なくとも月に1回は、洗車しましょう。また、洗車後はきれいなやわらかい布で水分をふきとってください。
- お車に凍結防止剤、化学薬品、油やタール、樹液、鳥のふんなどが付着するとお車の外観を悪くするだけでなく、サビなどの原因になりますので、付着したときはできるだけ早く取り除いてください。水で落ちない場合には、クリーナを使用してください。特別なクリーナを使用するときには、クリーナの取扱い方法をよくお読みください。

お車の手入れ

- お車に傷を見つけたら、できるだけ早く直してください。塗装面より深い傷はサビの原因になりますので、飛び石やひっかき傷を見つけたときはよく確認してください。サビのおそれがあるときには、タッチアップペイントで補修してください。傷がひどいときは、スズキ販売店にご相談ください。
- お車の保管場所は、乾燥していて換気の良い場所が理想的です。ガレージで洗車したり濡れたりしたまま保管することが多いと、ガレージの湿度が上がリサビの発生や進行の原因になるおそれがあります。また、換気の悪いガレージに濡れた車を停めた場合には、ガレージの中が暑くてもサビが発生するおそれがあります。
- 駐車するときは、お車にボディカバーをかけましょう。日中の強い日差しにさらされると、塗装面、プラスチック部品、メータなどの着色部品の色あせの原因になります。お車を有害な紫外線などから守るために、品質の良い、通気性に優れたカバーをご使用ください。適切なカバーの選び方が分からない場合には、スズキ販売店にご相談ください。

🔧アドバイス

保管前に各部のワックスがけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。

洗車

■ 車体

お車を長持ちさせるためにも、きれいな状態に保ちましょう。異常などが早く発見でき、故障予防にもなります。なお、洗車はエンジンが冷えているときに行いましょう。

洗車は、次の手順で行ってください。

1. 冷たい水道水をかけながら、やわらかいスポンジやブラシでホコリや泥を落とします。硬いブラシなどを使うと塗装面に傷を付ける原因になりますので使用しないでください。
2. スポンジややわらかい布を使って、中性洗剤で洗います。スポンジや布に付いた汚れで傷を付けないためにも、頻繁に洗浄液に浸しましょう。

Ⓐアドバイス

海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分をふき取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。

お車の手入れ

3. 汚れが完全に取れたら、大量の水道水で洗剤を洗い流します。

アドバイス

洗剤を使用して洗車したときに、洗剤が洗い流せていなかった場合には樹脂部品に悪影響を与えるおそれがあります。洗剤を使用したときは、大量の水道水を使用して完全に洗い流してください。

4. すすぎ終わったら、セーム革などの吸水性のよいやわらかい布で水分をふき取り日陰で乾燥させます。

5. 塗装面に損傷がないかを注意深く点検します。損傷があるときは、タッチアップペイントを用意し、下記要領でタッチアップします。
- a. 損傷している箇所を清掃し乾燥させます。
 - b. ペイントをかき混ぜ、損傷部分に小さいブラシで薄く塗ります。
 - c. ペイントを完全に乾燥させます。

▲警告

フェアリングとハンドルの間に物を置き忘れるとハンドル操作に悪影響を与えるおそれがあります。

清掃時にフェアリングとハンドルの間に物を置かないでください。

注記

洗車時、マフラ、エアクリーナや電装品に水が入ると始動不良やサビ発生の原因となります。

洗車時には、水が入らないように注意してください。

注記

アルカリ性や強酸性のクリーナ、ガソリン、ブレーキフルード、その他のケミカル類で洗車すると部品を損傷させるおそれがあります。

洗車後、大量の水道水を使用し中性洗剤を完全に洗い流してください。

注記

コイン式の洗車場にあるような高圧洗浄機やスチーム洗車機を使用すると車体に損傷をあたえ、サビや腐食の原因になるだけでなく、部品の消耗を早めるおそれがあります。また、パーツクリーナも車体に悪影響をおよぼすおそれがあります。

洗車をする場合は高圧洗浄機を使用しないでください。また、スロットルボディやフューエルインジェクションセンサにパーツクリーナを使用しないでください。

注記

ラジエータに高圧の水をかけると、冷却フィンが損傷するおそれがあります。

ラジエータ周辺を洗うときには、注意してください。

アドバイス

下記の場所には水を噴射したり、流したりしないでください。

- メインスイッチ
- スパークプラグ
- フューエルタンクキャップ
- フューエルインジェクションシステム
- ブレーキマスターシリンダ

🔧アドバイス

洗車後や雨天走行後にヘッドランプのレンズが曇ることがあります。この場合は、ヘッドランプを点灯することで曇りは徐々に消えます。バッテリーあがりを防ぐために、エンジンをかけながらヘッドランプを点灯させてください。

■ ホイール

アルミホイールは、塩分などの汚れを嫌います。アルミホイールの美しさを保つため、定期的に（週に一度くらい）清掃しましょう。

1. 中性洗剤をスポンジに含ませて、汚れを落とします。
2. 十分に水洗いをして、乾いた布で水分をふき取ります。

🔧アドバイス

アルミホイールは、傷がつきやすいため、みがき粉、硬いブラシや金属タワシなどの硬いものでこすったり、当てたりしないでください。

■ プラスチック製部品

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイ、ウィンドスクリーン、フェアリングなどのプラスチック製部品は傷つきやすいので、清掃するときは中性洗剤または石けん水で洗った後、水洗いし、やわらかい布でふいてください。

注記

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイ、ウィンドスクリーンなどのプラスチック製部品に、以下のものが付着すると傷や部品の損傷の原因になります。

- コンパウンド入りワックス
- 油膜とり剤やはっ水剤などのケミカル用品
- 酸性・アルカリ性の洗剤
- プレーキ液、ガソリン、アルコール、有機溶剤など

■ エキゾーストパイプ

ステンレス鋼のエキゾーストパイプは、油脂などの汚れにより焼けむらが生じることがあります。

- 汚れは、ステンレス用の台所洗剤を使って、布かスポンジで洗浄ののち、十分に水洗いし乾いた布で水分をふき取ります。
- 焼けむらが生じた場合は、ステンレススチールマフラークリーナー（品番99000-59312）などで磨いてから、汚れを落とします。

注記

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

冷めるまでは触れないように、注意してください。

アドバイス

排気熱によってエキゾーストパイプは変色しますが、機能上問題はありません。

■ ワックスがけ

洗車後は、サビ予防や塗装面の保護のためにワックスがけを行ってください。

- ワックスとポリッシャーは、品質のいいものを使用してください。
- ワックスとポリッシャーは、そのメーカーの取扱説明書に従って行ってください。

■ つや消し塗装

つや消し塗装の車両は、次の注意事項をお守りください。

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 固形ワックスは、ふき取りが困難になることがあります。
- つや消し塗装専用のクリーナを使用してください。
- 使用中の摩擦や、表面を擦り過ぎたり強く磨いたりすると、つや消し表面が変化することがあります。

洗車後は

■ 洗車後のお手入れ

車体を乾燥させた後、ブレーキレバーやスタンドの取り付け部へグリースなどを注油してください。

注油する場所については、「注油ポイント」(P.324)の項目をご確認ください。

また、前回の運転時に見つかった不具合がないかを<日常点検>(P.308)の項目を参考に確認してください。

▲ 警告

洗車後はブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。

効きが悪いときは、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、効きが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。

インフォメーション

触媒装置

■ 触媒装置について

この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出ガスの有害物質の排出量を低減します。

不適切な調整や誤った取扱いによるエンジンの不完全燃焼（失火）は、触媒装置を異常な高温にするおそれがあります。触媒装置および他の関連部品が損傷する原因になりますのでご注意ください。

触媒装置に特別な点検や整備は必要ありませんが、エンジンは定められた点検、整備を実施してください。

注記

触媒装置および他の関連部品の損傷を避けるために、次の注意事項をお守りください。

- 必ず無鉛ガソリンを使用してください。
- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチを操作して、エンジンを停止しないでください。
- 押しがけや下り坂を利用してのエンジンの始動を行わないでください。
- 診断テスト中などで、スパークプラグワイヤを取り外した状態でエンジンを始動しないでください。
- 不要な空ぶかしや長時間のアイドリングは行わないでください。

車両の情報記録装置

- フューエルタンク内のガソリンを使い切ること（ガス欠）のないようにしてください。
- エンジンの性能の低下や不調を感じたときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

■ 情報記録装置について

お車には、車両の制御や操作に関するデータを記録するコンピュータが装備されており、主に次のデータを記録します。

■ データの種類について

- エンジンの回転数など、エンジンの状態
- ギヤポジションなど、変速機の状態
- アクセル、ブレーキ(ABS含む)、ギヤポジションなどの操作状態
- 各種コンピュータシステムの故障に関する情報

アドバイス

- お車のタイプにより、記録されるデータは異なります。
- 音声は記録していません。
- 使用条件などにより、データが記録されない場合があります。

■ データの開示について

スズキ株式会社およびスズキ株式会社が委託した第三者は、コンピュータに記録されたデータを、お車の故障診断・研究開発・品質の向上などを目的に取得・利用することがあります。なお、スズキ株式会社およびスズキ株式会社が委託した第三者は、次の場合を除き、取得したデータを第三者へ開示・提供しません。

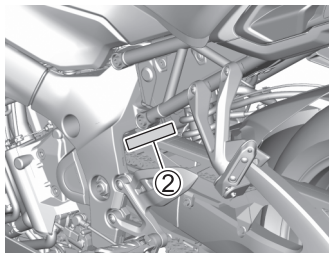
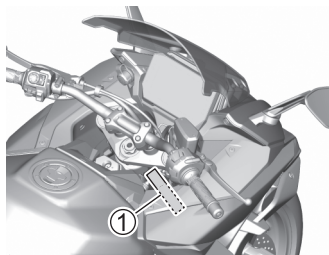
- お車の使用者の同意がある場合
- 法令、裁判所命令その他法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを、研究機関などに提供する場合

識別ナンバー打刻位置

■ 識別ナンバーについて

お車の登録書類を作るときなどの手続きのために、フレームナンバー①とエンジンナンバー②を控えておきましょう。

また、販売店で部品を注文するときに、これらのナンバーが必要になる場合があります。



■ フレームナンバー

フレームナンバー ①はステアリングヘッドに刻印されています。

今後の参照のためにフレームナンバーをここに記入してください。

機 種	GSX-S1000GT
フレームナンバー	

■ エンジンナンバー

エンジンナンバー ②はクランクケースに刻印されています。

今後の参照のためにエンジンナンバーをここに記入してください。

エンジンナンバー	
----------	--

■ キーナンバー

お車には、キーが2個と英数字のキーナンバーを印したプレートがセットされています。

アドバイス

- この車のキーは通常の機能に加え、イモビライザの役割を持っています。
- 万一破損させたり、紛失したりすると多大な費用が必要となりますので大切に扱ってください。
- スペアキーは大切に保管してください。

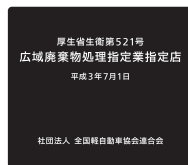
環境を保護するために

将来、車両を廃棄する場合や使用済みバッテリー、エンジンオイルなどを廃棄する場合は、地球環境を守るため、むやみに捨てないでください。お車を廃棄する場合はお近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。

◆ 廃棄二輪取扱店とは

廃棄二輪取扱店とは（社）全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪取扱店として登録されている、廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。

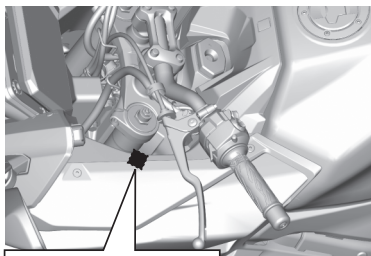
廃棄二輪取扱店には「廃棄二輪取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪取扱店の証

◆ 二輪車リサイクルマークと リサイクル料金

この車には二輪車リサイクルマークが貼り付けられています。二輪車リサイクルマークが貼り付けられている二輪車は、適正な処理を行い再資源化するための、リサイクル費用がメーカー希望小売価格および車両本体価格に含まれています。お車を廃棄する場合には、リサイクル料金はいただきません。ただしお車の運搬、収集費用はおお客様のご負担となります。運搬、収集費用につきましては、お近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。



◆ 二輪車リサイクルマークの取扱い

お車を廃棄する場合には、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行および部品販売の取扱いはありません。

リサイクルマーク対象車両かどうか不明の場合は、次のホームページおよびコールセンターでご確認ください。

◆ 廃棄二輪車に関するお問合せについて

廃棄二輪車に関するお問合せは、お近くの廃棄二輪取扱店または下記までお問合せください。
(財)自動車リサイクル促進センター

ホームページ： <https://www.jarc.or.jp/>

サービスデータ

主要諸元

項 目		諸 元
長 さ		2,140 mm
幅		825 mm
高 さ		1,215 mm
軸 距		1,460 mm
車 両 重 量		226 kg
乗 車 定 員		2人
タイヤサイズ	前	120/70ZR17M/C (58W)
	後	190/50ZR17M/C (73W)
最 小 回 転 半 径		3.1 m
エ ン ジ ン 形 式		4サイクル・4気筒
冷 却 方 式		水冷
燃 料 供 給 方 式		フューエルインジェクション

項 目	諸 元
総 排 気 量	998 cm ³
内 径 × 行 程	73.4×59.0 mm
アイドリング回転速度	1,150 r/min
最 高 出 力	110 kW/11,000 r/min
最 大 ト ル ク	105 N·m/9,250 r/min

項 目		諸 元
ク ラ ッ チ 形 式		湿式・多板・ コイルスプリング式
トランスミッション		常時噛合式6段リターン
減 速 比	1次	1.553
	2次	2.588
変 速 比	1速	2.562
	2速	2.052
	3速	1.714
	4速	1.500
	5速	1.360
	6速	1.269
ブレーキ形式	前	ダブルディスク
	後	シングルディスク

項 目	諸 元
フューエルタンク 容量	19 L
点 火 方 式	フル・トランジスタ式 バッテリー点火

サービスデータ

サービスデータ

項目	調整値
ドライブチェーンのゆるみ	20~30 mm

タイヤ 空気圧	1人乗車時	前	250 kPa
		後	290 kPa
	2人乗車時	前	250 kPa
		後	290 kPa

エンジン オイル量	オイル交換時	2.8 L
	オイルフィルタ 交換時	3.2 L
	全容量	3.4 L

スパーク プラグ	種類	NGK	CR9EIA-9
		DENSO	IU27D
	ギャップ	0.8~0.9 mm	

項目	調整値	
バッテリー	種類	FT12A-BS メンテナンスフリー
	容量	12 V-10 Ah

ランプ	ヘッドランプ H/L	LED	
	ポジション	LED	
	ストップ/テール	LED	
	ターン シグナル	前	LED
		後	LED
ライセンス	LED		

ヒューズ	1 A, 10 A, 15 A, 20 A, 30 A
------	--------------------------------

- Apple、Appleのロゴ、Mac OSは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- App Storeは、Apple Inc.のサービスマークです。
- Google、Android、Google Playは、Google LLC の商標または登録商標です。
- iPhone商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- Wi-Fiは、Wi-Fi Allianceの登録商標です。
- “QRコード” は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

サービスデータ

本機種¹のメータはオープンソースソフトウェアが含まれております。
ライセンスは下記リンクでご覧いただけます。

https://www.globalsuzuki.com/motorcycle/ipc/oss/oss_48KA_00.pdf



メ 毛

メ 毛